

みんなくファクトブック

FACT BOOK 2022



Contents

1 組織 2

- 1-1 国立民族学博物館のミッションと特徴 2
- 1-2 組織の概要 3
- 1-3 構成員の一覧 9

2 研究 13

- 2-1 令和4年度の研究業績 13
- 2-2 研究出版活動 14
 - 館内の出版物 14 / 本館助成による館外出版物 15 / みんなく映像民族誌 15
- 2-3 みんなくで実施した研究プロジェクト 15
 - 特別研究 15 / フォーラム型人類文化アーカイブズプロジェクト 19
 - 公募型共同研究 24 / 文化資源プロジェクト 28 / 情報プロジェクト 29
- 2-4 外部資金による研究 30
 - 科研費による研究プロジェクト 30 / 民間助成などによる研究プロジェクト 32
- 2-5 人間文化研究機構 基幹研究プロジェクト 33
 - 広領域連携型 基幹研究プロジェクト 33
 - ネットワーク型 基幹研究プロジェクト 35
- 2-6 人間文化研究機構 共創先導プロジェクト 39
 - 共創促進研究 39
- | TOPIC | 若手研究者育成の取り組み 33

3 共同利用 40

- 3-1 国内における研究連携 40
 - 国内学術協定 40 / 共同利用型科学分析室 41
- 3-2 研究員制度 42
 - 外来研究員 42 / 特別共同利用研究員 44
- 3-3 資料の収集と利用 44
 - 標本資料および映像・画像・音響資料 44 / 文献図書資料 48 / データベース 51
 - 民族学研究アーカイブズ 53 / 学術情報リポジトリ 55

4 展示

56

- 4-1 本館展示 56
- 4-2 特別展示・企画展示等 60
- 4-3 公募型メディア展示 60
- | TOPIC | 展示場のユニバーサル化の取り組み 57

5 国際連携

61

- 5-1 海外研究機関との学术交流協定 61
- 5-2 「博物館とコミュニティ開発」コース 63
- | TOPIC | パコバンパ遺跡における墓
(通称「プトゥート(巻き貝)神官の墓」)の発見 63

6 社会連携

65

- 6-1 受託事業 65
- 6-2 学校教育・社会教育活動 66
 - 大学等授業利用 66 / キャンパスメンバーズ 67 / 貸出用学習キット「みんなぱつく」 68
 - 職場体験活動 71 / ボランティア活動の受入 72
- 6-3 インターネットによる情報発信 72
 - ホームページ 72 / メールマガジン 73 / SNS 73
- 6-4 開催イベント 75
 - 公開講演会 75 / みんなぱくゼミナール 75 / みんなぱくウィークエンドサロン 76
 - 研究公演 77 / みんなぱく映画会 78 / ワークショップ 79
 - イベント開催件数と参加者数の推移 80

7 産学連携

81

産学連携活動の実施状況 81

民間企業との共同研究 81 / 知的財産形成・特許出願 81

8 大学院教育

82

総合研究大学院大学 82

8-1 教員数・在籍学生数 82

8-2 入学・志願状況 84

8-3 学生支援状況 86

8-4 退学者 88

8-5 学位取得 88

8-6 卒業後の進路・就職 90

9 業務運営

91

9-1 収入・支出 91

9-2 自己収入と外部資金受入額の推移 92

9-3 新型コロナウイルス感染症の影響について 93

はじめに

国立民族学博物館インスティテューショナル・リサーチ室（以下、IR室）は、本館の研究、教育、共同利用、展示等に関する活動についてのデータを収集・分析することにより、館の運営機能の強化・改善に資することを目的として、2016年4月に設置されました。

本館は、人間文化研究機構の一員として6年間の中期目標に基づく中期計画及び年度計画を策定し、その実施状況について国立大学法人評価委員会の評価を受けています。また、本館独自で自己点検・評価を実施しており、本館の研究教育活動等の状況をまとめた「自己点検報告書」を作成しています。

IR室は、これらの点検・評価等において、情報の収集、分析、取りまとめ等を担っており、昨年度より「みんなくファクトブック」を作成することにしました。目的は、本館の活動に関するさまざまな数値や指標を表やグラフの形で可視化し、館内で現状を的確に把握して改善や計画策定に利用するとともに、ステークホルダーの皆様の本館の現状や取り組みについてより一層理解していただくことです。

みんなくファクトブックは、数値データについて6年間の経年変化をグラフ化することによって、これまでの傾向を端的に把握し、今後の課題を検討しやすくしています。

館員はもちろん、国立民族学博物館の活動を支援してくださるステークホルダーの皆様や活動に関心をもってくださる市民の皆様に、本ファクトブックを活用していただければ幸いです。まだ不十分な点があるかとは思いますが、今後も改良を続けていきますので、皆様からのご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2023年10月

国立民族学博物館

IR室長 宇田川 妙子

1 組織

1-1 国立民族学博物館のミッションと特徴

● ミッション

国立民族学博物館は、文化人類学・民族学及びその関連分野の調査研究を行うとともに、世界の諸民族に関する資料を収集・保管し、公開することを目的とする。また、当該分野の共同研究・共同利用の世界的な研究拠点、文化資源と研究情報の国際的集積センター、ならびに博物館機能を活かした大学や一般社会への貢献の役割を担っている。

● 特徴

● 文化人類学・民族学及びその関連分野の世界的研究拠点

世界全域を対象とする研究者より組織される文化人類学・民族学の研究所であり、大学共同利用機能・大学院教育機能を有する世界で唯一の民族学博物館である。

● 国際的研究ネットワークのハブとしての共同研究拠点

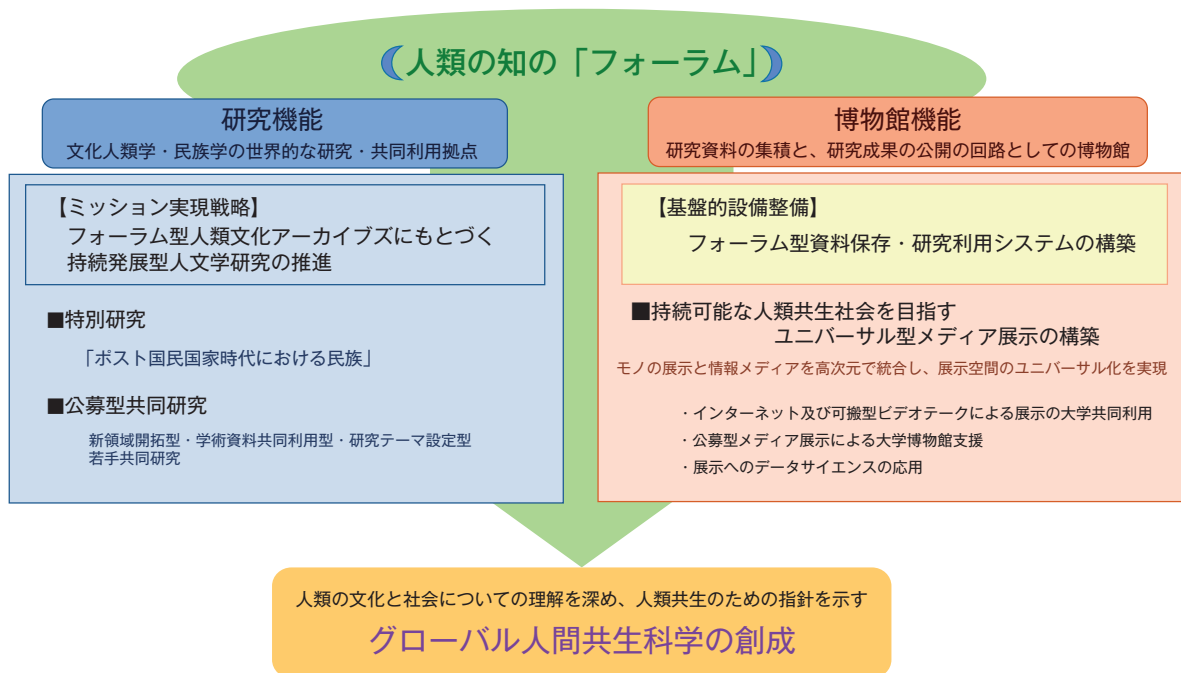
共同研究の公募と外国人研究者の受入を積極的に推進するとともに、国内外の大学・研究機関と学術協定を締結し、国際共同研究を推進している。また、文化の担い手であるソースコミュニティと研究者、そして地域社会の結節点となることで、共同研究・共同利用による文化資源情報の充実と人類の共有財産化を推進している。

● 人類の文化資源と研究情報の国際的集積センター

20世紀後半以降に築かれた世界最大規模の民族学資料、映像音響資料、図書資料のコレクションを所蔵し、整理・公開している。また、世界各地でのフィールドワークに基づく研究成果を展示によって公開している。

● 博物館機能を活かした研究成果の発信による大学・社会への貢献

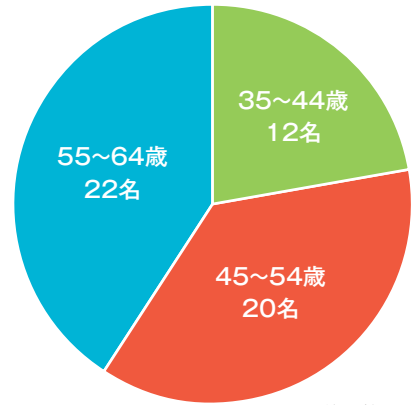
民族学資料、映像音響資料、図書資料の収集・保存・公開等の活動を通じて大学の研究・教育における機能強化や社会一般の異文化理解・国際理解の促進に寄与している。



● 組織の特徴

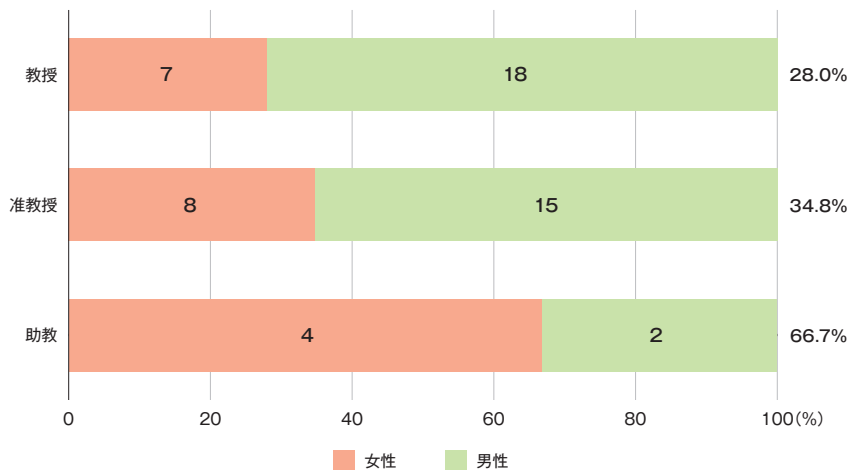
常勤教員数	55名（館長を含む）
女性	19名（34.5%）
外国人	3名（5.5%）
職員数	159名（常勤49名）
女性	126名（常勤21名）
運営費交付金	2,828百万円
敷地面積	40,821 m ²
収蔵資料数	418,322点

● 常勤教員の年齢構成（令和4年5月1日現在）



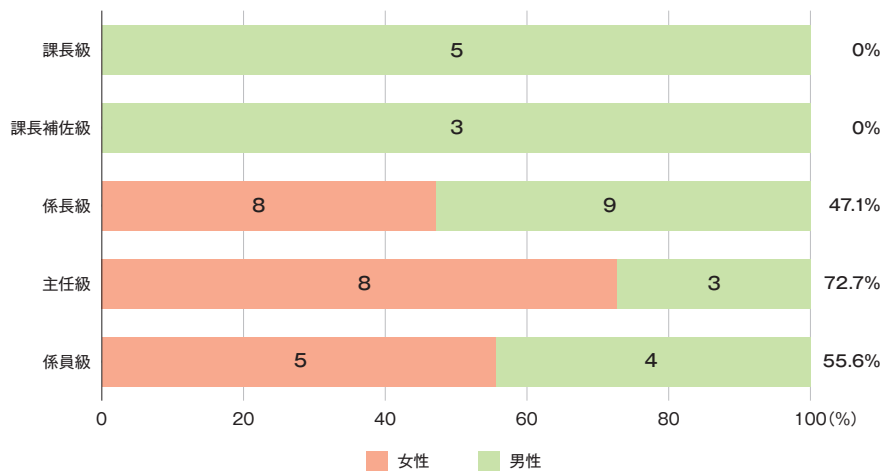
注：館長を除く

● 女性常勤教員の職位別の数と割合

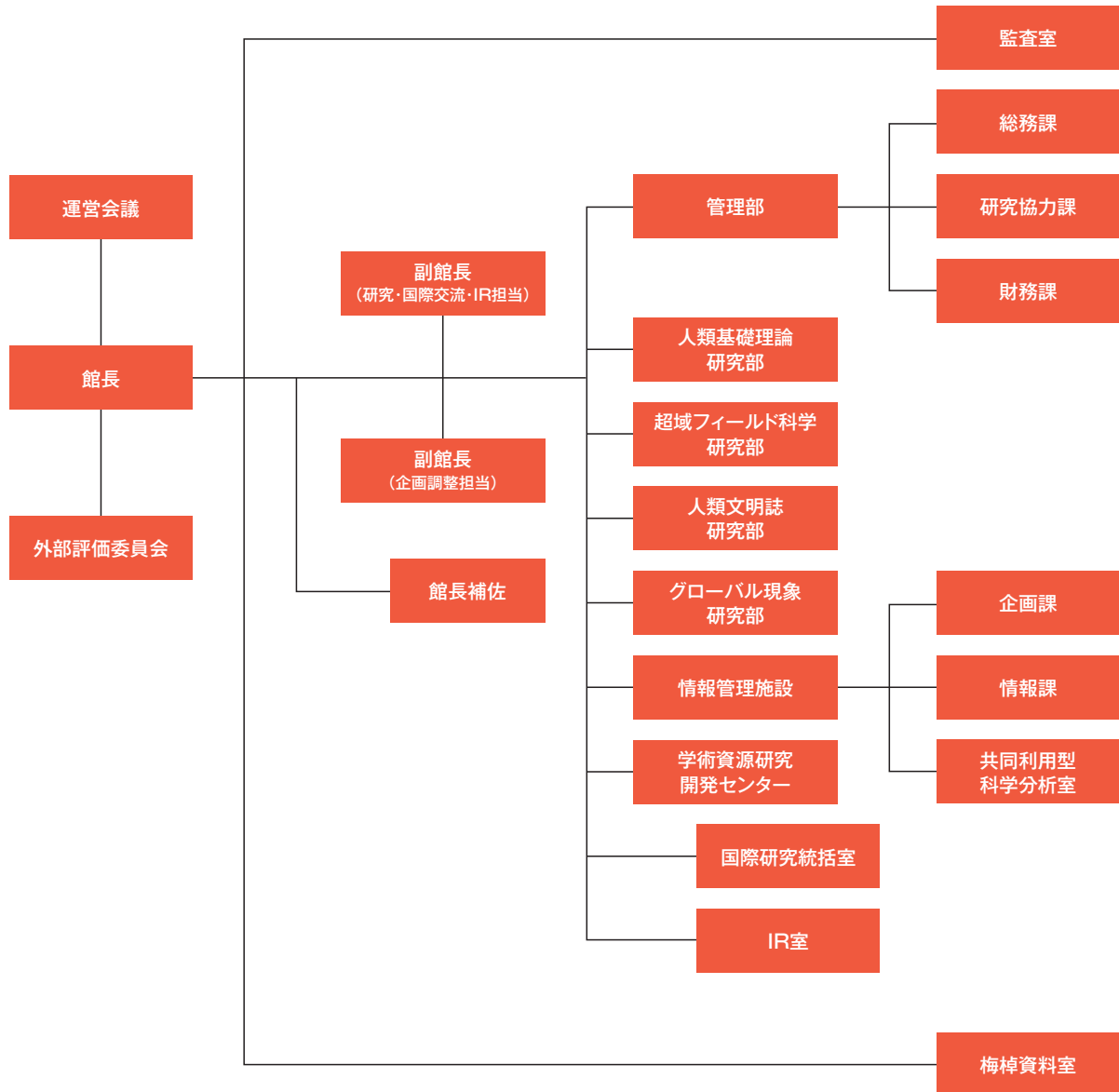


注：特任助教1名を含む。館長は含まない。

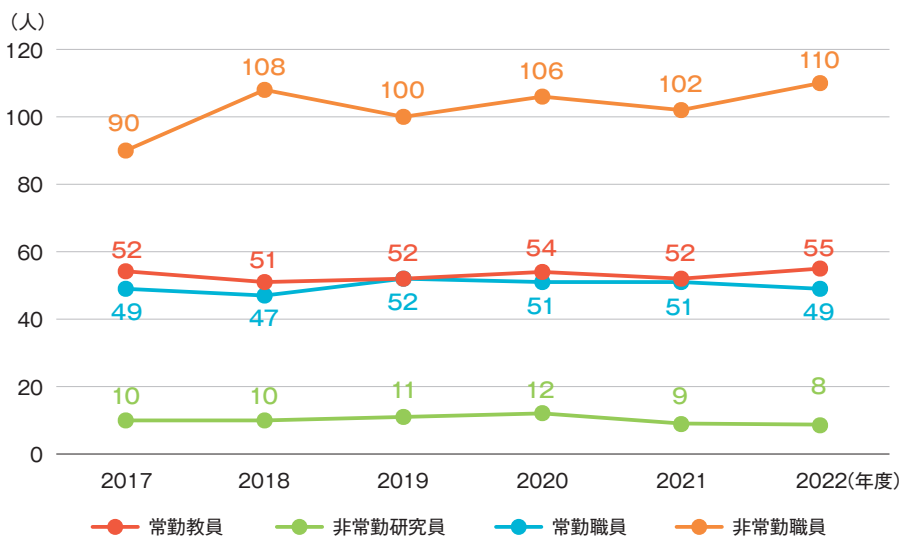
● 女性常勤職員の職位別の数と割合



● 組織構成図

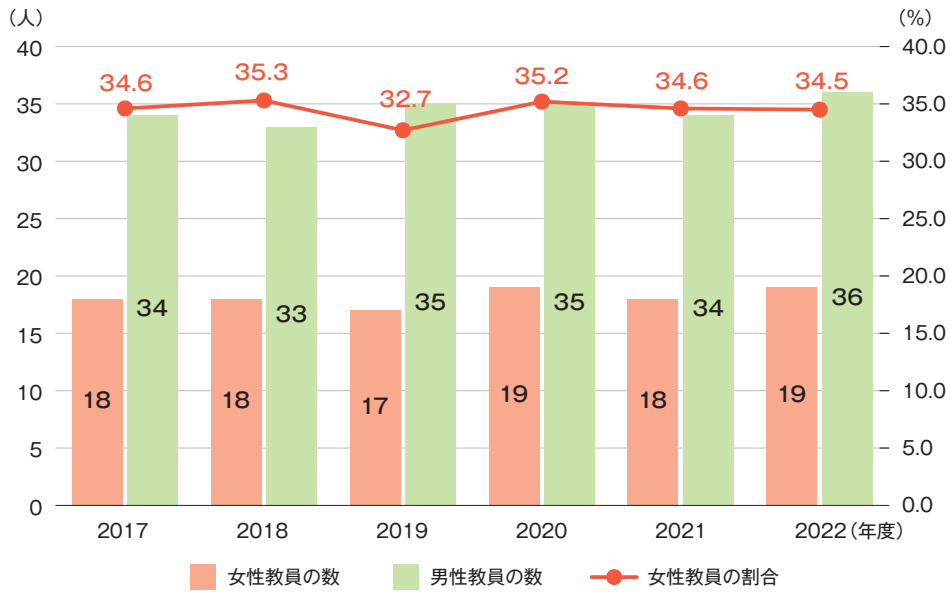


● 教職員数の推移



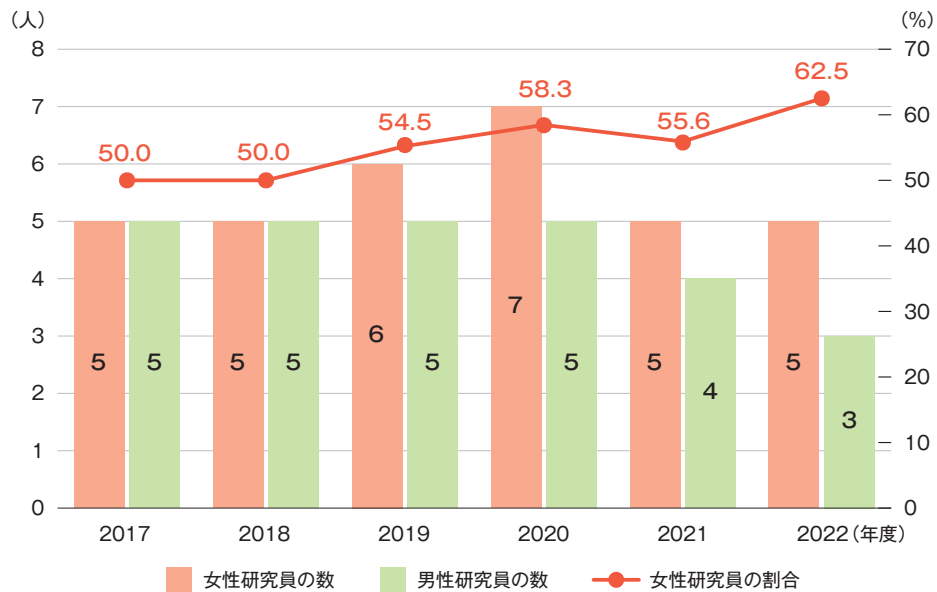
注1：非常勤研究員はその年度に在籍した研究員の総数。それ以外は5月1日時点の在籍者数
 注2：非常勤研究員に該当するのは、機関研究員およびプロジェクト研究員

● 女性教員（常勤）の数と割合



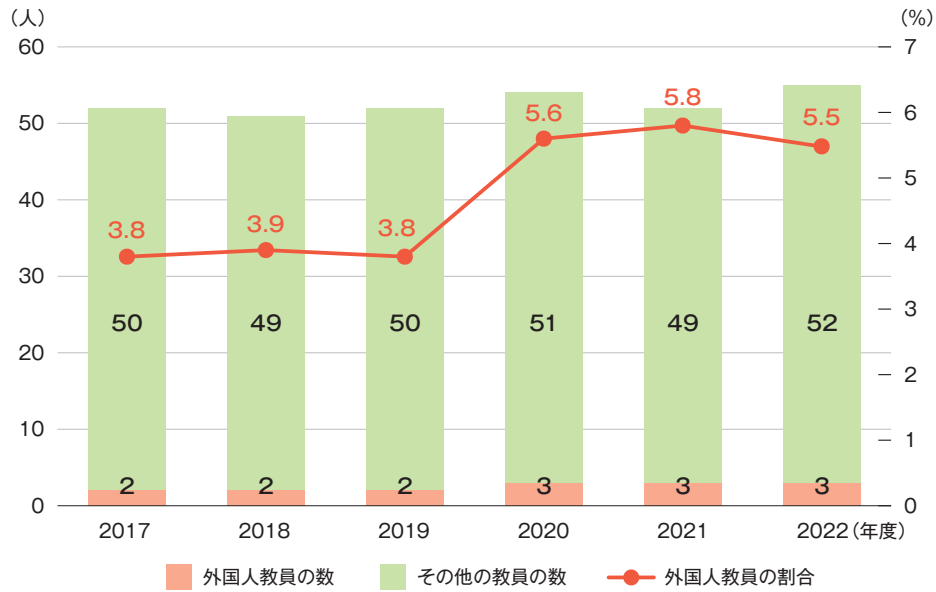
注：各年度の5月1日時点の在籍者数。館長を含む

● 女性非常勤研究員の数と割合



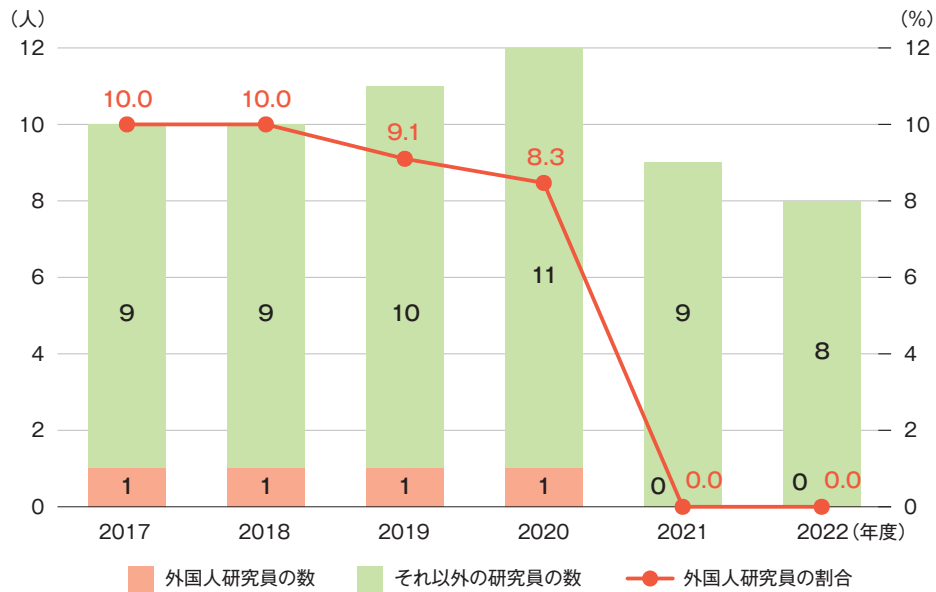
注1：非常勤研究員に該当するのは、機関研究員およびプロジェクト研究員
 注2：非常勤研究員の数は年度内に在籍した研究員の総数

● 外国人教員（常勤）の数と割合



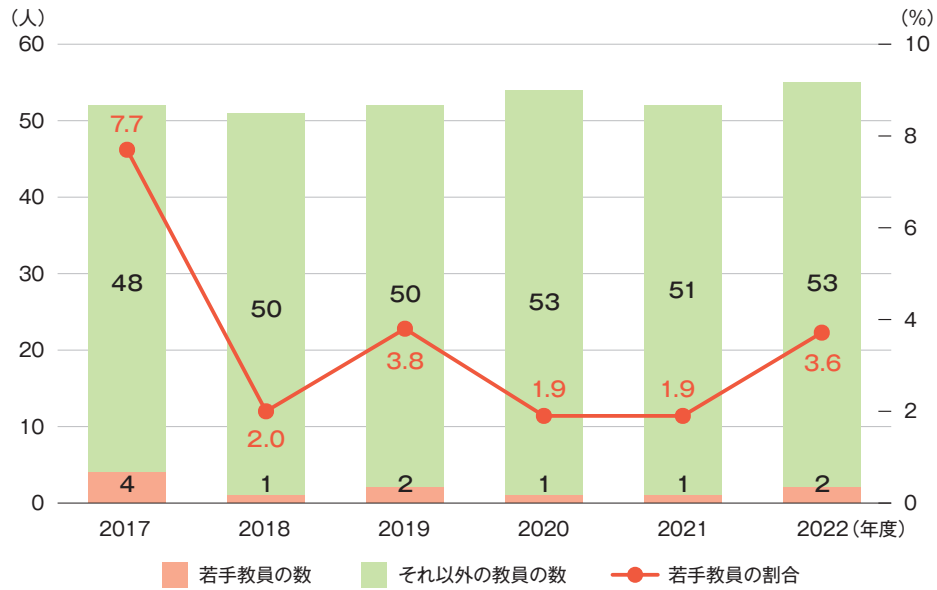
注：各年度の5月1日時点の在籍者数（館長を含む）

● 外国人非常勤研究員の数と割合



注1：非常勤研究員に該当するのは、機関研究員およびプロジェクト研究員
 注2：非常勤研究員の数とは年度内に在籍した研究員の総数

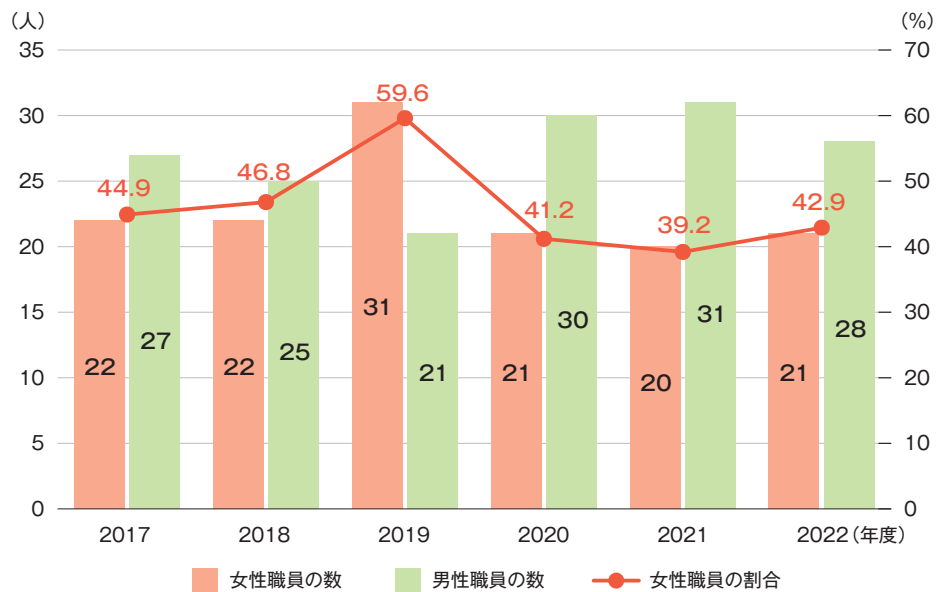
● 若手教員（常勤）の数と割合



注1：若手教員は39歳以下の教員

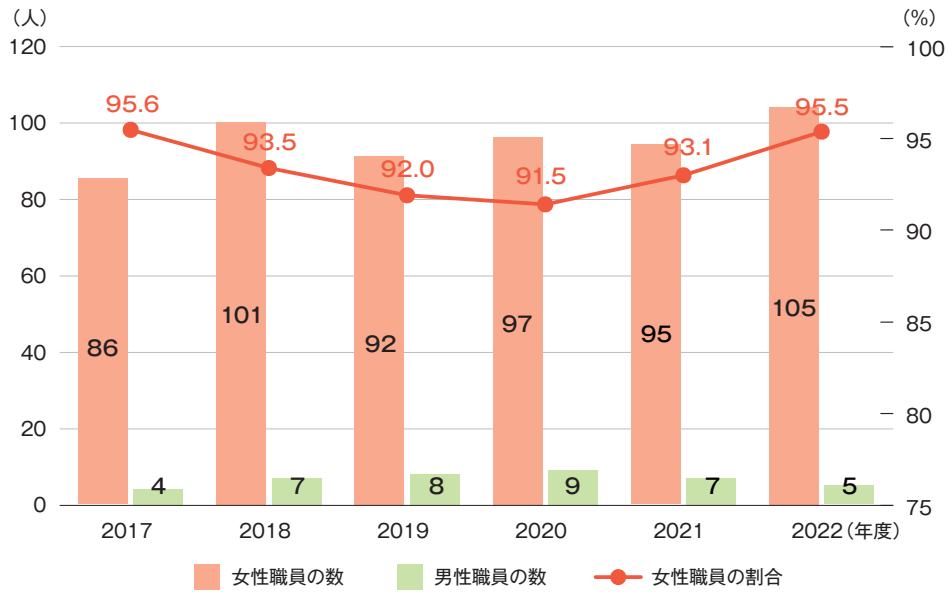
注2：各年度の5月1日時点の在籍者数（館長を含む）

● 女性職員の数と割合（常勤職員）



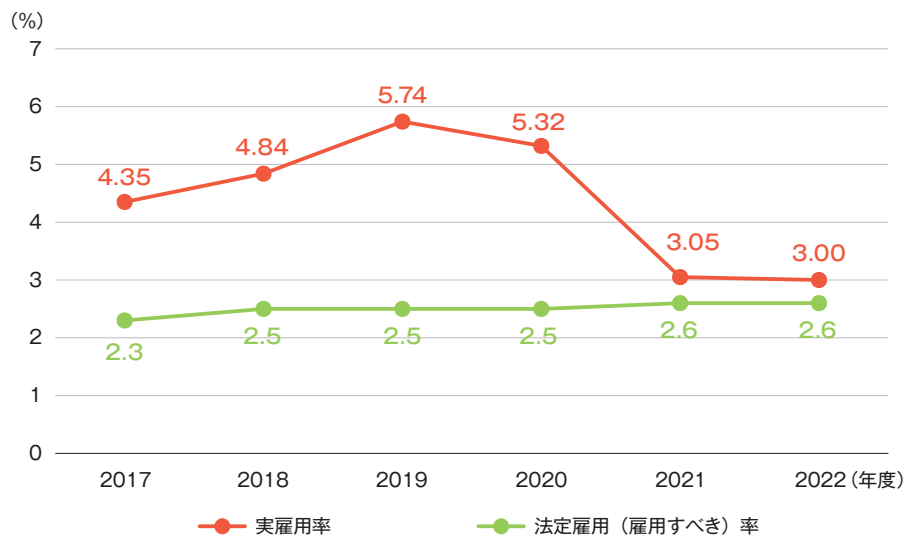
注：各年度の5月1日時点の在籍者数

● 女性職員の数と割合（非常勤職員）



注：各年度の5月1日時点の在籍者数

● 障がい者実雇用率



注1：雇用すべき障がい者の率は、法令によって年度ごとに定められている

注2：実雇用率は厚生労働省都道府県労働局『障害者雇用状況報告記入要領』の雇用障害者数のカウント方法によって計算されたもの

1-3 構成員の一覧

● 運営会議（令和4年4月1日現在）

館長の要請により、本館の管理運営に関する重要事項について審議する。

井野瀬久美恵 甲南大学文学部教授	岡田浩樹 神戸大学大学院国際文化科学研究科教授	木川りか 九州国立博物館学芸部博物館科学科長	窪田幸子 芦屋大学長／神戸大学名誉教授
後藤 明 南山大学人文学部教授	高倉浩樹 東北大学東北アジア研究センター教授	富沢壽勇 静岡県立大学副学長	中谷文美 岡山大学文明動態学研究所教授
水沢 勉 神奈川県立近代美術館館長	宇田川妙子 超域フィールド科学研究部長	岸上伸啓 副館長（企画調整担当）・情報管理施設長	園田直子 人類基礎理論研究部長
野林厚志 学術資源研究開発センター長	信田敏宏 グローバル現象研究部教授（総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻長）	平井京之介 副館長（研究・国際交流・IR担当）・国際研究統括室長	福岡正太 人類文明誌研究部長
三尾 稔 グローバル現象研究部長			

● 外部評価委員会（令和4年4月1日現在）

館長の要請により、本館における研究教育活動等の状況に関する点検・評価について審議する。

市川光雄 京都大学名誉教授	後小路雅弘 北九州市立美術館館長	岡崎淑子 聖心女子大学前学長／名誉教授	小坂 肇 公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団理事長
崎元利樹 公益財団法人関西・大阪21世紀協会理事長	高野明彦 国立情報学研究所教授	田中雅一 国際ファッション専門職大学副学長	出口 顕 島根大学名誉教授
牧野耕司 独立行政法人国際協力機構 JICA 緒方研究所副所長			

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

● 研究部教員の一覧（令和5年3月31日現在）

	館長	吉田憲司		
	副館長（企画調整担当）	岸上伸啓		
	副館長（研究・国際交流・IR担当）	平井京之介		
研究部	職名・研究部門	教授	准教授	助教
人類基礎理論研究部	研究部長	園田直子		
	第一超域	笹原亮二 日高真吾	末森 薫	
	第二超域		岡田恵美 川瀬 慈 吉岡 乾	
	第三超域	菊澤律子	丸川雄三	平野智佳子 宮前知佐子
				※市野進一郎
超域フィールド科学研究部	研究部長	宇田川妙子		
	第一超域	櫻永真佐夫 韓 敏	太田心平 奈良雅史	
	第二超域	南 真木人	菅瀬晶子 松尾瑞穂	
	第三超域	新免光比呂 ピーター・J・マシウス		
人類文明誌研究部	研究部長	福岡正太		
	第一超域	平井京之介（副館長）	卯田宗平 齋藤玲子 藤本透子	
	第二超域	池谷和信 山中由里子	上羽陽子	
	第三超域	齋藤 晃	伊藤敦規 松本雄一	
グローバル現象研究部	研究部長	三尾 稔		
	第一超域	信田敏宏		諸 昭喜
	第二超域	西尾哲夫	相島葉月 鈴木英明	
	第三超域	鈴木七美 丹羽典生	中川 理 八木百合子	黒田賢治
学術資源研究開発センター	センター長	野林厚志		
	第一超域		小野林太郎 島村一平 寺村裕史 廣瀬浩二郎	
	第二超域	飯田 卓	三島禎子	
	第三超域	岸上伸啓（副館長） 鈴木 紀 森 明子		
	人文知コミュニケーター			※（神野知恵）

注釈1：（神野知恵）は併任特任助教（人間文化研究機構所属）

注釈2：※は特任研究員を示す

● 特定教授

本館の名誉教授のうち、科学研究費助成事業等研究助成の交付を代表者として受け、本館において研究活動を実施し、かつ、本館の研究活動の発展に寄与すると認められた者。

關 雄二

出口正之

長野泰彦

林 勲男

● 客員教員

本館が推進する研究等に係る業務に従事するため受け入れる者で、高度な研究能力又は実績を有する研究者。

小長谷有紀

独立行政法人日本学術振興会監事

● 特別客員教員

本館において必要とする高度な知識と経験を有する者として委嘱を受けた者

植村幸生

東京藝術大学音楽学部教授

東 賢太郎

名古屋大学大学院人文学研究科准教授

河合洋尚

東京都立大学人文社会学部准教授

片岡 樹

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授

亀井哲也

中京大学現代社会学部教授

中生勝美

桜美林大学リベラルアーツ学群教授

中谷文美

岡山大学文明動態学研究所教授

水越 伸

関西大学社会学部教授

佐川 徹

慶應義塾大学文学部准教授

白井千晶

静岡大学人文社会学部教授

森見登美彦

作家

山 泰幸

関西学院大学人間福祉学部教授

田沼幸子

東京都立大学人文社会学部准教授

内藤直樹

徳島大学大学院社会産業理工学研究部准教授

大西秀之

同志社女子大学・現代社会学部教授

風間計博

京都大学大学院人間・環境学研究科教授

大坂 拓

北海道博物館アイヌ民族文化研究センター研究職員

山口未花子

北海道大学文学研究院准教授

● 機関研究員

上畑 史 (7/31退職)

金 悠進

松本文子

● プロジェクト研究員

石山 俊

井上 舞 (12/31退職)

河村友佳子

小林直明

相良啓子

橋本沙知

● 人間文化研究機構研究員

グローバル地域研究プログラム総括
班事務局

竹村嘉晃
特任助教

グローバル地中海地域研究プロジェ
クト

岡本尚子
特任助教

環インド洋地域研究プロジェクト

松井 梓
特任助教

海域アジア・オセアニア研究プロ
ジェクト

門馬一平
特任助教

人文知コミュニケーター

神野知恵
特任助教

● 外国人研究員

NITZKY, William David
カリフォルニア州立大学准教授

SERGE Bahuchet
国立自然史博物館教授

YU Pei-Lin
ボイジー州立大学特任准教授

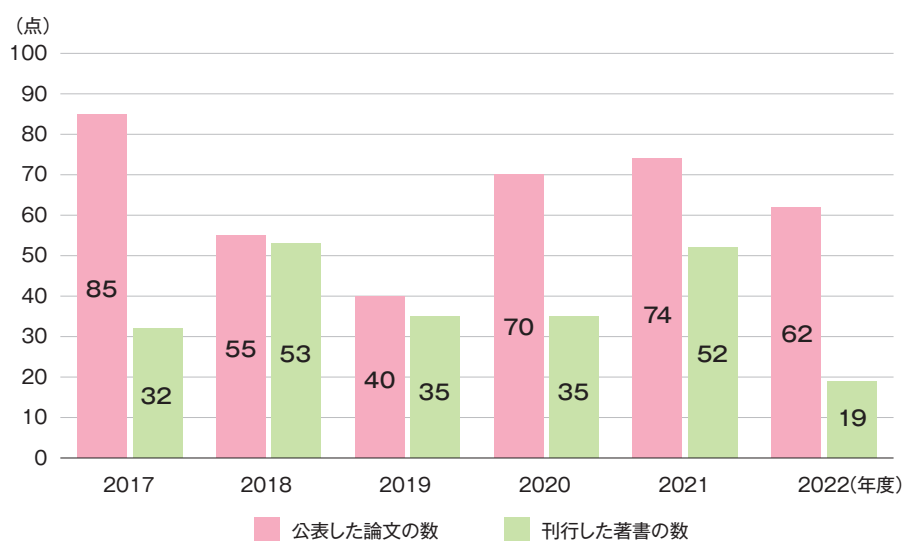
2 研究

2-1 令和4年度の研究業績

● 令和4年度の研究成果

著書	19冊
論文	62編（うち査読つき42編）

● 公表した論文と刊行した書籍の数の推移



● 令和4年度に開催した研究集会の数と参加者総数

研究集会の種類	開催回数	参加者の総数
国際シンポジウム	8	970
国内シンポジウム	4	494
研究会等（国際）	4	184
研究会等（国内）	114	1,480
計	130	3,128

● 令和4年度の受賞

No.	受賞者・組織	賞の名称	授与団体名	受賞年月	受賞対象となった研究課題名等
1	河村友佳子	第15回文化財保存修復学会奨励賞	文化財保存修復学会	R4.6	民族（俗）資料や博物館資料を対象とした研究
2	卯田宗平	第37回大同生命地域研究奨励賞	大同生命国際文化基金	R4.6	東アジアにおける独創的な人——動物関係論の構築と展開
3	富本浩一郎, 平井康之, 日高真吾	日本デザイン学会2021年度年間作品賞	一般社団法人日本デザイン学会	R4.6	国立民族学博物館触知案内板のデザイン開発
4	佐藤大介, Injinaash, Bor, Sakari Pálsi, 国立民族学博物館	日本タイポグラフィ年鑑2023入選	特定非営利活動法人日本タイポグラフィ協会	R4.11	特別展「邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今」ポスター3種
5	川瀬 慈	東京ドキュメンタリー映画祭2022 人類学・民俗映像部門コンペティション部門準グランプリ	neoneo 編集室	R4.12	『吟遊詩人一声の饗宴』（撮影・録音・編集・監督：川瀬慈，2022年）
6	黒田賢治	第18回国際宗教研究所賞奨励賞	国際宗教研究所	R5.2	戦争の記憶と国家——帰還兵が見た殉教と忘却の現代イラン

● 令和4年度の学会等の開催

学会名	開催日	延べ参加登録者数（人）
生き物文化誌学会第19回学術大会	2022年6月25日（土）	30
一般社団法人文化財保存修復学会 公開シンポジウム 「変動する地球環境と文化財の保存」	2023年1月22日（日）	150

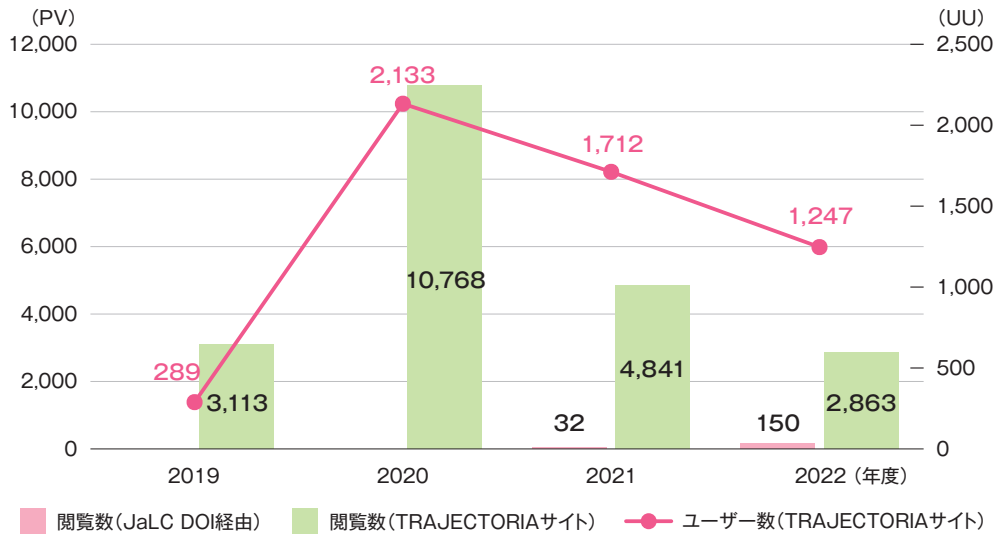
2-2 研究出版活動

館内の出版物

● 令和4年度 逐次刊行物

国立民族学博物館研究報告	47巻1号、47巻2号、47巻3号、47巻4号
Senri Ethnological Studies (SES)	no. 111、no. 112
Senri Ethnological Report (SER)	155号、156号
TRAJECTORIA	Vol. 4
民博通信 Online	No.6、No.7
Minpaku Anthropology Newsletter	Number 54、Number 55

● TRAJECTORIA 掲載記事の閲覧数とユーザー数



注：閲覧数（JaLC DOI経由）はジャパンリンクセンター（JaLC）で登録されたDOIから閲覧した数
 注：ジャパンリンクセンターでのDOI登録は2021年度から開始

本館助成による館外出版物

● 令和4年度

1. 松尾瑞穂編『サブスタンスの人類学——身体・自然・つながりのリアリティ』ナカニシヤ出版
2. 藤田瑞穂・川瀬 慈・村津蘭編『拡張するイメージ——人類学とアートの境界なき探究』亜紀書房

みんぱく映像民族誌

● 令和4年度

- 第46集 旅する獅子、伊勢大神楽の20年 笹原亮二・山中由里子・神野知恵
- 第47集 面打ち—京都の能面師— 黒田悦子・吉田憲司
- 第48集 津軽のカミサマ 大森康宏
- 第49集 ジャワ島チルボンの木偶人形芝居 福岡正太

2-3 みんぱくで実施した研究プロジェクト

特別研究

国内外の学術研究の動向や社会的な要請を踏まえ、新たな学問分野の創出に向けて実施する挑戦的な研究。2022年度からの第4期中期目標期間においては、「ポスト国民国家時代における民族」という共通タイトルのもと、5つの研究プロジェクトを構成し実施している。なお、2022年度は、第3期の「現代文明と人類の未来—環境・文化・人間」の継続プロジェクトも実施した。

● ロードマップ

共通テーマ：ポスト国民国家時代における民族									
テーマ区分	研究プロジェクト名	研究代表者	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
民族と博物館	ポストナショナリズム時代の博物館の挑戦 —少数／先住民族の文化をいかに展示するか	鈴木 紀	R4.4.1		R7.3.31				
民族と国家	個人、帰属集団、国家の意思をめぐる相克の解明と多文化国家の実現	野林厚志		R5.4.1		R8.3.31			
民族と歴史	ルーツをめぐる政治学と共生の技法 —ポスト国民国家時代の民族と「歴史」	松尾瑞穂			R6.4.1		R9.3.31		
民族と宗教	民族と宗教—もつれ合う排他性と包摂性	奈良雅史				R7.4.1		R10.3.31	
民族と暴力	政治的暴力・コンフリクトと民族	丹羽典生					R8.4.1		R11.3.31

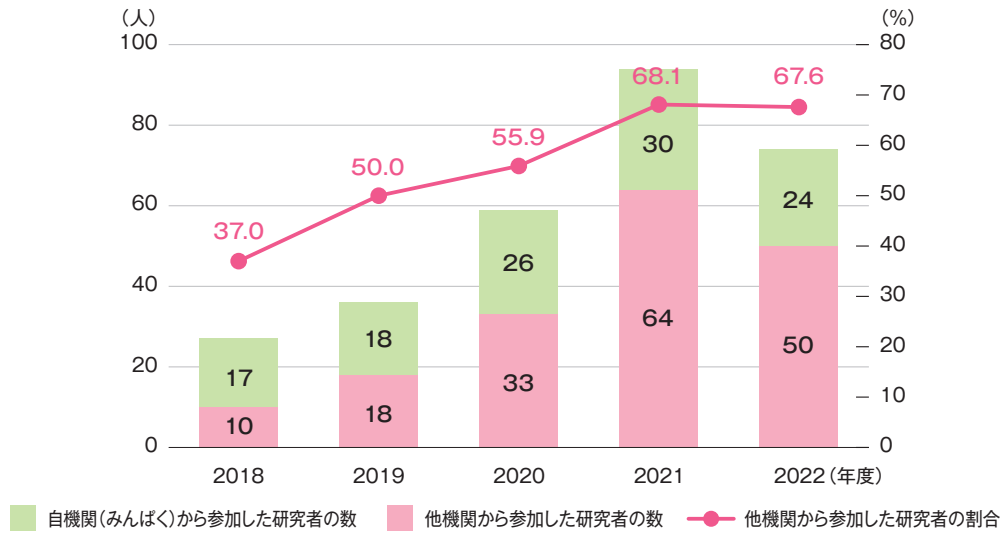
統一テーマ：現代文明と人類の未来—環境・文化・人間										
テーマ区分	研究プロジェクト名	研究代表者	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
環境問題と生物多様性	生物・文化的多様性の歴史生態学 —稀少動物・稀少植物の利用と保護を中心に—	池谷和信 岸上伸啓	H28.7.1		H31.3.31					
食料問題とエコシステム	食料生産システムの文明論	野林厚志		H29.4.1			R3.3.31			
マイノリティと多民族共存	パフォーマンス・アーツと積極的共生	寺田吉孝 福岡正太			H30.4.1				R5.3.31	
文化遺産とコミュニティ	デジタル技術時代の文化遺産におけるヒューマニティとコミュニティ	飯田 卓				H31.4.1		R4.3.31		
文化衝突と多元的価値	グローバル地域研究と地球社会の認知地図 —わたしたちはいかに世界を共創するのか？	西尾哲夫					R2.4.1		R5.3.31	
人口問題と家族・社会	不確実性の時代における家族の潜勢力 —モビリティ、テクノロジー、身体	森 明子						R3.4.1		R6.3.31
現代文明と感染症	コロナ禍に対するローカルな対処としての「文化の免疫系」に関する比較研究	島村一平						R2.12.25		R6.3.31

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響による計画変更

・「マイノリティと多民族共存」に関するプロジェクトは、当初計画を変更し、研究期間を延長

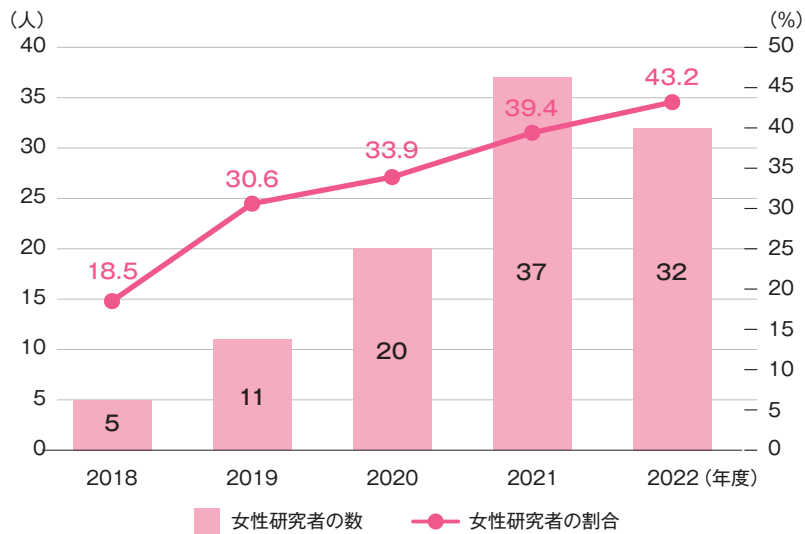
・「現代文明と感染症」に関する緊急枠は、当初計画に追加し、令和2年度に新設

● 特別研究に他機関から参加した研究者の数と割合



注1：2017年度にも特別研究を実施していたが、共同研究者の数は未集計
 注2：自機関(みんばく)の研究者には、みんばくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学(地域文化学専攻および比較文化学専攻)所属の大学院生等を含む
 注3：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 特別研究に参加した女性研究者の数と割合



注1：2017年度にも特別研究を実施していたが、共同研究者の数は未集計
 注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

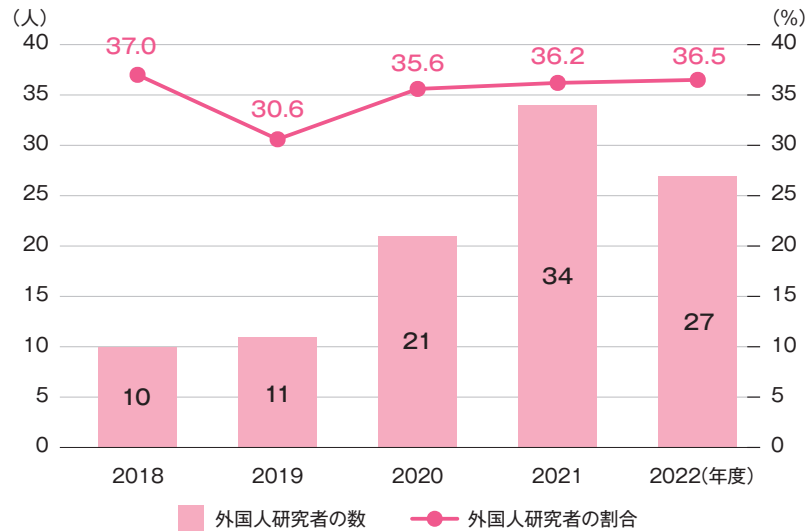
社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

● 特別研究に参加した外国人研究者の数と割合



注1：2016～2017年度にも特別研究を実施していたが、共同研究者の数は未集計
 注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

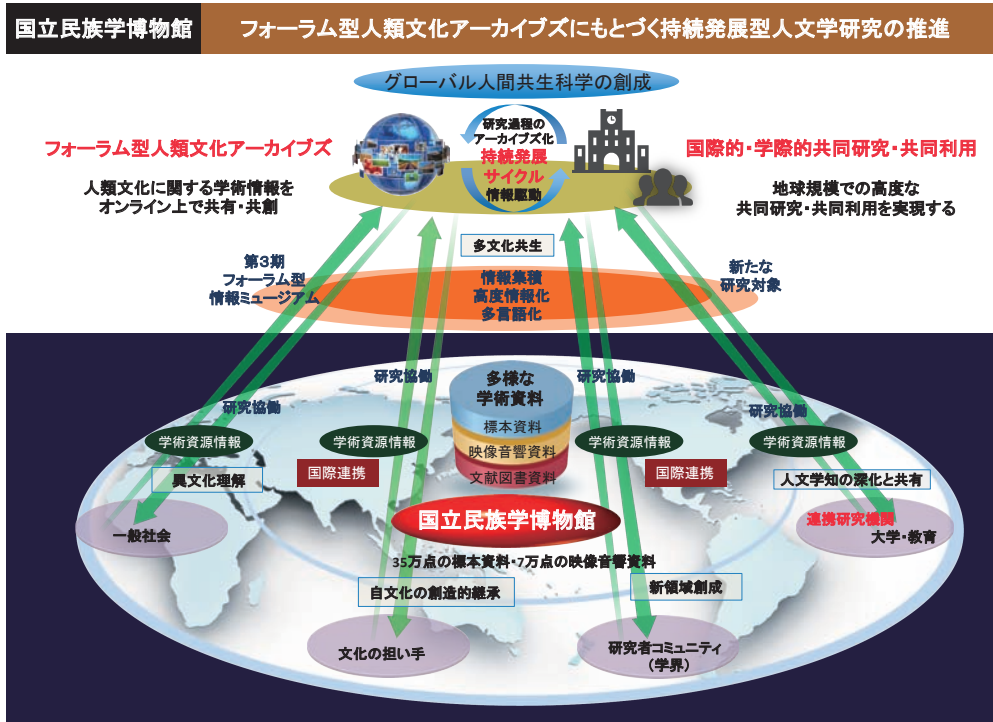
● 令和4年度の成果刊行書籍

著者／編者	著書	出版社
Atsushi Nobayashi (ed.)	<i>Making Food in Local and Global Contexts: Anthropological Perspectives</i>	Springer Nature Singapore Pte Ltd.
Kazunobu Ikeya, William Balée (eds.)	<i>Global Ecology in Historical Perspective: Monsoon Asia and Beyond</i>	Springer Nature Singapore Pte Ltd.

フォーラム型人類文化アーカイブズプロジェクト

現地社会との協働による国際的な共同研究の推進により、本館所蔵の学術資源をオンライン上で広く一般に発信する多言語型「人類文化アーカイブズ」を構築し、文化人類学・民族学及びその関連分野の学術資源の継承と国際的な共有財産化を可能とする教育研究活動の中核基盤拠点を形成することを目的とした研究プロジェクト。

なお、本プロジェクトは2016～2021年度の「フォーラム型情報ミュージアムプロジェクト」を発展的に継承したものであり、以降、「フォーラム型プロジェクト」という名称を用いる場合には、両プロジェクトを指す。



● フォーラム型人類文化アーカイブズプロジェクト一覧

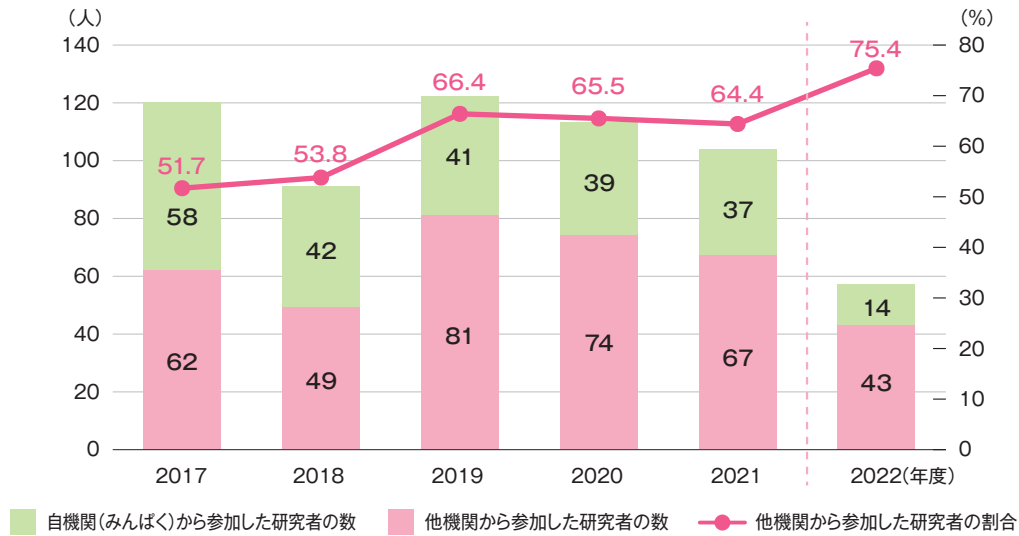
区分	課題名	研究代表者	研究期間(年度)	研究期間
基盤型 Basic research	オーストラリア先住民の物質文化に関する研究：民博収蔵の学術資料を中心に <i>A Study of the Material Culture of Aboriginal Australians, with a Focus on the Minpaku Collection</i>	平野智佳子 Chikako Hirano	2022-2025 (令和4-8)	2022.4- 2026.3
基盤型 Basic research	日本人の太平洋収集に関する総合的アーカイブスの構築 <i>Building of a comprehensive archive on Pacific collection by Japanese</i>	丹羽典生 Norio Niwa	2022-2025 (令和4-8)	2022.4- 2026.3
推進型 Promotional research	徳之島・奄美大島の芸能に関するフォーラム型情報ミュージアムのデータベースを基盤とした芸能研究の推進とその成果としてのマルチメディア番組及び展示の制作・公開 <i>Research based on Info-Forum Museum of Folk Performing Arts in Tokunoshima and Amamioshima and Production and Release of Multimedia Contents and Exhibitions</i>	笹原亮二 Ryoji Sasahara	2022-2023 (令和4-6)	2022.3- 2024.3
推進型 Promotional research	第一次東南アジア稲作民族文化総合調査のアーカイブス構築—タイの写真資料を中心に <i>Construction of Archives of the First Synthetic Research of the Culture of Rice-cultivating Peoples in Southeast Asian Countries: Focusing on Photographs of Thailand</i>	平井京之介 Kyonosuke Hirai	2022-2023 (令和4-6)	2022.3- 2024.3
推進型 Promotional research	台湾研究デジタル統合アーカイブの構築 <i>Building an Integrated Digital Archive of Taiwan Studies</i>	野林厚志 Atsushi Nobayashi	2022-2023 (令和4-6)	2022.3- 2024.3

●「フォーラム型人類文化アーカイブズプロジェクト」 年次計画表

基盤型4年、推進型2年

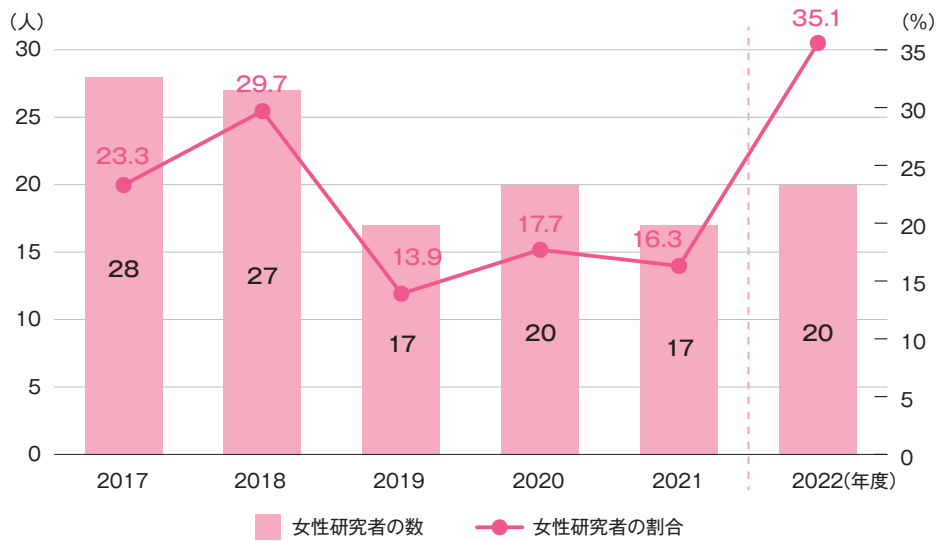
	研究課題名 代表者	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
基盤型	1 オーストラリア先住民の物質文化に関する研究 —民博収蔵の学術資料を中心に 平野智佳子	■	■	■	■		
	2 日本人の太平洋収集に関する総合的アーカイブスの構築 丹羽典生	■	■	■	■		
	3 基盤型3	■	■	■	■	■	■
	4 基盤型4	■	■	■	■	■	■
推進型	1 徳之島・奄美大島の芸能に関するフォーラム型情報ミュージアムのデータベースを基盤 とした芸能研究の推進とその成果としてのマルチメディア番組及び展示の制作・公開 笹原亮二	■	■	■			
	2 第一次東南アジア稲作民族文化総合調査のアーカイブス構築 —タイの写真資料を中心に 平井京之介	■	■	■			
	3 台湾研究デジタル統合アーカイブの構築 野林厚志	■	■	■			
	4 20世紀前半のレコードに聴く東アジアの伝統音楽 福岡正太	■	■	■			
	5 ペルーの文化資料に関するデジタルアーカイブスの構築と活用 八木百合子	■	■	■			
	6 推進型6	■	■	■	■		
	7 推進型7	■	■	■	■		
	8 推進型8	■	■	■	■		
	9 推進型9	■	■	■	■	■	
	10 推進型10	■	■	■	■	■	
	11 推進型11	■	■	■	■	■	■
	12 推進型12	■	■	■	■	■	■
多言語化対応		■	■	■	■	■	■
システム開発		■	■	■	■	■	■
	データベースシステム開発	■	■	■	■	■	■
	横断検索機能開発	■	■	■	■	■	■
国際発信プログラム（国際研究集会など）		■	■	■	■	■	■
高等教育プログラム		■	■	■	■	■	■
推進型プロジェクト実施準備		■	■	■	■	■	■
データベースフォローアップ		■	■	■	■	■	■

● フォーラム型プロジェクトに他機関から参加した研究者の数と割合



注1：自機関（みんぱく）の研究者には、みんぱくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学（地域文化学専攻および比較文化学専攻）所属の大学院生等を含む
 注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● フォーラム型プロジェクトに参加した女性研究者の数と割合



注1：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

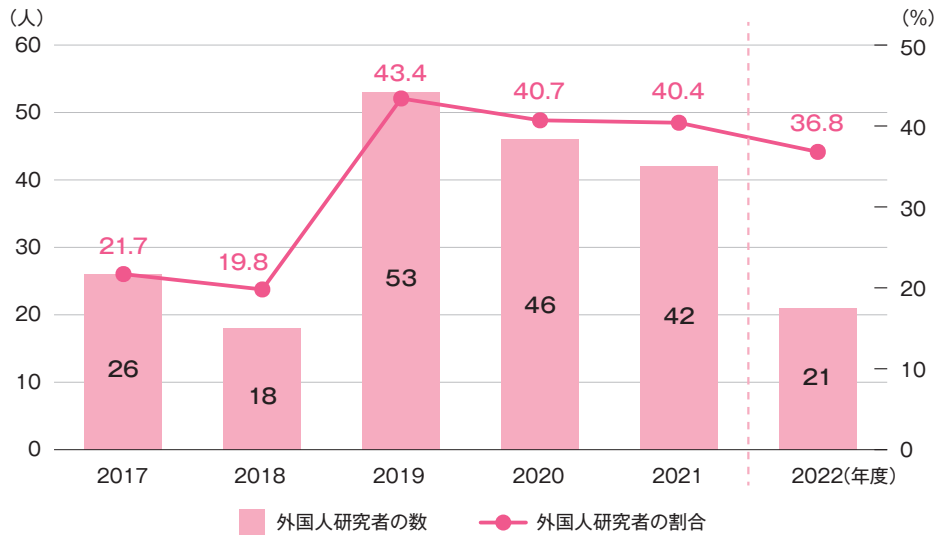
社会連携

産学連携

大学院教育

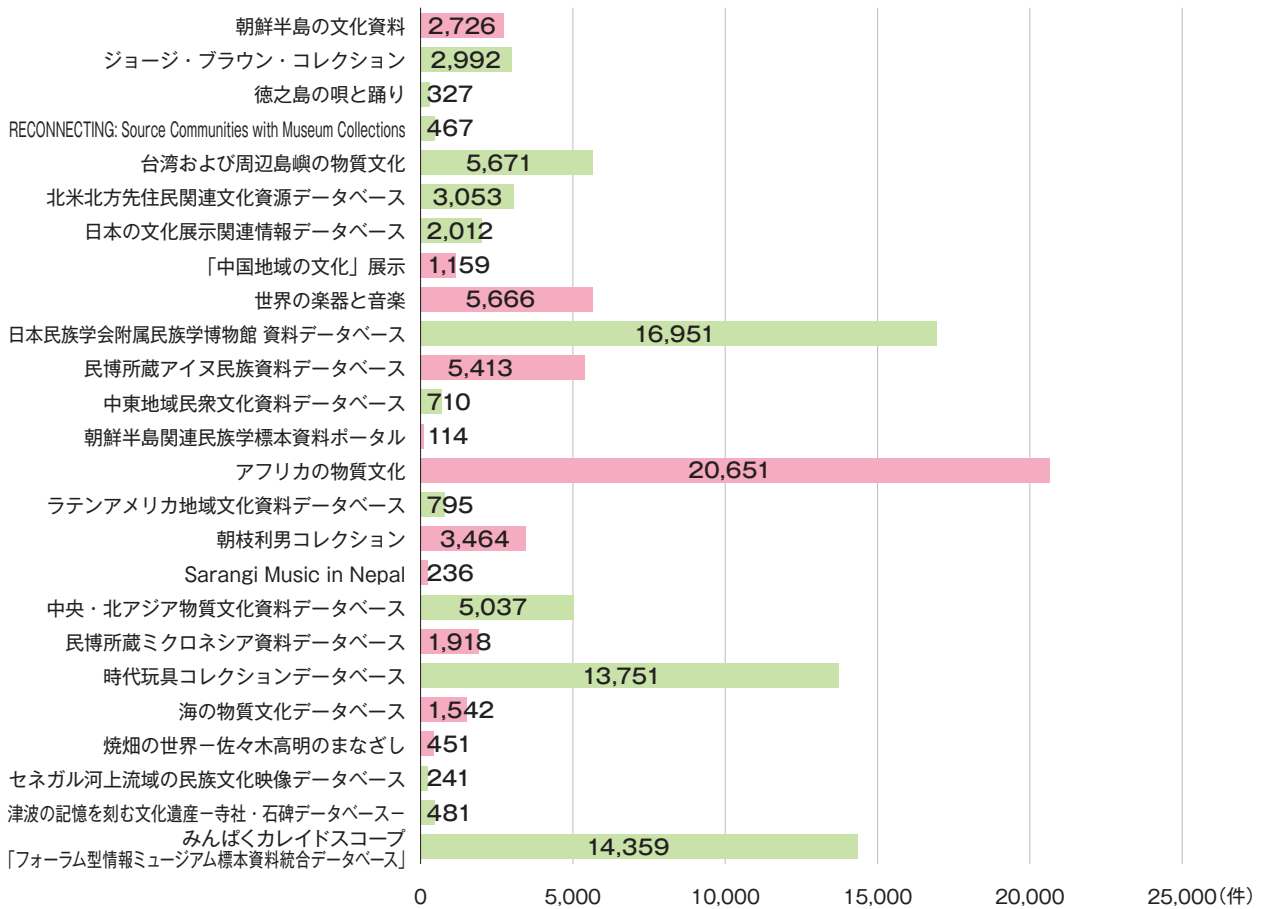
業務運営

● フォーラム型プロジェクトに参加した外国人研究者の数と割合



注1：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● フォーラム型プロジェクトで構築したデータベースの資料件数 (2023年3月31日時点)

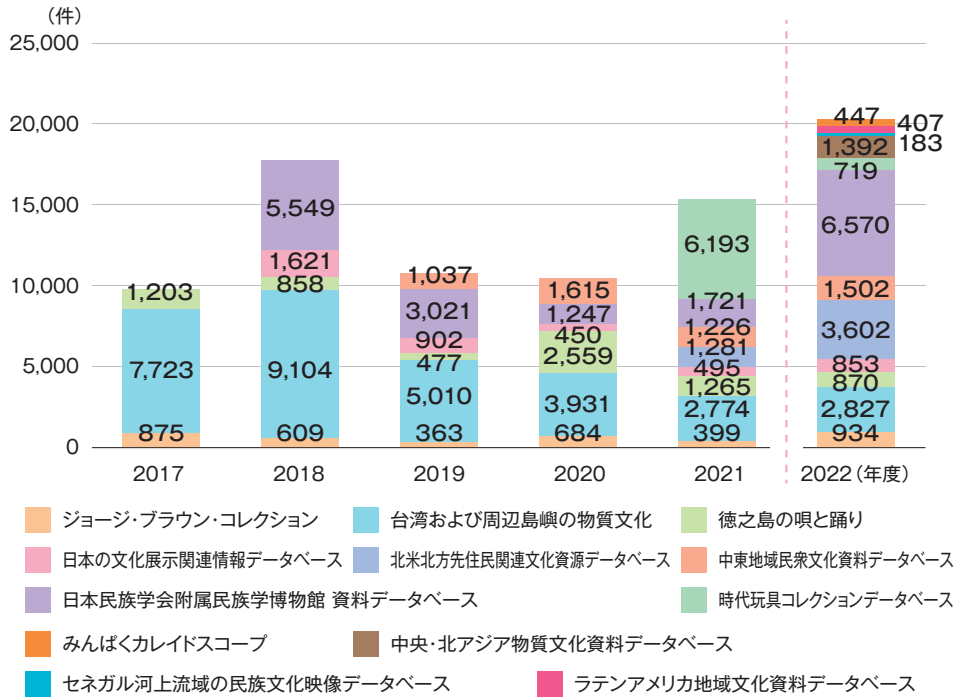


注1：一般公開中のデータベースは 緑色 で、非公開データベースは 赤色 で示した

注2：「徳之島の唄と踊り」および「RECONNECTING: Source Communities with Museum Collections」は関係者のみの利用に限定

注3：「焼畑の世界－佐々木高明のまなざし」はすでに本館のデータベースとして一般公開されているが、それをもとにしたフォーラム型データベースは構築中でまだ公開されていない

● 一般公開されているフォーラム型プロジェクト・データベースの利用件数



注1：利用件数は表示ページの合計ではなく、各データベースで最も重要なページ（標本資料詳細画面／動画再生画面／詳細画面等）の表示件数
 注2：「RECONNECTING: Source Communities with Museum Collections」と「津波の記憶を刻む文化遺産 一寺社・石碑データベース」は利用件数を未集計

● 令和4年度の成果刊行書籍

著者	書籍名	出版社
該当なし		

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

公募型共同研究

文化人類学・民族学および関連分野の特定のテーマについて館内外の専門家が共同でおこなう研究。「一般」と「若手」のふたつの区分を設けており、「共同研究（若手）」は、若手研究者を育成・支援することを目的としている。

令和4年度 共同研究課題一覧

一般

カテゴリ-1：新領域開拓型

No.	研究課題	研究代表者	研究期間
1	人類学／民俗学の学知と国民国家の関係——20世紀前半のナショナリズムとインテリジェンス	中生勝美	2017.10-2023.3
2	ネオリベラリズムのモラリティ	田沼幸子	2017.10-2023.3
3	オセアニア・東南アジア島嶼部における他者接触の歴史記憶と感情に関する人類学的研究	風間計博	2018.10-2023.3
4	伝統染織品の生産と消費——文化遺産化・観光化によるローカルな意味の変容をめぐって	中谷文美	2018.10-2023.3
5	統治のフロンティア空間をめぐる人類学——国家・資本・住民の関係を考察する	佐川 徹	2018.10-2023.3
6	グローバル時代における「寛容性／非寛容性」をめぐるナラティブ・ポリティクス	山 泰幸	2018.10-2023.3
7	カネとチカラの民族誌：公共性の生態学にむけて	内藤直樹	2018.10-2023.3
8	グローバル化時代における「観光化／脱・観光化」のダイナミズムに関する研究	東 賢太郎	2019.10-2023.3
9	食生活から考える持続可能な社会——「主食」の形成と展開	野林厚志	2019.10-2023.3
10	社会・文化人類学における中国研究の理論的的定位——12のテーマをめぐる再検討と再評価	河合洋尚	2019.10-2023.3
11	人類史における移動概念の再構築——「自由」と「不自由」の相克に注目して	鈴木英明	2019.10-2023.3
12	島世界における葬送の人類学——東南アジア・東アジア・オセアニアの時空間比較	小野林太郎	2019.10-2023.3
13	海外フィールド経験のフィードバックによる新たな人類学的日本文化研究の試み	片岡 樹	2020.10-2024.3
14	「描かれた動物」の人類学 ——動物×ヒトの生成変化に着目して	山口未花子	2020.10-2024.3
15	月経をめぐる国際開発の影響の比較研究——ジェンダーおよび医療化の視点から	新本万里子	2020.10-2024.3
16	環北太平洋地域の先住民社会の変化、現状、未来に関する学際的比較研究——人類史的視点から	岸上伸啓	2020.10-2024.3
17	不確実性のなかでオルタナティブなコミュニティを問う——モノ、制度、身体のからみあい	森 明子	2020.10-2024.3
18	戦争・帝国主義と食の変容：食と国家の関係を再考する	宇田川妙子	2020.10-2024.3
19	日本列島の鵜飼文化に関するT字型学際共同アプローチ——野生性と権力をめぐって	卯田宗平	2020.10-2023.3
20	現代アジアにおける生殖テクノロジーと養育——ジェンダーとリプロダクションの学際的比較研究	白井千晶	2021.10-2024.3
21	観光における不確実性の再定位	土井 清美	2021.10-2024.3
22	被傷性の人類学／人間学	竹沢尚一郎	2021.10-2024.3

No.	研究課題	研究代表者	研究期間
23	ミックスをめぐる帰属と差異化の比較民族誌——オセアニアの先住民を中心に	山内由理子	2022.10-2025.3
24	グローバル資本主義における多様な論理の接合——学際的アプローチ	中川 理	2022.10-2025.3
25	アジアの狩猟採集民の移動と生業——多様な環境適応の人類史	池谷和信	2022.10-2025.3

カテゴリ2：学術資料共同利用型

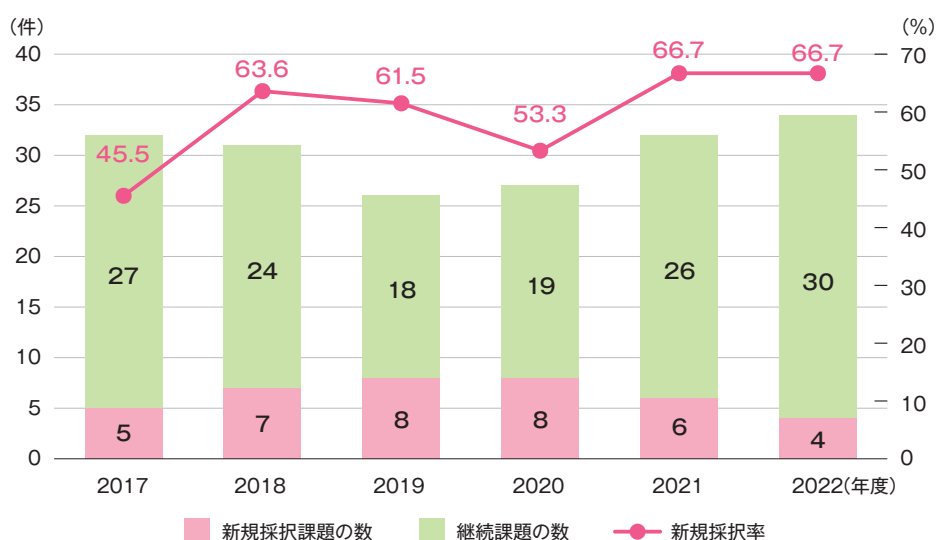
No.	研究課題	研究代表者	研究期間
26	博物館における持続可能な資料管理および環境整備——保存科学の視点から	園田 直子	2017.10-2023.3
27	沙流川調査を中心とする泉靖一資料の再検討	大西 秀之	2019.10-2023.3
28	民博所蔵東洋音楽学会資料に基づく日本民俗音楽の再構成と再活性化	植村 幸生	2021.10-2024.3
29	日本人による太平洋の民族誌的コレクション形成と活用に関する研究——国立民族学博物館所蔵朝枝利男コレクションを中心に	丹羽 典生	2021.10-2024.3
30	国立民族学博物館所蔵木製品標本資料にもとづく森林資源利用史の研究——桶と樽に着目して	落合 雪野	2022.10-2025.3

若手

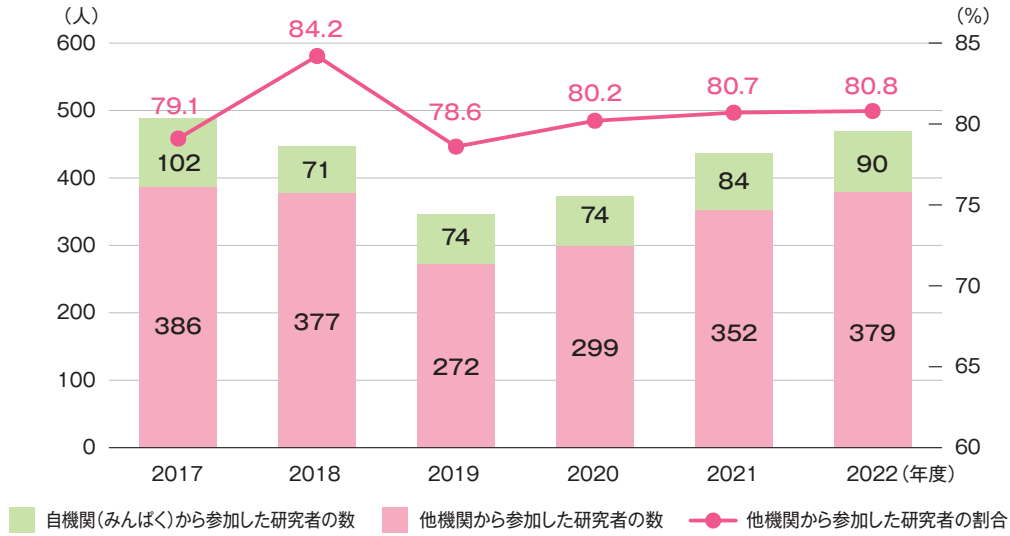
カテゴリ1：新領域開拓型

No.	研究課題	研究代表者	研究期間
31	感性と制度のつながり——芸術をめぐる「喚起」と「評価」のプロセスから考える	緒方しらべ	2019.10-2023.3
32	モビリティと物質性の人類学	古川不可知	2019.10-2023.3
33	先住民と情報化する社会の関わり	近藤祉秋	2020.10-2023.3
34	伝承のかたちに「触れる」プロジェクト——「3D プリント×伝統素材・技法」のアプローチから	宮坂慎司	2021.10-2024.3

● 公募型共同研究の実施研究課題の数と新規採択率

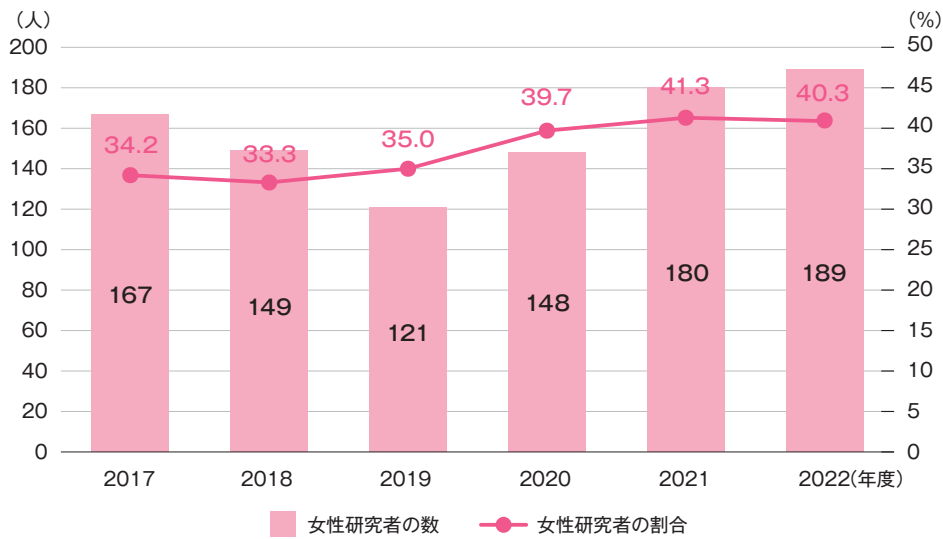


● 公募型共同研究に他機関から参加した研究者の数と割合



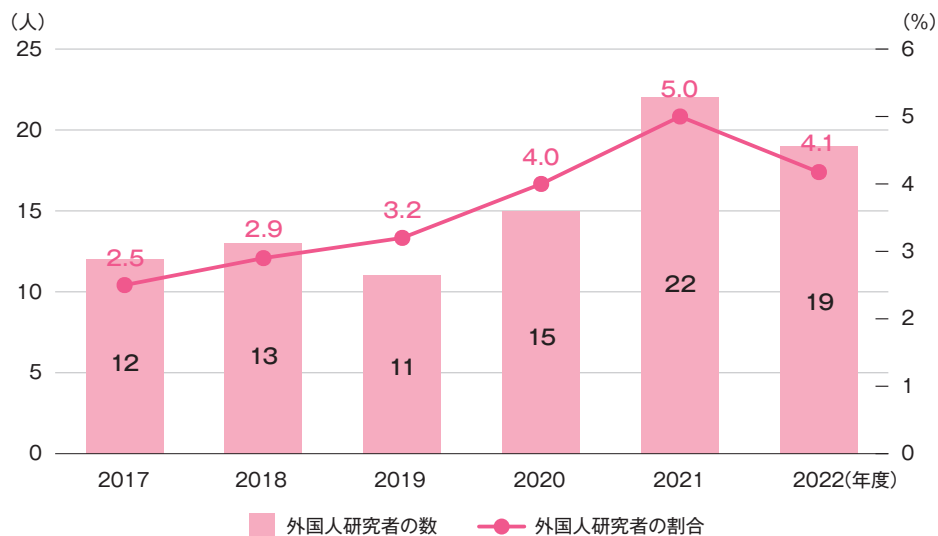
注1：自機関（みんぱく）の研究者には、みんぱくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学（地域文化学専攻および比較文化学専攻）所属の大学院生等を含む
 注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 公募型共同研究に参加した女性研究者の数と割合



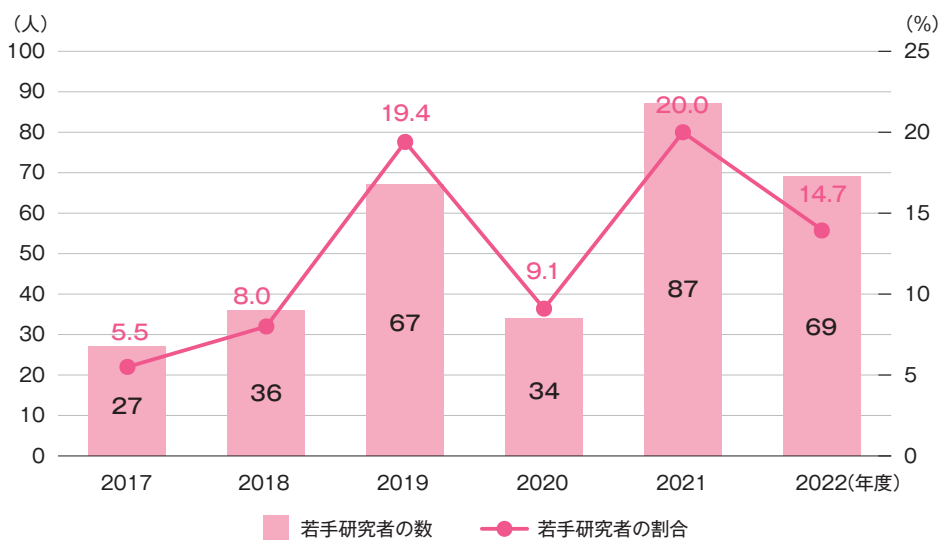
注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 公募型共同研究に参加した外国人研究者の数と割合



注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

● 公募型共同研究に参加した若手研究者（39歳以下）の数と割合



注：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

令和4年度の公募型共同研究の成果刊行書籍

共著・編著

著者／編者	書籍名	出版社
浮ヶ谷幸代・田代志門・山田慎也（編）	現代日本における「看取り文化」を構想する	東京大学出版会
松尾瑞穂（編）	サブスタンスの人類学—身体・自然・つながりのリアリティ	ナカニシヤ出版
平田晶子・三津島一樹・岩瀬裕子	物質文化 102 特集：暮らしのなかのシェーン・オペラトワール	物質文化研究会
藤田瑞穂・川瀬 慈・村津 蘭（編）	拡張するイメージ——人類学とアートの境界なき探究	亜紀書房

文化資源プロジェクト

本館専任教員の提案に基づき、本館あるいは大学等関連諸機関が所有する学術資源の体系化をすすめ、共同利用を促進し、学術的価値を高めるために実施する研究プロジェクト。

令和4年度 文化資源プロジェクト一覧

1 調査・収集分野（5件）

プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間
特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」で展示する骸骨人形の収集	鈴木 紀	単年度
ヒンドゥー教の宗教的実践に関する標本資料の収集	三尾 稔	単年度
北アメリカ北西海岸バンクーバー島のクワクワカワクウの儀礼用仮面「サン・マスク」の収集	岸上伸啓	単年度
特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」で展示する死者の日の祭壇の装飾品の収集	鈴木 紀	単年度
飛行機燃料補助タンクを用いて製作した「タンク船」の収集	飯田 卓	単年度

2 資料管理分野（0件）

プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間
該当なし		

3 展示分野（15件）

プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間
日本モンゴル国交樹立50周年記念特別展「邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今」	島村一平	3年計画の3年目
特別展「Homō loquēns「しゃべるヒト」～ことばの不思議を科学する～」	菊澤律子	3年計画の3年目
特別展「ラテンアメリカの民衆芸術」	鈴木 紀	3年計画の2年目
企画展「焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ」	池谷和信	2年計画の2年目
企画展「海のくらしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニア」	小野林太郎	2年計画の2年目
巡回展「驚異と怪異 世界の幻獣と霊獣たち」（高知県立歴史民俗資料館）	山中由里子	2年計画の2年目
巡回展「驚異と怪異——想像界の生きものたち」（福岡市博物館）	山中由里子	3年計画の2年目
巡回展「ビーズ——つなぐ・かざる・みせる」（石川県七尾美術館）	池谷和信	単年度

巡回展 「ビーズ—つなぐ・かざる・みせる」(東京都渋谷区立松濤美術館)	池谷和信	単年度
巡回展 「ユニバーサル・ミュージアム—さわる!“触”の大博覧会」(岡山・KURUN HALL)	廣瀬浩二郎	2年計画の1年目
特別展 「交感する神と人—ヒンドゥー神像の世界」の準備	三尾 稔	3年計画の2年目
特別展 「吟遊詩人の世界」(仮題)の予備調査	川瀬 慈	4年計画の2年目
企画展 「カナダ北西海岸先住民のアート—スクリーン版画の世界」の準備	岸上伸啓	2年計画の1年目
企画展 「水俣病を伝える」(仮題)の準備	平井京之介	3年計画の1年目
企画展 「客家と日本」(仮題)の準備	奈良雅史	3年計画の1年目

4 博物館社会連携分野 (1件)

プロジェクト名	代表者	プロジェクト期間
知的障害者の博物館活用に関する実践的研究	信田敏宏	単年度

情報プロジェクト

本館専任教員の提案に基づき、本館あるいは大学等関連諸機関が所有する学術資源の情報化をすすめ、共同利用を促進し、学術的価値を高めるために実施する研究プロジェクト。

● 令和4年度 情報プロジェクト一覧

1 制作・収集分野 (2件)

プロジェクト名	提案者	プロジェクト期間
インド・ラージャスターン地域のガンゴール祭礼の映像音響資料収集	三尾 稔	R4年度-5年度 (2年計画1年目)
マルチメディア番組『奄美大島の踊りと歌と祭り』の制作	笹原亮二	R4年度

2 情報化分野 (1件)

プロジェクト名	提案者	プロジェクト期間
岩田慶治の東南アジア写真コレクションのデータベース構築	池谷和信	R4年度

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

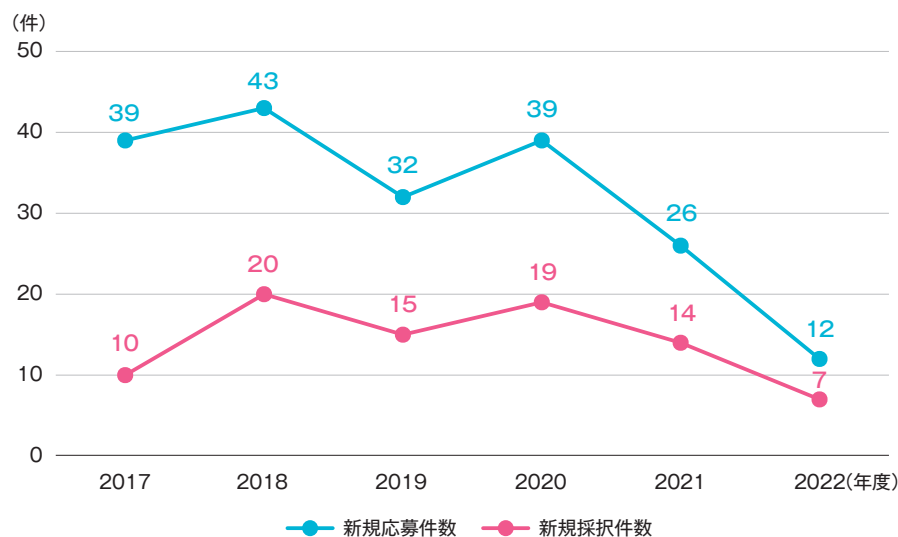
大学院教育

業務運営

2-4 外部資金による研究

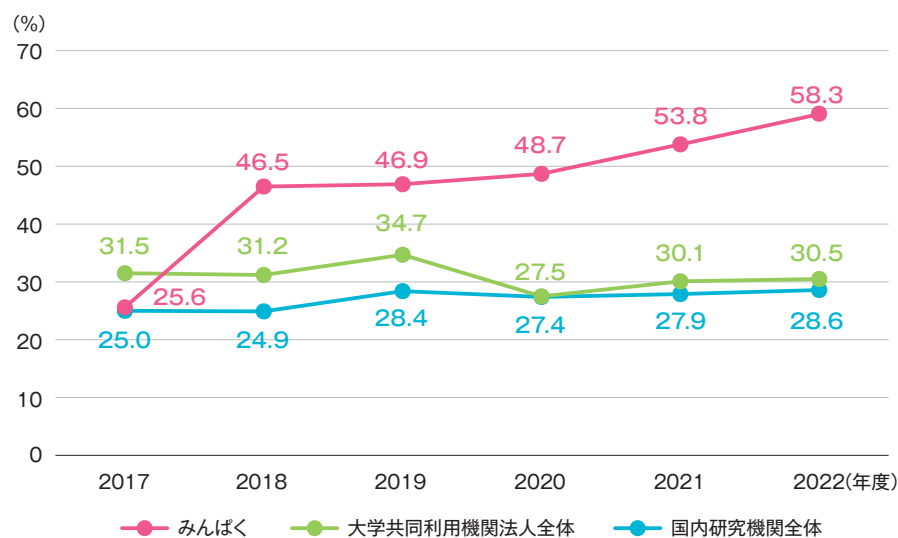
科研費による研究プロジェクト

● 新規応募件数と新規採択件数



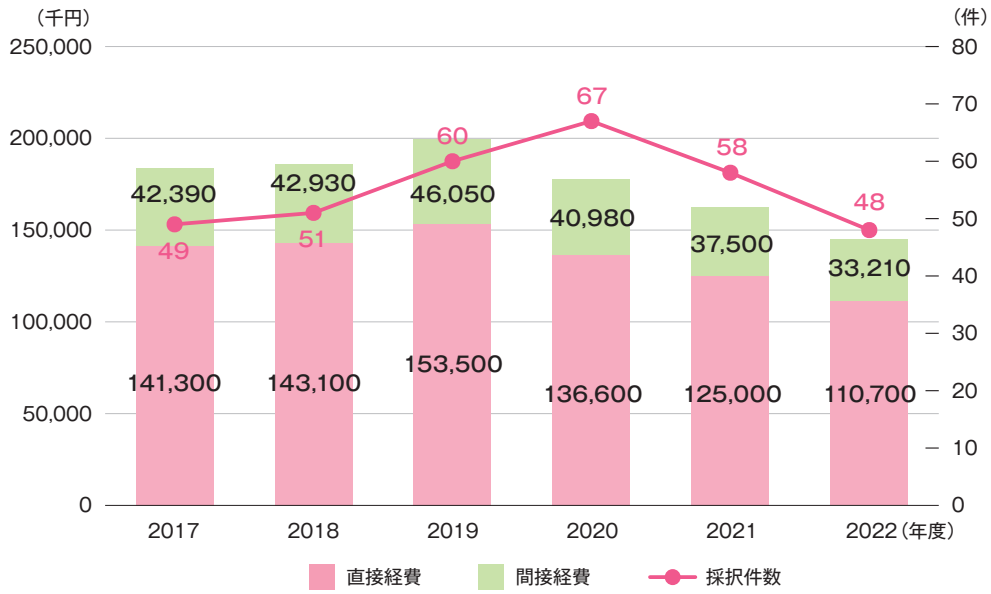
【出典】日本学術振興会 科研費データ

● 新規採択率の比較



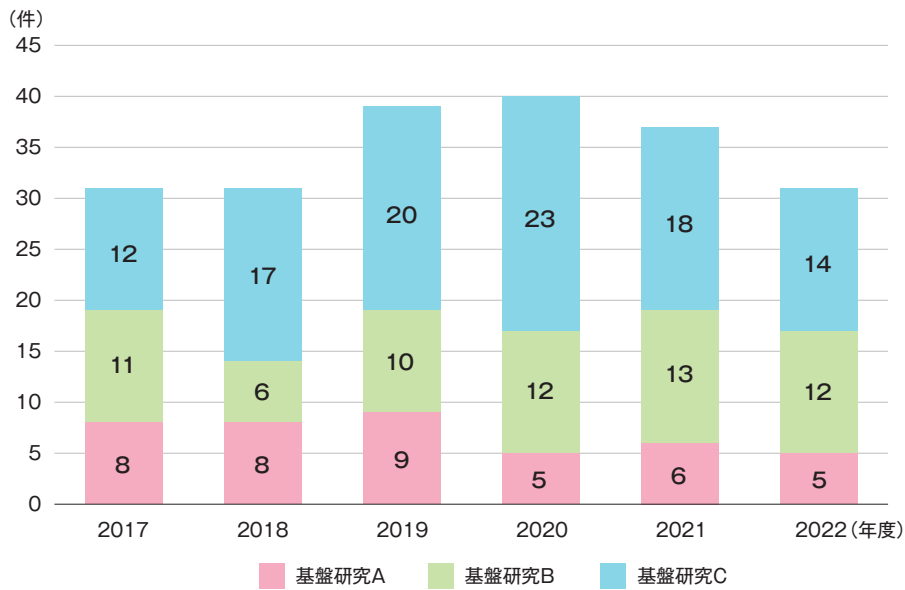
【出典】日本学術振興会 科研費データ

● 採択件数（新規＋継続）と配分額



【出典】日本学術振興会 科研費データ

● 研究種目別採択件数（新規＋継続）



【出典】日本学術振興会 科研費データ

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

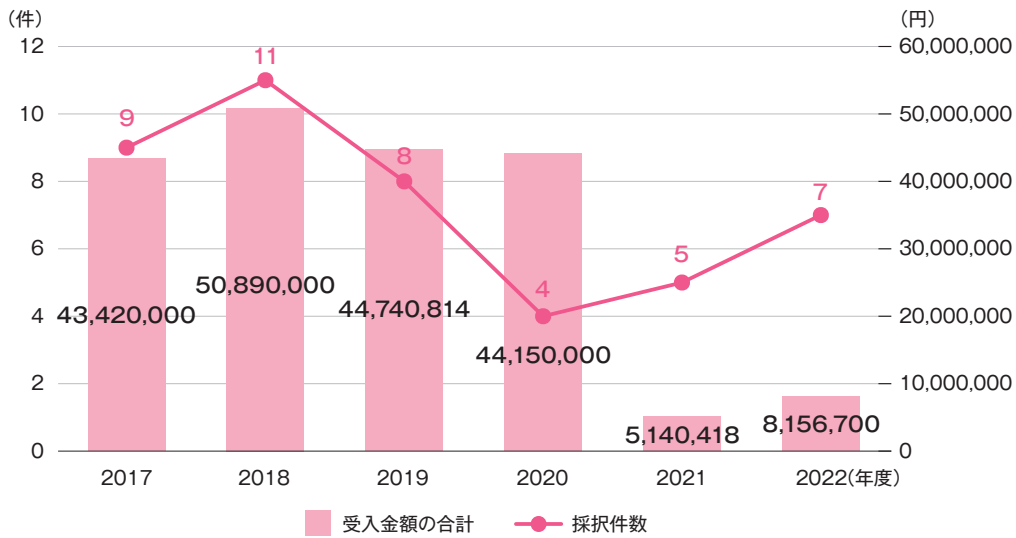
産学連携

大学院教育

業務運営

民間助成などによる研究プロジェクト

● 民間助成などによる研究プロジェクトの獲得件数と受入金額



注：採択年度ではなく、入金があった年度での集計

● 助成機関の一覧（2017～2022年度）

- 住友生命（未来を強くする子育てプロジェクト）
- 公益信託 澁澤民族学振興基金
- 公益財団法人 日本財団
- 公益財団法人 リそなアジア・オセアニア財団
- 公益財団法人 高梨学術奨励基金
- 公益財団法人 たばこ総合研究センター
- 公益財団法人 松下幸之助記念志財団
- 公益社団法人 日本地理学会
- 公益財団法人 三島海雲記念財団
- 公益財団法人 ロッテ財団
- 公益財団法人 鹿島美術財団
- 公益財団法人 アイヌ民族文化財団
- 公益財団法人 味の素の文化センター
- 公益財団法人 平和中島財団
- 公益財団法人 日本科学協会
- 公益財団法人 村田学術振興財団
- 一般社団法人 日本文化人類学会
- 日本カナダ学会
- 順益台湾原住民博物館
- Australian Research Council
- 韓国学中央研究院
- The Chiang Ching-kuo Foundation for International Scholarly Exchange

若手研究者育成の取り組み



若手研究者による本館における共同利用を促進し、若手研究者の育成に寄与するため、本館では毎年、テーマを決めて、みんぱく若手研究者奨励セミナーを開催している。2022年度は「オンライン時代の民族を考える——アーカイブ・現地・インターネット空間へのアプローチ」のタイトルのもと、2022年11月16日、17日の2日間にわたって開催した。本館教員による基調講演に引き続き、公募によって参加した7名の若手研究者による発表と討論をおこない、図書館や収蔵庫見学も実施した。優れた発表には「みんぱく若手研究者奨励セミナー賞」を授与するなど、若手研究者のキャリア作りに尽力している。

2-5 人間文化研究機構 基幹研究プロジェクト

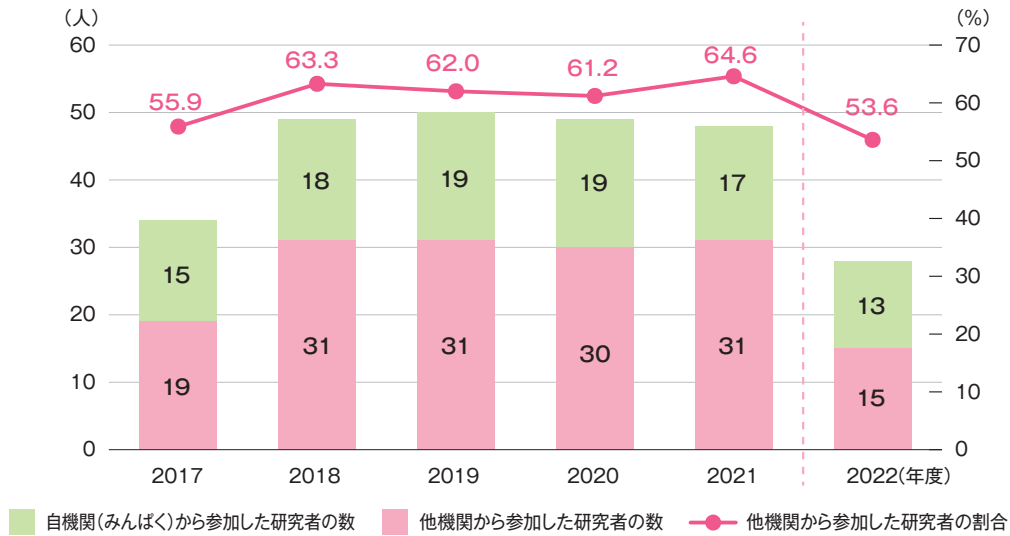
人間文化研究機構が、国内外の大学等研究機関や地域社会等と組織的に連携し、現代的諸課題の解明に資するプロジェクト。

広領域連携型 基幹研究プロジェクト

● 地域文化の効果的な活用モデルの構築

本研究は、第3期の基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」の研究活動を引き継ぎ、地域文化をテーマとした日本国内、あるいは世界各地の博物館や文化継承の活動を見ていながら、効果的な地域文化の活用モデルの構築を図る。

● みんなの広域連携型基幹研究プロジェクトに他機関から参加した研究者の数と割合



注1：自機関（みんな）の研究者には、みんなくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学（地域文化学専攻および比較文化学専攻）所属の大学院生等を含む

注2：研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

注3：2021年度までは「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」、「アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開」のプロジェクトを実施しており、2022年度以降は「横断的・融合的な地域文化研究の領域展開：新たな社会の創発を目指して」を実施

● 令和4年度の成果刊行書籍

単著

著者	書籍名	出版社
加藤幸治	民俗学 フォークロア編—過去と向き合い表現する—	武蔵野美術大学出版局

共著・編著

著者／編者	書籍名	出版社
西村慎太郎（編）	地域住民と共有する歴史と文化—大字誌の地平—	国文学研究資料館
泉田邦彦, 西村慎太郎	大字誌両竹第4号	蕃山房
高妻洋成, 建石 徹, 小谷竜介（編）	入門 大災害時代の文化財防災	同成社
石垣 悟（編）	まつりは守れるか：無形の民俗文化財の保護をめぐって	八千代出版
島立理子, 川村清志, 小田島高之（編）	定期市を歩く—定期市からみた生活文化の歴史と多様性に関する研究	国立歴史民俗博物館

ネットワーク型 基幹研究プロジェクト

● グローバル地域研究推進事業

4つの地域研究プロジェクトとは

本研究プログラムの目的を達成するため、「グローバル地域研究」プログラムのもとに「グローバル地中海」「環インド洋」「海域アジア・オセアニア」「東ユーラシア」の4つの地域研究プロジェクトを設置して、ネットワーク型の地域研究を推進していきます。

4つの地域は、それぞれの占める空間の環境特性、環境に適応した生業や生活様式、それらに根差しつつ形成された統治や経済の態様などを規定要因として長期的に独自の文化・文明を形成してきました。4つの研究プロジェクトは、それぞれの文明圏域の長期的持続と現代における展開の解明を独自の視点から推進していきます。

またこれと同時に、これら圏域間のヒト・モノ・情報・価値の移動と交流による諸関係の様相を、総括班としての機能を果たす「グローバル地域研究」プログラムと協働しつつ解明し、開かれた関係性の中に形成される「地域」と「グローバル」像の動態を把握してゆきます。

中心拠点

国立民族学博物館
東洋大学
東京外国語大学
同志社大学



中心拠点
国立民族学博物館
東京大学
大阪大学
京都大学



中心拠点
東北大学

国立民族学博物館
神戸大学
北海道大学



総括班
国立民族学博物館



中心拠点
国立民族学博物館
東洋大学
京都大学
東京立大学

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

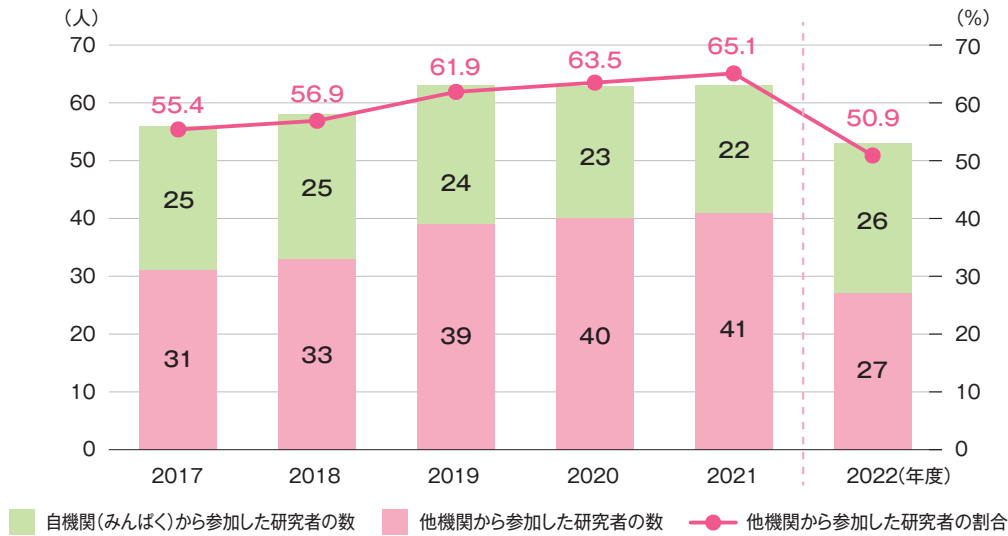
社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

● みんなくのネットワーク型基幹研究プロジェクトに他機関から参加した研究者の数と割合



注1: 自機関(みんなく)の研究者には、みんなくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学(地域文化学専攻および比較文化学専攻)所属の大学院生等を含む

注2: 研究者の数はプロジェクトごとの集計のため、複数のプロジェクトに参加している研究者は重複してカウント

注3: 2022年度からネットワーク型はグローバル地域研究推進事業として、拠点の編成等も刷新されている。

● 令和4年度の成果刊行書籍

単著

著者	書籍名	出版社
工藤晶人	兩岸の旅人——イスマイル・ユルバンと地中海の近代	東京大学出版会
岡 真理	棗椰子の木陰で：第三世界フェミニズムと文学の力 新装版	青土社
南川文里	アメリカ多文化社会論 [新版]: 「多からなる」の系譜と現在	法律文化社
西尾善太	ジープニーに描かれる生：フィリピン社会にみる個とつながりの力	風響社
朴 沙羅	記憶を語る，歴史を書く—オーラルヒストリーと社会調査	有斐閣
小野田風子	不透明の彼方の作家ケジラハビースワヒリ語文学界の挑発者—	大阪大学出版会
中西嘉宏	ミャンマー現代史	岩波書店
平野智佳子	酒狩りの民族誌—ポスト植民地状況を生きるアボリジニ	御茶の水書房
津田浩司	日本軍政下ジャワの華僑社会—『共栄報』にみる統制と動員	風響社
Hiroki Takakura	<i>Anthropology and Disaster in Japan: Cultural Contributions to Recovery after the 2011 Earthquake and Tsunami</i>	London and New York: Routledge
アリム・トヘテイ	イスラームと儒学—回儒学による文明の融合	明石書店
金 悠進	ポピュラー音楽と現代政治—インドネシア 自立と依存の文化実践	京都大学学術出版
辻本 力	失われた“雑談”を求めて	タバックス

共著・編著

著者/編者	書籍名	出版社
Kazunobu Ikeya, William Balée (eds.)	<i>Global Ecology in Historical Perspective: Monsoon Asia and Beyond</i>	Springer Nature Singapore Pte Ltd.

著者／編者	書籍名	出版社
池谷和信（編）	図説 焼畑の民—五木村と世界をつなぐ	千里文化財団
三沢伸生（編）	アジアの鉄道路線整備と社会教育の拡充：井上円了の日本・アジアにおける遊説再考	東洋大学アジア文化研究所
リック・ロカモラ（写真）、高橋 圭、後藤絵美（監修・編）	マイノリティとして生きる：アメリカのムスリムとアイデンティティ	東京外国語大学出版会
岡 真理（編）	現代イラン文学における Home/Homeland	ワタン研究プロジェクト
岡 真理（編）	イハツク・カツェネルソンと「シオニズム」～子ども向けのヘブライ語作品にそくして～	ワタン研究プロジェクト
野田 仁（編）	近代中央ユーラシアにおける歴史叙述と過去の参照	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
イスラーム文化事典編集委員会（編）	イスラーム文化事典	丸善出版
黒木英充、後藤絵美（編）	イスラーム信頼学へのいざない（イスラームからつなぐ1）	東京大学出版会
長沢栄治（監修）、岡 真理、後藤絵美（編）	記憶と記録にみる女性たちと百年（イスラーム・ジェンダー・スタディーズ 5）	明石書店
大塚 修、赤坂恒明、高木小苗、水上 遼、渡部良子（訳注）	カーシャーニー オルジェイトゥシ—イランのモンゴル政権イル・ハンの宮廷年代記—	名古屋大学出版会
中西竜也、増田知之（編）	よくわかる中国史	ミネルヴァ書房
鈴木 武（編訳）、原口剛、森田和樹、板垣竜太（編）	翻訳と連帯：ある寄せ場労働者の「抗日バルチザン参加者たちの回想記」翻訳の軌跡	同志社コリア研究センター
呉 永鎬、坪田光平（編）	マイノリティ支援の葛藤—分断と抑圧の社会的構造を問う	明石書店
原 民樹、西尾善太、白石奈津子、日下 渉（編）	現代フィリピンの地殻変動：新自由主義の深化・政治制度の近代化・親密性の歪み	花伝社
山脇啓造、上野貴彦（編）	多様性×まちづくり インターカルチュラル・シティ—欧州・日本・韓国・豪州の実践から	明石書店
久志本裕子、野中 葉（編）	東南アジアのイスラームを知るための64章	明石書店
Matsuo Mizuho, Nakamura Sae, Funahashi Kenta (eds.)	<i>Life, Illness, and Death in Contemporary South Asia: Living through the Age of Hope and Precariousness</i>	Routledge
松尾瑞穂（編）	サブスタンスの人類学—身体・自然・つながりのリアリティ	ナカニシヤ出版
遠藤 貢、阪本拓人（編）	ようこそアフリカ世界へ	昭和堂
河崎 豊、藤永 伸（編）	ジャイナ教聖典選	国書刊行会
河崎 豊（編）	アジア研究図書館所蔵ユネスコ・アジア文化センター識字教育資料目録 3	東京大学附属図書館アジア研究図書館研究開発部門
小松久恵、小磯千尋（編）	インド文化読本	丸善
井坂理穂、クラウディア・デーリヒス（編）	アジアにおける知の創出と循環—近代インドにおける日本表象の事例から	東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター
西野範子、野上建紀、木村 淳、田中克子、青山亨（編）	チャウタン沈没船の考古学研究	特定非営利活動法人東南アジア埋蔵文化財保護基金

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

著者／編者	書籍名	出版社
姜 尚中 (監修), 青山亨, 伊東利勝, 小松久男, 重松伸司, 妹尾達彦, 成田龍一, 古井龍介, 三浦徹, 村田雄二郎, 李成市 (編)	アジア人物史第7巻 近世の帝国の繁栄とヨーロッパ	集英社
姜 尚中 (監修), 青山亨, 伊東利勝, 小松久男, 重松伸司, 妹尾達彦, 成田龍一, 古井龍介, 三浦徹, 村田雄二郎, 李成市 (編)	アジア人物史第1巻 神話世界と古代帝国	集英社
菅原由美 (編)	Field Plus no. 28. 巻頭特集「現地語写本にみる東南アジアのイスラーム化」	アジア・アフリカ言語文化研究所
加藤 諭, 宮本隆史 (編)	デジタル時代のアーカイブ系譜学	みすず書房
木村真希子, 石坂晋哉 (編)	PRIME Occasional Papers 第8号 インパール作戦——現地被害・記憶・和解	明治学院大学国際平和研究所
角南聡一郎, 丸山顕誠 (編)	神話研究の最先端	笠間書院
Atsushi Nobayashi (ed.)	<i>Making Food in Local and Global Contexts: Anthropological Perspectives.</i>	Springer
中尾勘悟 (著), 久保正敏 (編)	有明海のウナギは語る：食と生態系の未来	河出書房新社
小坂田裕子, 深山直子, 丸山淳子, 守谷賢輔 (編)	考えてみよう先住民族と法	信山社
横山 智, 湖中真哉, 由井義通, 綾部真雄, 森本泉, 三尾裕子 (編)	フィールドから地球を学ぶ—地理授業のための60のエピソード—	昭和堂
遠藤誠治 (編)	国家安全保障の脱構築—安全保障を根本から考え直す	法律文化社
李 善姫, 高倉浩樹 (編)	災害〈後〉を生きる—慰霊と回復の災害人文学	新泉社
王 柳蘭, 山田孝子 (編)	マイクロヒストリーから読む越境の動態	国際書院
櫻間瑞希, 菱山湧人 (編)	ニューエクスプレスプラス タタール語	白水社
山本 薫, 宮代康丈 (編)	言語文化とコミュニケーション	慶應義塾大学出版会
日本台湾教育支援研究者ネットワーク (編)	臺灣書旅：台湾を知るためのブックガイド	台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター, 株式会社紀伊國屋書店
Akihiro Iwashita, Yong-Chool Ha, Edward Boyle (eds.)	<i>Geo-Politics in Northeast Asia</i>	Routledge
千葉大学移民難民スタディーズ, NPO法人多文化フリースクールちば	千葉の移民コミュニティの教育と福祉に関する調査—アフガニスタン人とスリランカ人のコミュニティの現状—	千葉大学移民難民スタディーズ
池畑周直美, エドワード・ポイル (編)	日本の境界 国家と人びとの相克	北海道大学出版会
工藤信彦 (著), 中山大将 (編)	樺太覚書	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット

2-6 人間文化研究機構 共創先導プロジェクト

人間文化研究機構が、研究成果の共有化や地域・社会との共創を推進するプロジェクトであり、「社会共創」「デジタル化」「国際共創」をキーワードに研究展開を図っている。

共創促進研究

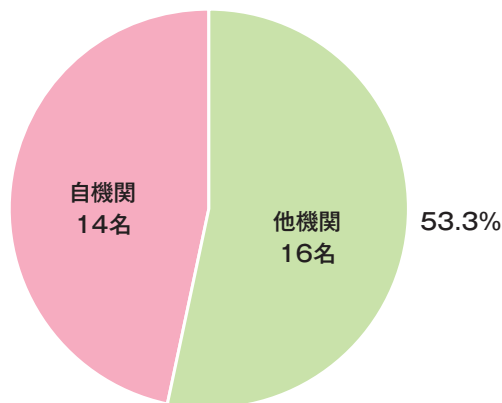
● コミュニケーション共生科学の創成

本研究では、国立民族学博物館と国立国語研究所が主たる拠点となり、あらゆる特性をもつ人が同等に参加できる「コミュニケーション共生」のための新しい研究分野を確立することを目標とする。「コミュニケーション弱者」「障害者」と呼ばれる人たちが、他の人々と同等に社会活動に参加できるようになるためには、現状のメカニズムを解明し、それぞれのニーズの違いとバランスをとるための基礎研究を進める必要がある。このような研究を進め、それをインフラ整備というハード面と一般社会の認識というソフト面の変化につなげていく。

● 学術知デジタルライブラリの構築

本研究では、日本国内の研究者・研究機関が現地調査を通して蓄積してきた写真・動画・音声資料等の資料を保存し有効に利用するため、人文機構の国立民族学博物館・国立国語研究所と国立情報学研究所が共同して、デジタル技術を活用しながら資料のアクセス性を高めていく。さまざまな分野における過去の現地調査成果を現代において見直す作業を通して、学術の進展を加速させる。

● 令和4年度 みんなの共創先導プロジェクトに他機関から参加した研究者の数と割合



注：自機関（みんな）の研究者には、みんなくで研究活動をおこなう名誉教授、人間文化研究機構所属の理事および研究員、他に本務先のない外来研究員、総合研究大学院大学（地域文化学専攻、比較文化学専攻、および人類文化研究コース）所属の大学院生等を含む

● 令和4年度の成果刊行書籍

共著・編著

著者／編者	書籍名	出版社
柳澤雅之、澁谷由紀、小川有子、藤倉哲郎(編)	百穀社通信 21号 Thông Tin Bách Cốc	京都大学東南アジア地域研究研究所

3 共同利用

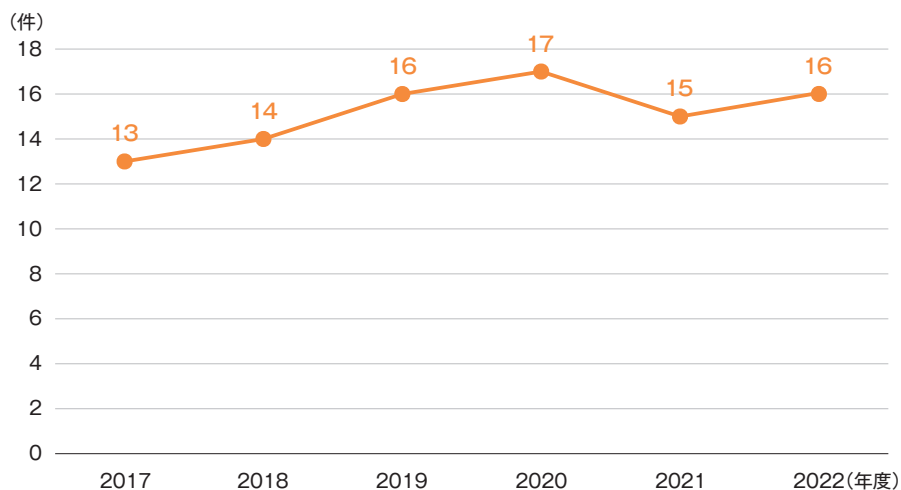
3-1 国内における研究連携

国内学術協定

令和4年度 国内学術協定一覧

No.	締結日	相手機関名	交流協定の概要（研究分野、協定に基づく活動等）
1	H20.2.27	日本文化人類学会	研究連携、研究交流、相互の研究成果の活用を促進し、もって人類社会における学術の発展と普及に寄与する。
2	H26.3.23	国立大学法人 金沢大学	金沢大学と国立民族学博物館とのこれまで長年にわたり培ってきた信頼関係と連携・協力の実績を基盤に、より緊密かつ組織的に行う体制強化を図る。
3	H27.3.23	大阪工業大学	情報メディア・デジタルコンテンツに関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を行う。
4	H27.11.19	株式会社 海遊館	産学連携の推進、学術研究の振興、研究成果による社会貢献、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を行う。
5	H27.11.25	国立大学法人 東京外国語大学 (アジア・アフリカ言語文化研究所)	世界諸地域の言語と文化に関する学術研究、その他の諸活動の発展に向けた連携協力を行う。
6	H28.7.15	国立大学法人 神戸大学 (大学院人文学研究科)	研究教育職員の交流、共同研究及び教育協力等の実施、資料の保存、活用及び展示に関する相互協力等を行う。
7	H30.2.16	国立大学法人 山形大学	研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
8	H30.3.17	国立大学法人 大阪大学	学術研究、教育、社会貢献及びその他諸活動の発展に資する。
9	H30.3.19	京都芸術大学 (R2.4.1～) (旧 京都造形芸術大学)	研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
10	H30.11.19	一般社団法人 文化財保存修復学会	文化財保存のための基礎研究を行う研究者、実際に文化財の修復を行う修復家、美術館・博物館の学芸員、将来の専門家を育成する教育機関の関係者、専門家を志す学生などさまざまな立場の会員が集まり、文化財の保存に関わる科学・技術の発展と普及を図る。
11	R1.11.3	一般社団法人 東洋音楽学会	研究連携、研究交流、相互の研究成果の活用を促進し、もって音楽文化の持続可能な発展と、音楽文化研究の深化に寄与する。
12	R2.3.26	神奈川大学日本常民文化研究所	両機関が行う研究活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究の一層の進展と日本の文化人類学・民俗学等の発展に資する。
13	R3.3.22	公立大学法人 金沢美術工芸大学	相互に連携を図り、平成の百工比照コレクションデータベース（以下「データベース」という。）を基に、高等教育におけるデータベースの在り方及び活用手法について検証するとともに、社会連携事業と連動させることにより、高等教育教材の実用化を目的とする。
14	R4.8.1	情報・システム研究機構国立情報学研究所	両機関が行う研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
15	R4.9.12	国立大学法人 岡山大学文明動態学研究所	両者が行う研究・教育活動全般における学術交流・協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資する。
16	R5.3.27	北海道釧路湖陵高等学校	北海道釧路湖陵高等学校が行う「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」における協力を推進し、相互の研究・教育の一層の進展と地域社会及び国内外の発展に資することを目的とする。

● 国内学術協定締結数の推移



共同利用型科学分析室

民族資料や文化財、博物館資料を対象に、非破壊分析や材質分析をおこなう分析装置システムを所有している。

● 主な所有機器

(1) 文化資源非破壊・材質分析システム：成分分析システム—成分分析計

(2) X線透視CTスキャン装置



(3) 文化資源非破壊・材質分析システム：成分分析システム—赤外分光光度計

(4) エネルギー分散型蛍光X線分析装置

(5) 文化資源非破壊・材質分析システム：
成分分析システム—蛍光X線分析装置



(6) 文化資源非破壊・材質分析システム：パイロライザーガスクロマトグラフ質量分析システム

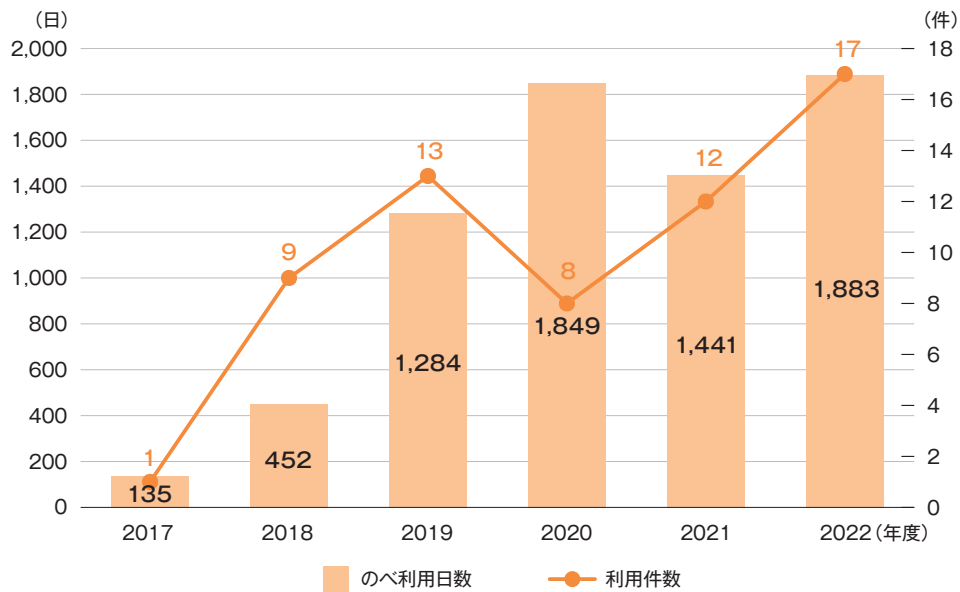
(7) 文化資源非破壊・材質分析システム：低湿度型恒温恒湿器

(8) 文化資源非破壊・材質分析システム：デジタルマイクロスコープ

(9) 三次元積層造形機（3Dプリンター）

(10) 三次元形状計測装置

共同利用型科学分析室の利用実績



注1：2017年12月設置。それ以前は準備室としての実績

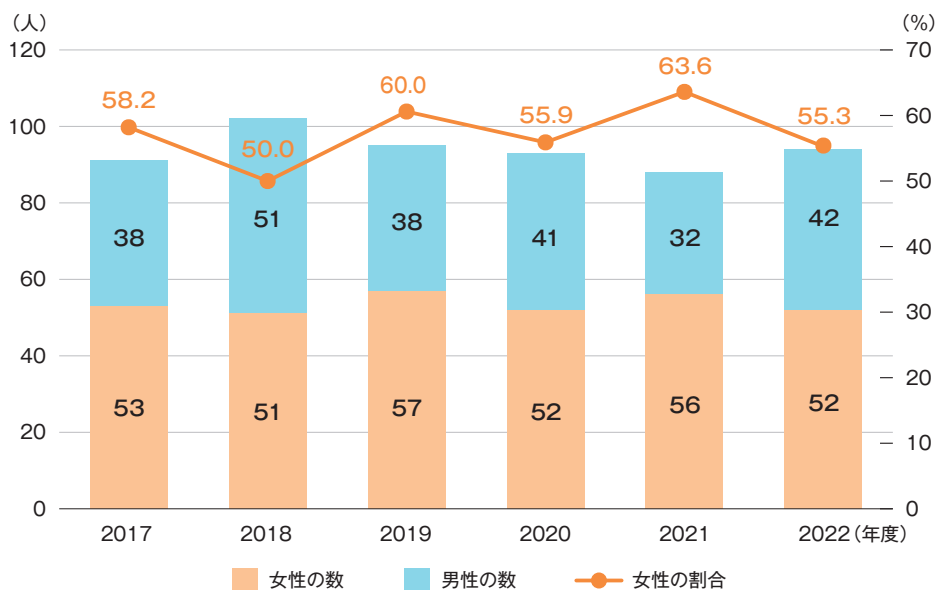
注2：利用申請にもとづく日数のため、実際に科学分析室を利用した日数とは異なる場合がある

3-2 研究員制度

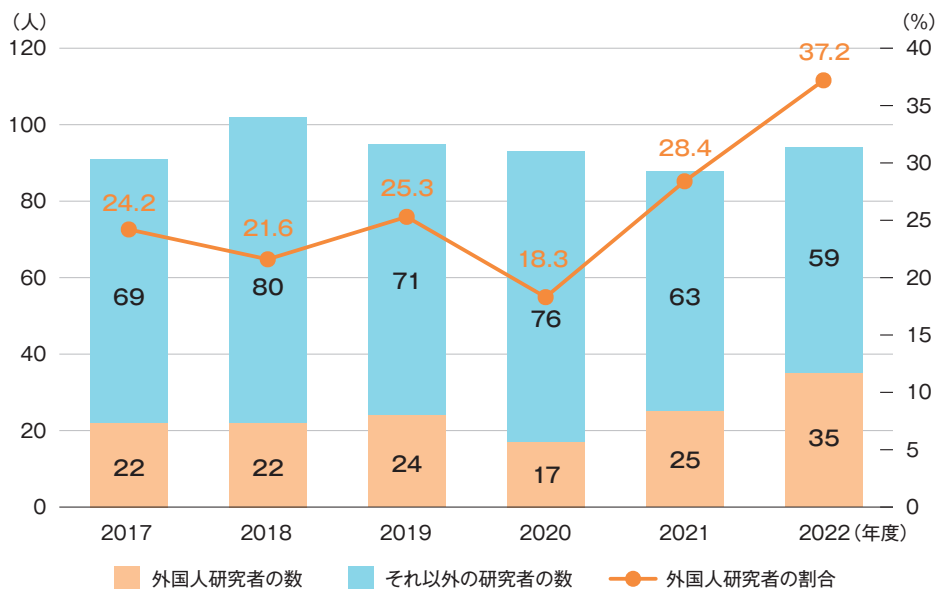
外来研究員

国内外の研究者を外来研究員として受け入れている。

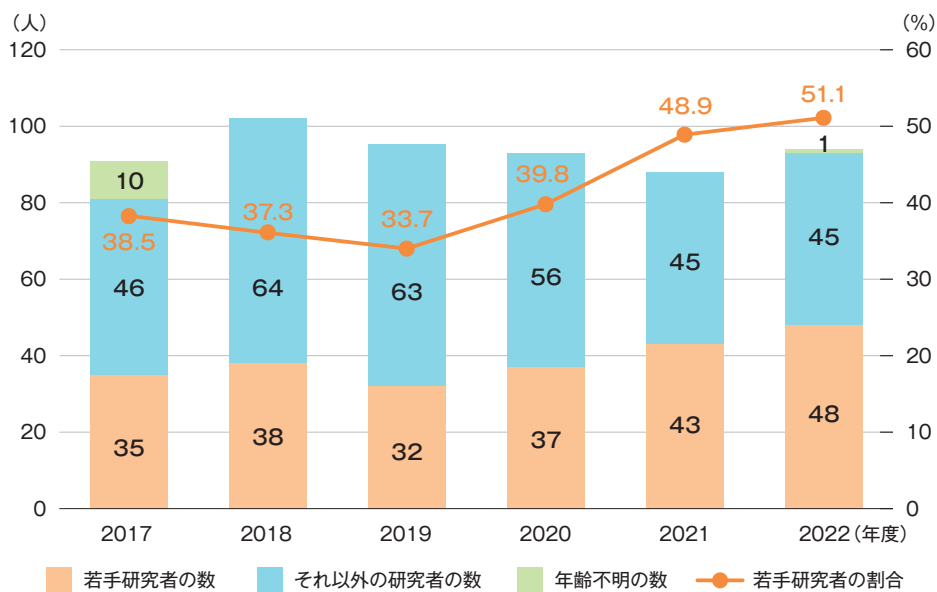
外来研究員の数（男女別）と女性の割合



● 外来研究員のうち外国人研究者の数と割合



● 外来研究員のうち若手研究者（39歳以下）の数と割合

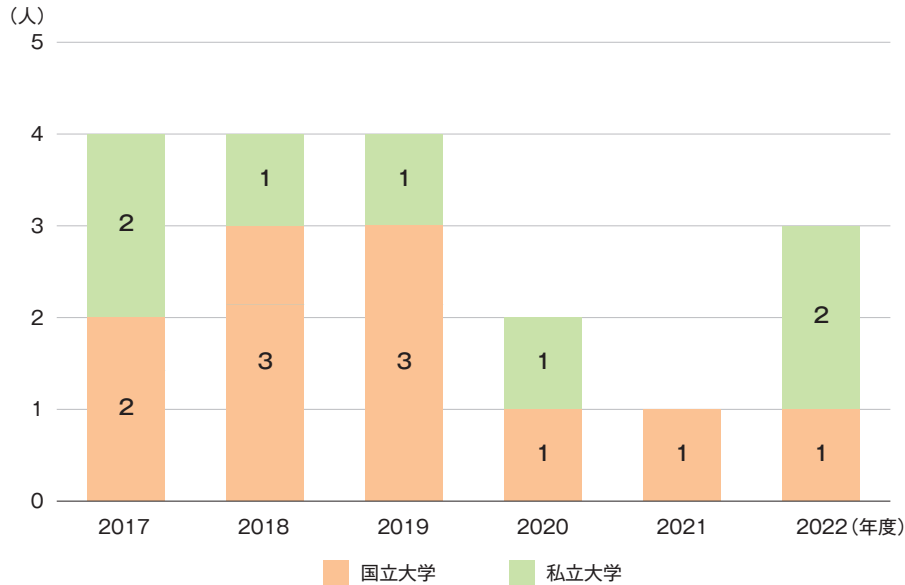


注：同じ年度内に同一人物を複数回受け入れた場合は1名としてカウント

特別共同利用研究員

全国の大学の博士後期課程に在籍する学生を、当該学生の所属する大学院研究科からの委託をうけて特別共同利用研究員として受け入れている。

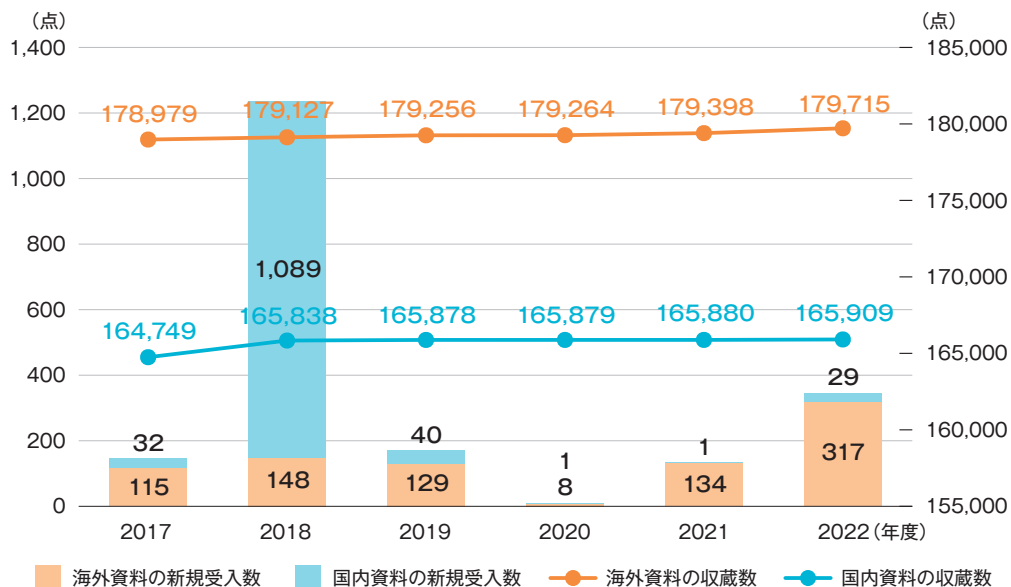
● 特別共同利用研究員の数



3-3 資料の収集と利用

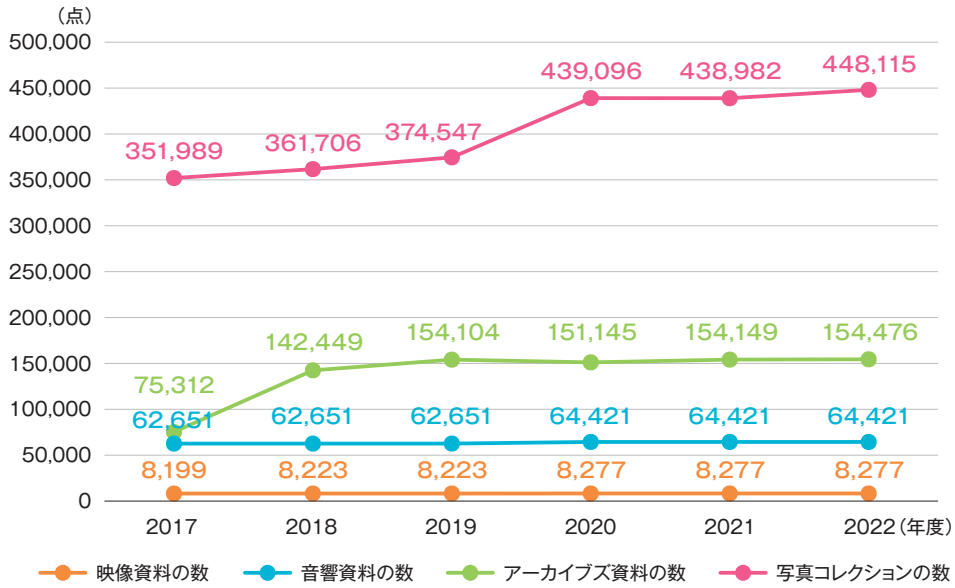
標本資料および映像・画像・音響資料

● 標本資料の新規受入数と収蔵数の推移

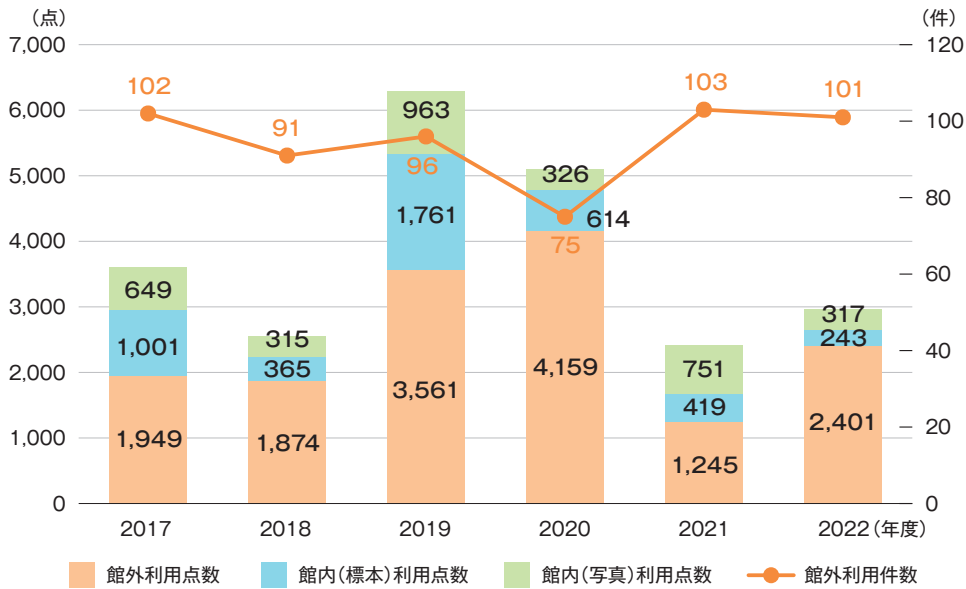


注：標本資料の数には未登録資料の数を含む

● 映像音響関連資料の数の推移



● 標本資料の利用点数と館外利用された件数



組織

研究

共同利用

展示

国際連携

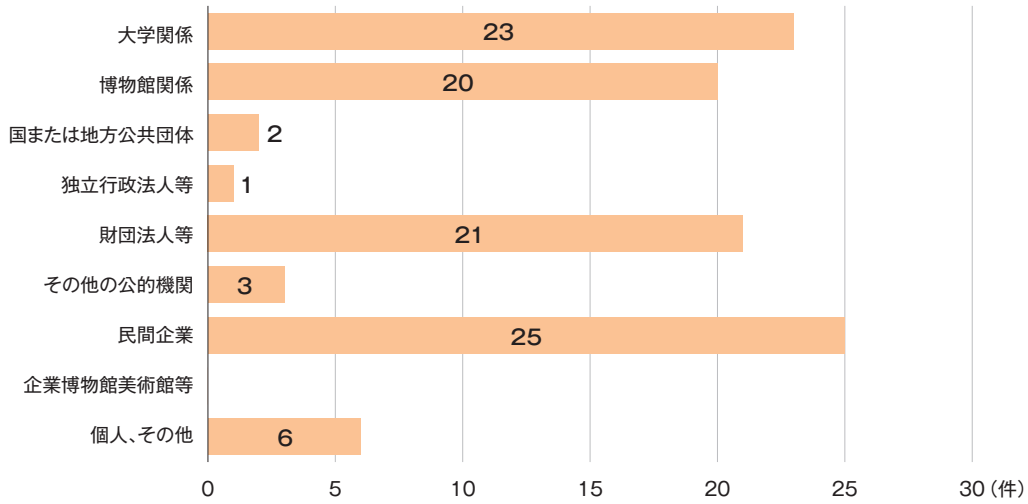
社会連携

産学連携

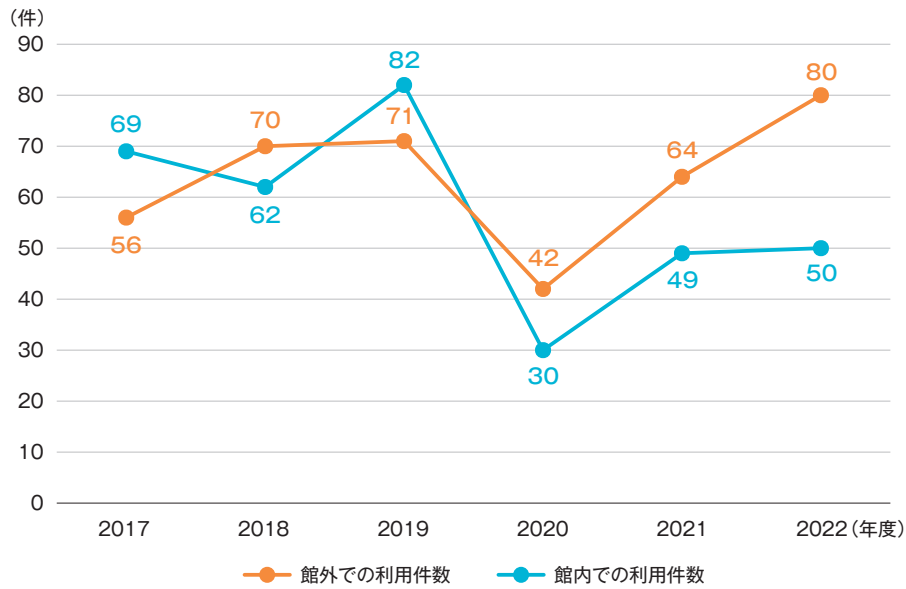
大学院教育

業務運営

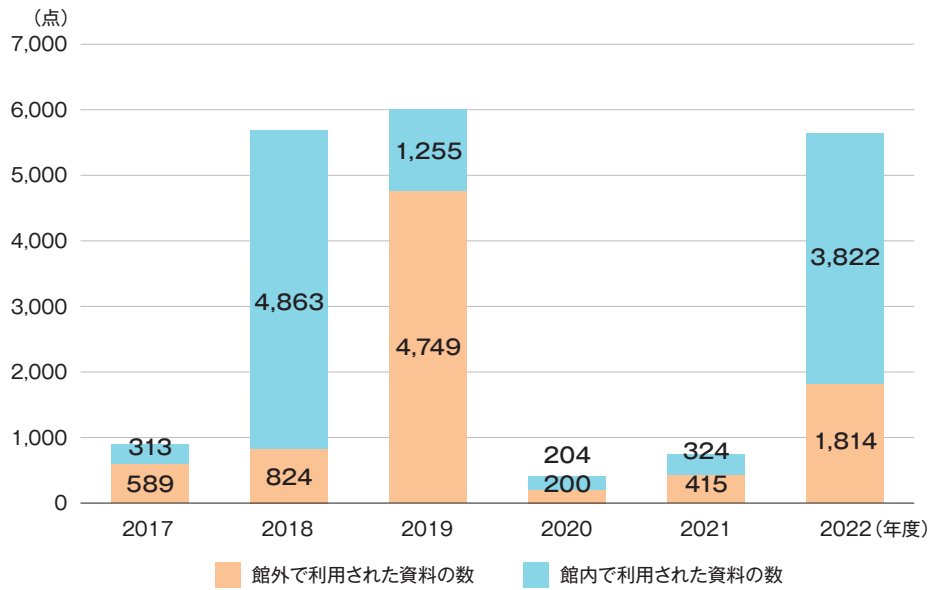
● 令和4年度 標本資料の館外利用者区分別の利用件数



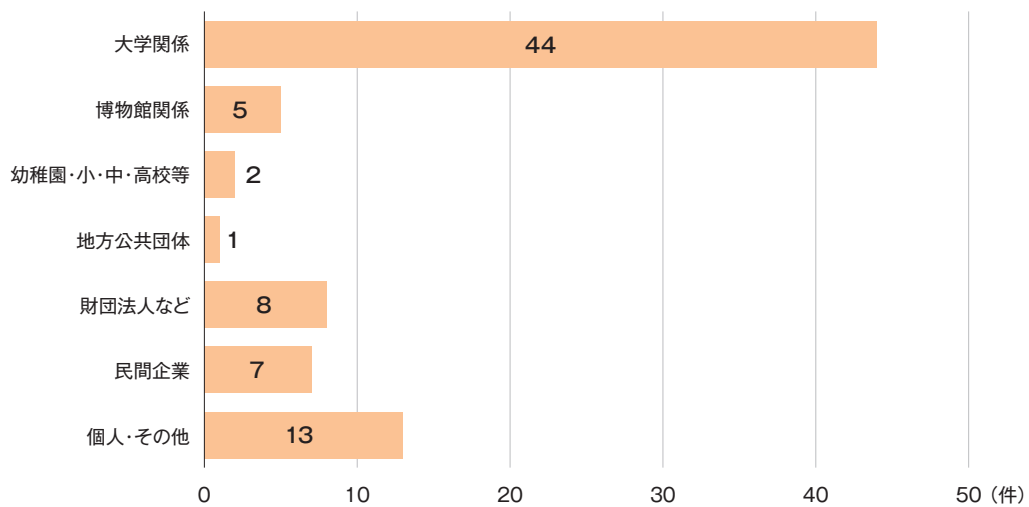
● 映像音響関連資料の利用件数の推移



● 映像音響関連資料の利用資料数



● 令和4年度 映像音響関連資料の館外利用者区分別の利用件数



組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

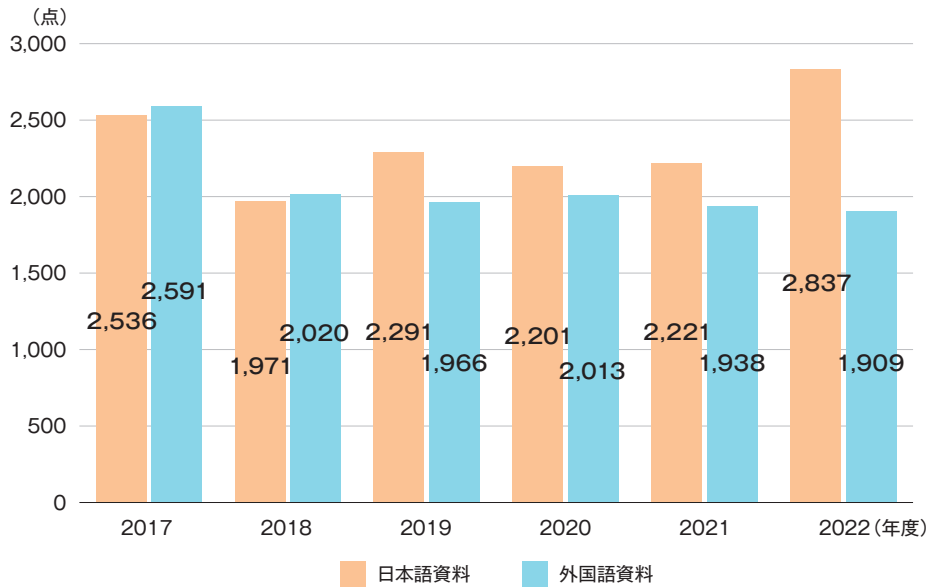
産学連携

大学院教育

業務運営

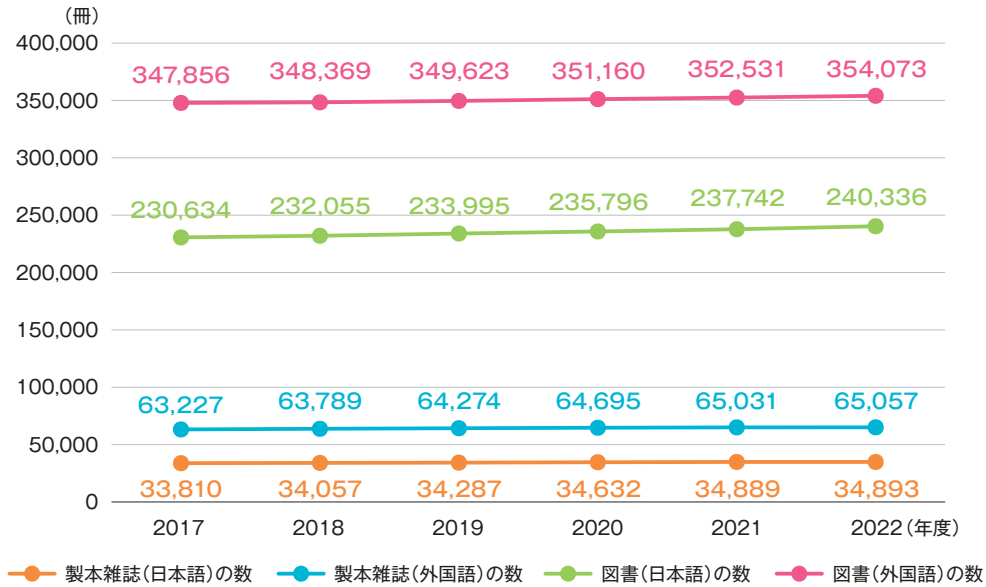
文献図書資料

● 文献図書資料の受入数

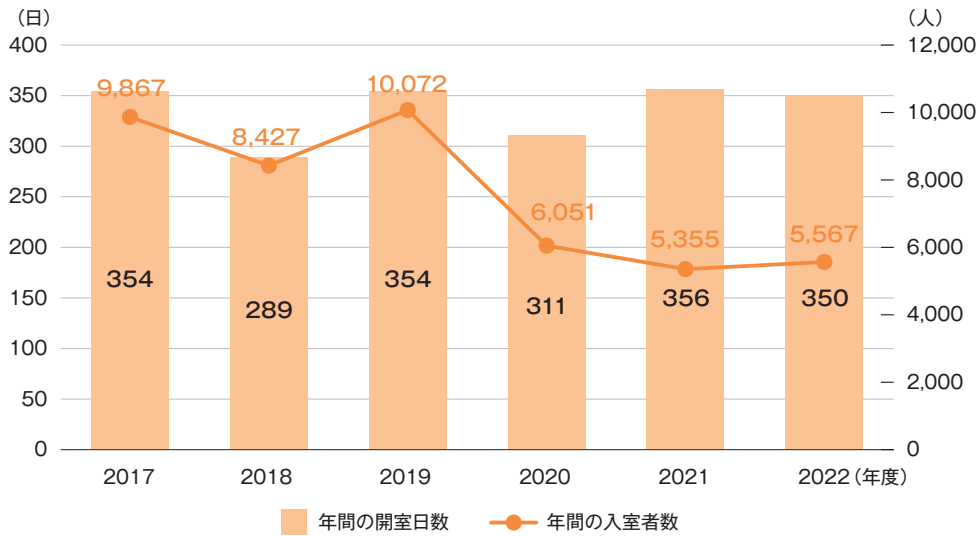


注：文献図書資料には図書、マイクロ資料、AV資料、製本雑誌を含む

● 図書室の蔵書数の推移

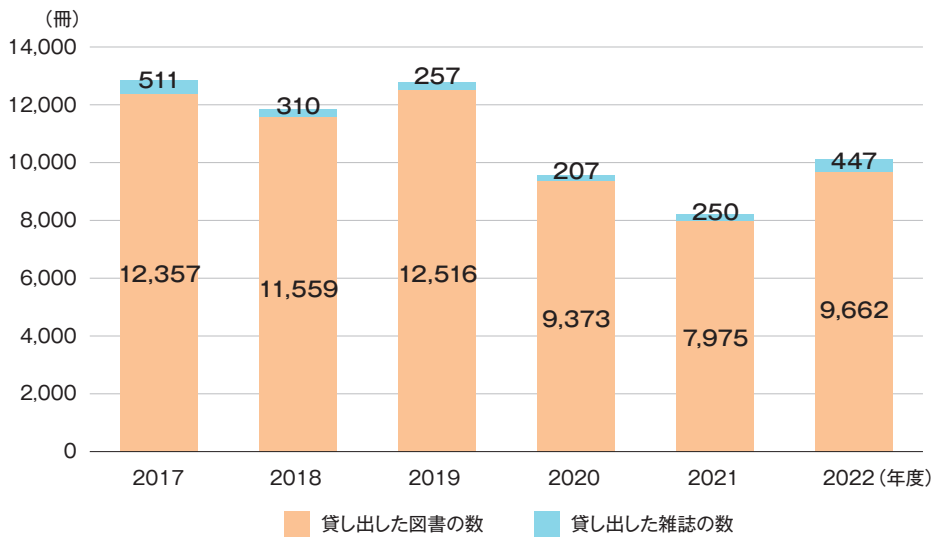


● 図書室の開室日数と入室者数の推移



注1：大阪府北部地震の影響による臨時閉室
 2018年6月18日～2018年8月22日
 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時閉室
 2020年2月28日～2020年6月17日
 2021年4月25日～2021年6月23日
 注2：開室日数には臨時閉室中、館内利用者のみ開室していた期間を含む

● 図書室の年間貸出数



注：大阪府北部地震の影響による臨時閉室
 2018年6月18日～2018年8月22日
 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時閉室
 2020年2月28日～2020年6月17日
 2021年4月25日～2021年6月23日

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

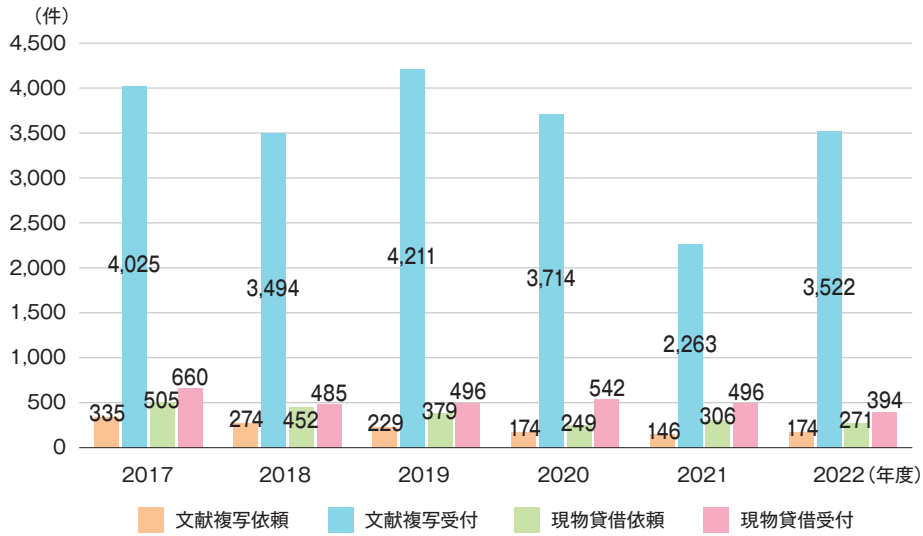
社会連携

産学連携

大学院教育

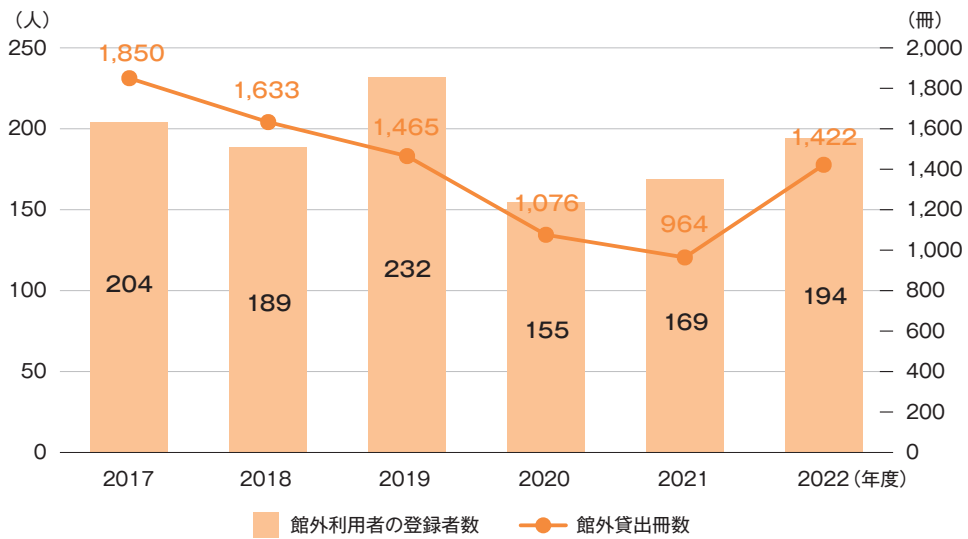
業務運営

● 図書室での相互利用（ILL）サービスの利用件数



注：相互利用（ILL）サービスは、国内外の図書館間で所蔵していない資料の文献複写や現物を取り寄せることができるサービス

● 図書室の館外利用者の登録者数と館外貸出冊数



データベース

令和4年度 データベース一覧

〈一般公開：34件〉

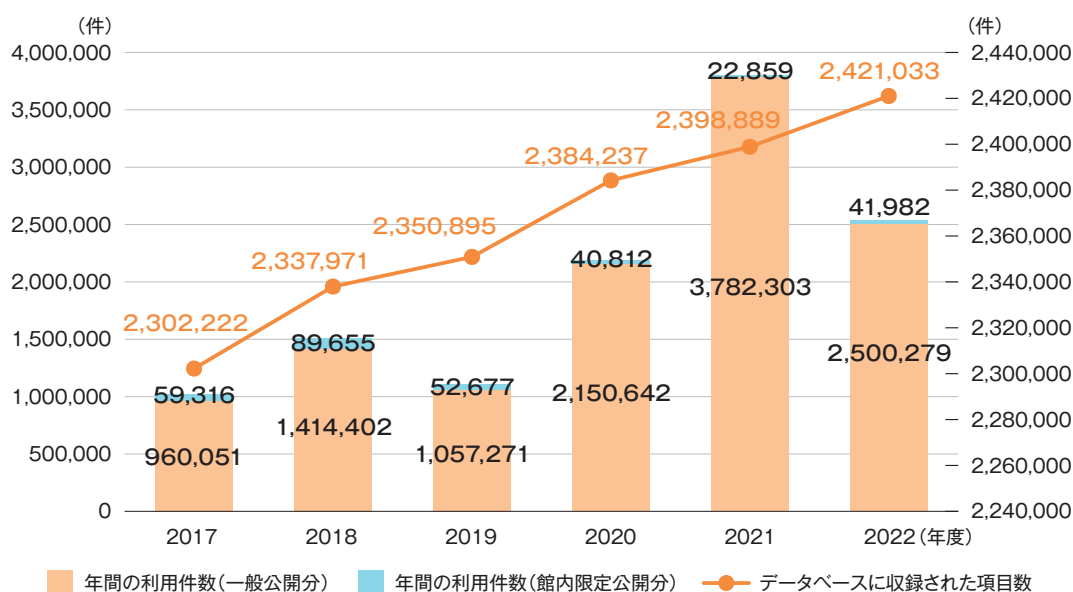
構築年度	データベース名	収録件数 (件)
H10	図書・雑誌目録 (OPAC)	図書資料：652,394 雑誌タイトル数：17,344
H16	標本資料目録データベース	286,819
H16	韓国生活財データベース	7,827
H16	中西コレクションデータベース—世界の文字資料—	2,729
H16	吉川「シュメール語辞書」データベース	キーワード：33,450 40,596頁
H18	標本資料詳細情報データベース	87,217
H18	ネパール写真データベース [日本語版・英語版]	3,879
H19	ビデオテークデータベース	844
H19	松尾三憲旧蔵絵葉書コレクション	170
H19	衣服・アクセサリデータベース	33,168
H19	身装文献データベース	187,378
H21	映像資料目録データベース	8,277
H21	音響資料目録データベース	64,421
H21	音響資料曲目データベース	351,802
H21	Talking Dictionary of Khinina-ang Bontok (ボントック語音声画像辞書)	14,048
H21	近代日本の身装電子年表	14,514
H22	標本資料記事索引データベース	81,654
H22	ジョージ・ブラウン・コレクション [日本語版・英語版]	2,992
H23	音楽・芸能の映像データベース	849
H23	日本昔話資料データベース (稲田浩二コレクション)	3,696
H24	梅棹忠夫著作目録 (1934～) データベース	6,994
H25	rGyalrongic Languages (ギャロン系諸語) データベース [英語、中国語]	語彙：41,078 文例：15,706
H27	国立民族学博物館所蔵 京都大学学術調査隊写真コレクション	22,361
H28	西太平洋およびインド洋を中心とする海洋民族写真資料—大島襄二写真コレクション	7,889
H28	アフリカ カメルーン民族誌写真集—一端信行コレクション	6,530
H28	沖守弘インド写真データベース [日本語版・英語版]	21,971
H28	身装画像データベース—近代日本の身装文化	6,794
H29	3次元 CG で見せる建築—東南アジア島嶼部の木造民家	38地点 61棟
H29	津波の記憶を刻む文化遺産—寺社・石碑データベース	481
R1	焼畑の世界—佐々木高明のまなざし	451
R1	平成の百工比照コレクションデータベース	579
R2	チベット宗教図像 (白描画) データベース	1,439
R4	毛沢東バッジ	98
R4	柳染色加工所見本裂データベース	185

〈館内限定公開：14件〉

構築年度	データベース名	収録件数 (件)
H13	朝枝利男コレクション	3,966
H13	国内資料調査報告集データベース	21,373
H18	標本資料詳細情報データベース (館内限定)	286,835
H20	日本昔話資料データベース (稲田浩二コレクション) (館内限定)	3,696
H21	タイ民族誌映像データベース—精霊ダンス—	写真：10,082 調査報告：41
H22	オーストラリア・アボリジニ研究フィールド写真データベース	7,999
H22	東南アジア稲作民族文化総合調査団写真データベース	4,393

構築年度	データベース名	収録件数 (件)
H23	カナダ先住民版画データベース	158
H23	音楽・芸能の映像データベース (館内限定)	849
H23	国立民族学博物館所蔵 京都大学学術調査隊写真コレクション	42,195
H23	梅棹忠夫写真コレクション	35,481
H23	西北ネパール及びマナスル写真データベース	620
H27	沖守弘インド写真データベース [日本語版]	22,120
H28	西太平洋およびインド洋を中心とする海洋民族写真資料—大島襄二写真コレクション	8,842

● データベースに収録された件数の推移と年間に利用された件数



注1：利用件数は画面表示された件数

注2：データベースに収録された項目数は何を項目とみなすかによって変動する。『吉川「シュメール語辞書」データベース』ではキーワード数、『Talking Dictionary of Khinina-ang Bontok (ボントック語音声画像辞書)』では見出し語の数、『rGyalrongic Languages (ギャロン系諸語) [英語、中国語]』では登録語彙数、『タイ民族誌映像データベース—精霊ダンサー』では写真と調査報告の数を合わせたもの、『3次元CGで見せる建築データベース—東南アジア島嶼部の木造民家』では民家の数を用いた。

民族学研究アーカイブズ

創設以来、本館が集積してきた資料や情報（民族学者の研究ノートや原稿、フィールドワークで生成、収集された映像・録音記録など）を公開している。

令和4年度 民族学研究アーカイブズ一覧

No.	アーカイブ名	リスト公開	資料件数
1	青木 文教（あおき ぶんきょう）アーカイブ	平成20年度～	889
2	石毛 直道（いしげ なおみち）アーカイブ	令和元年度～	2,786
3	泉 靖一（いずみ せいいち）アーカイブ	平成27年度～	1,164
4	稲田 浩二（いなだ こうじ）日本昔話関連 アーカイブ	限定公開	3,199
5	岩本 公夫（いわもと きみお）アーカイブ	平成27年度～	7,218
6	内田 勳（うちだ いさお）アーカイブ	平成30年度～	131
7	梅棹 忠夫（うめさお ただお）アーカイブズ	平成26年度～	約60,000
8	江口 一久（えぐち かずひさ）・アフリカ-アジアの言語アーカイブ	平成30年度～	2,246
9	大内 青琥（おおうち せいこ）アーカイブ	平成22年度～	62
10	沖 守弘（おき もりひろ）・インド民族文化資料アーカイブ	平成28年度～	459
11	桂 米之助（かつら よねのすけ）アーカイブ	平成21年度～	1,036
12	鹿野 忠雄（かの ただお）アーカイブ	平成23年度～	1,582
13	木内 信敬（きうち のぶゆき）「ジブシー（ロマ）研究」アーカイブ	令和元年度～	949
14	菊沢 季生（きくざわ すえお）アーカイブ	平成19年度～	922
15	栗田靖之 - 別府春海・日本人の贈答アーカイブ	平成30年度～	4,059
16	小林 保祥（こばやし やすよし）・台湾南部原住民族アーカイブ	平成30年度～	1,094
17	篠田 統（しのだ おさむ）アーカイブ	平成30年度～	5,752
18	杉浦 健一（すぎうら けんいち）アーカイブ	平成23年度～	1,282
19	西北ネパール学術探検隊1958年データカードアーカイブ	令和元年度～	6,584
20	土方 久功（ひじかた ひさかつ）アーカイブ	平成19年度～	288
21	馬淵 東一（まぶち とういち）アーカイブ	平成19年度～	270
22	丸谷 彰（まるたに あきら）・朽木村針畑生活資料アーカイブ	平成30年度～	54
23	「日本文化の地域類型研究会」アーカイブ	平成19年度～	977

注：資料件数は、各アーカイブ資料の目録件数

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

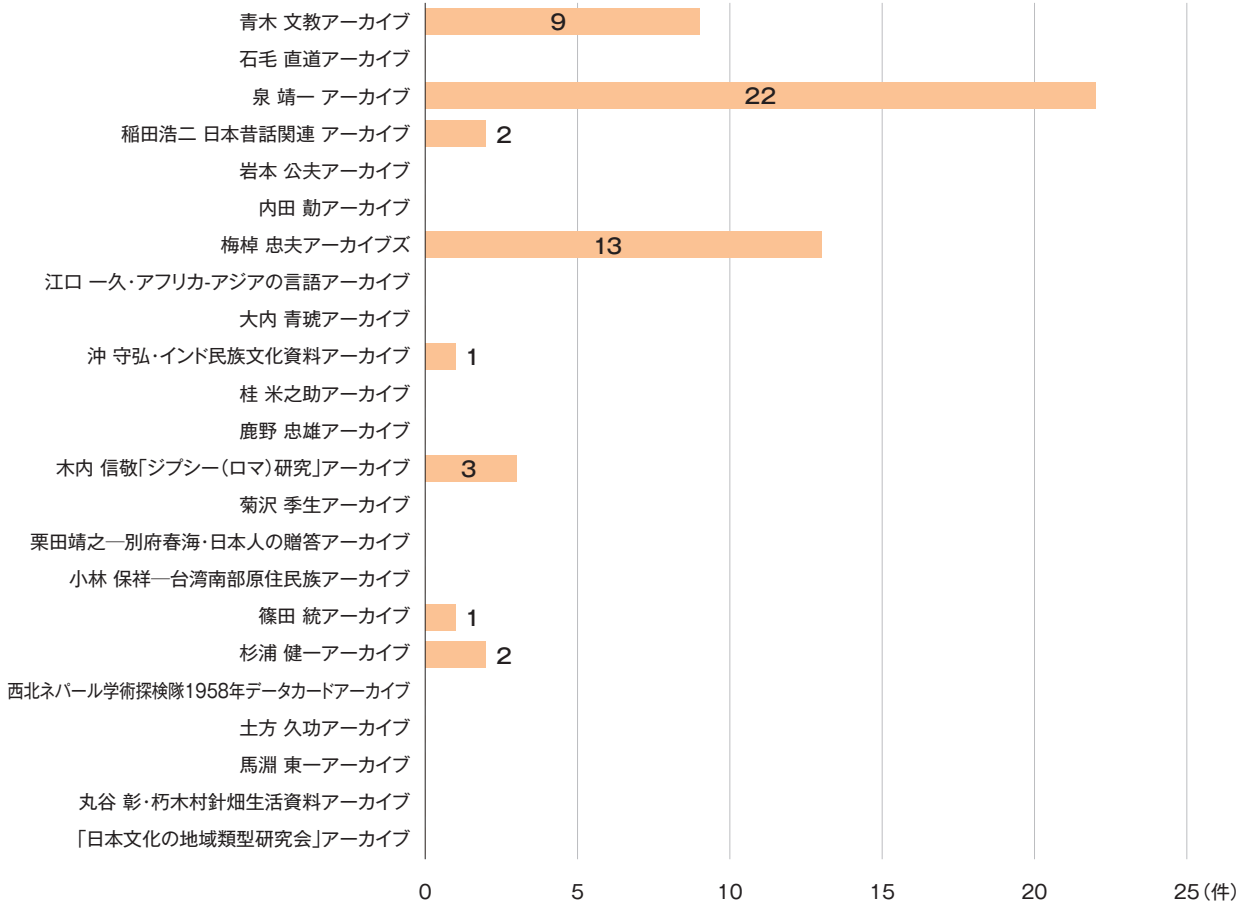
社会連携

産学連携

大学院教育

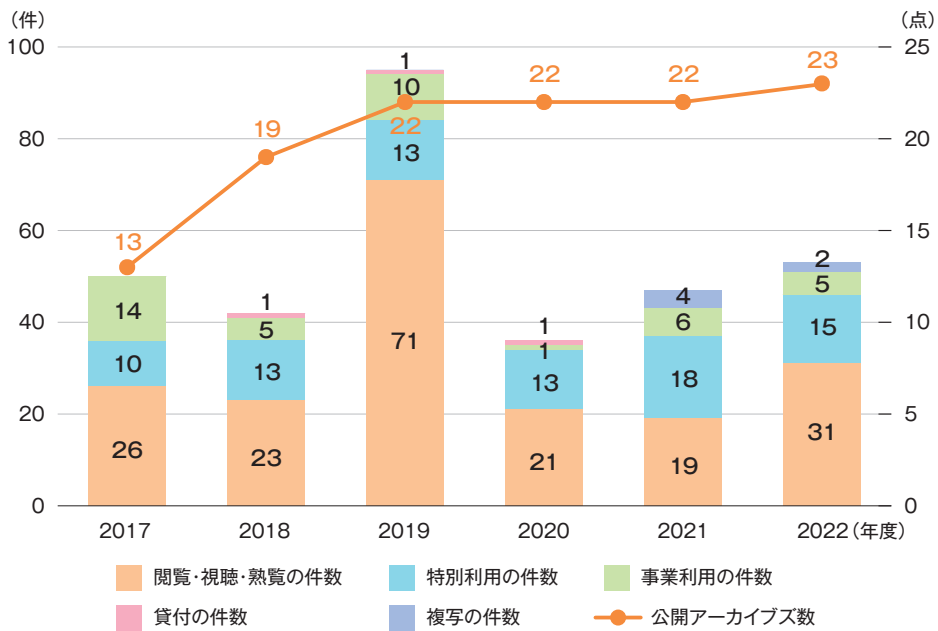
業務運営

● 令和4年度 民族学研究アーカイブズのアーカイブ別の利用件数



注：「稲田浩二 日本昔話関連 アーカイブ」は未公開

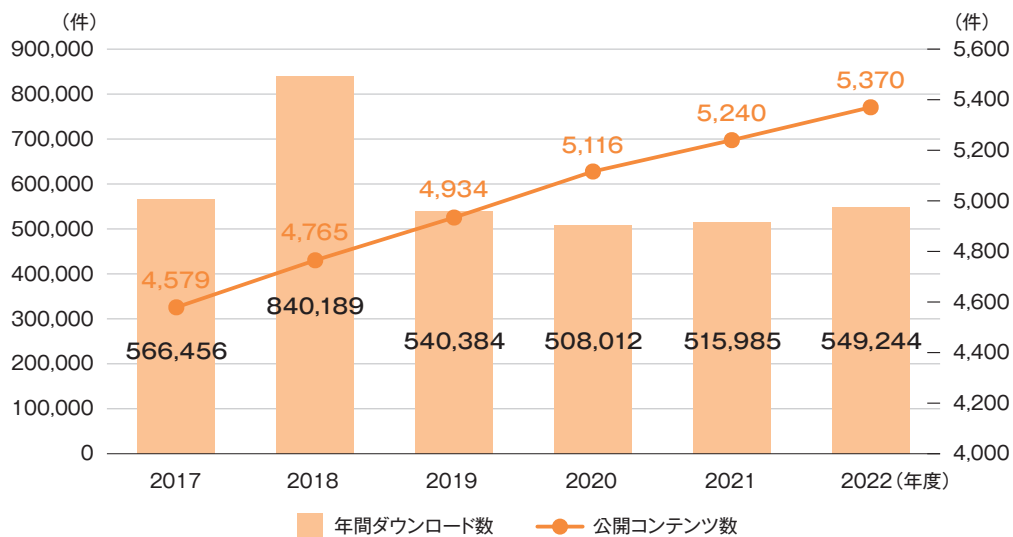
● 民族学研究アーカイブズの利用区分別の利用件数と公開アーカイブズ数



学術情報リポジトリ

国立情報学研究所のJAIRO Cloud (共用リポジトリサービス) を利用して、館内出版物および、外部で出版されたものうち利用許諾が得られた論文等を公開している。

● みんなく学術情報リポジトリの公開コンテンツ数と年間ダウンロード数



組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

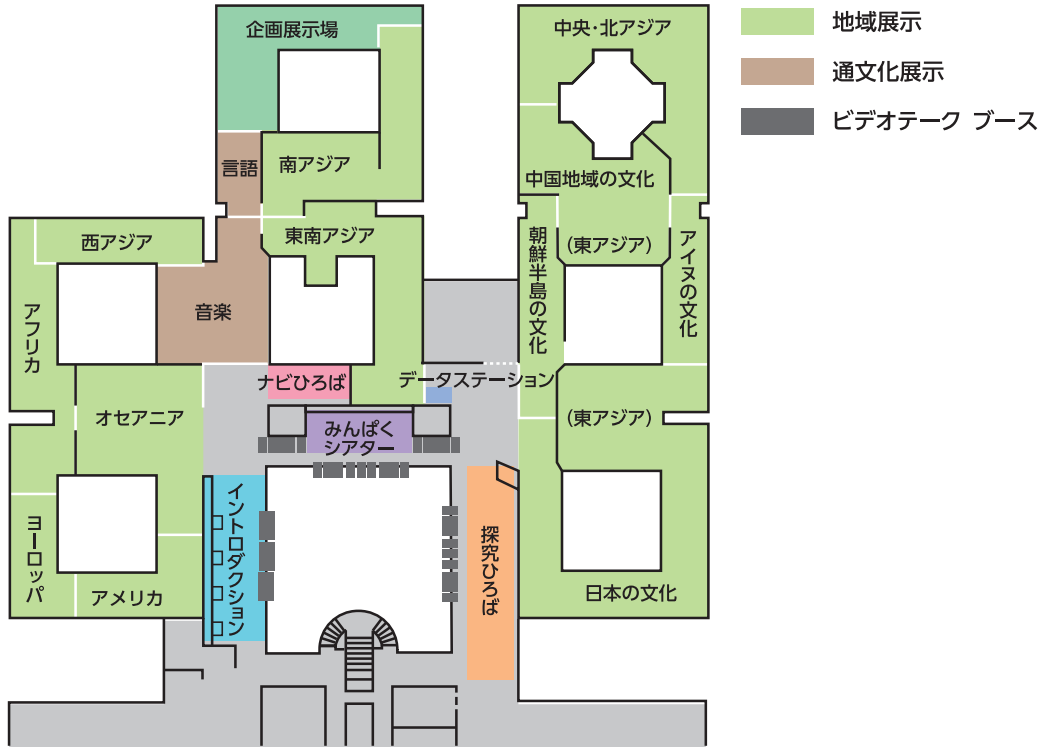
産学連携

大学院教育

業務運営

4 展示

4-1 本館展示



地域展示：世界を大きくオセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、西アジア、東南アジア、中央・北アジア、東アジアの9地域に分けて展示

通文化展示：特定のジャンル（現在は、言語と音楽）を取り上げて広く世界の民族文化を通覧する

● 本館展示場



展示場のユニバーサル化の取り組み



特別展

Homō loquēns 「しゃべるヒト」 ～ことばの不思議を科学する～

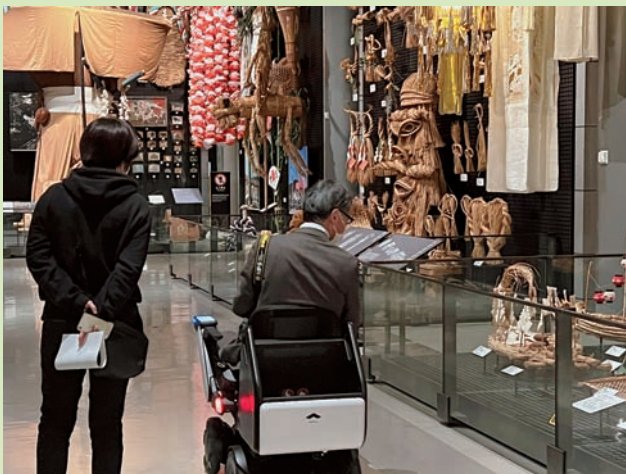
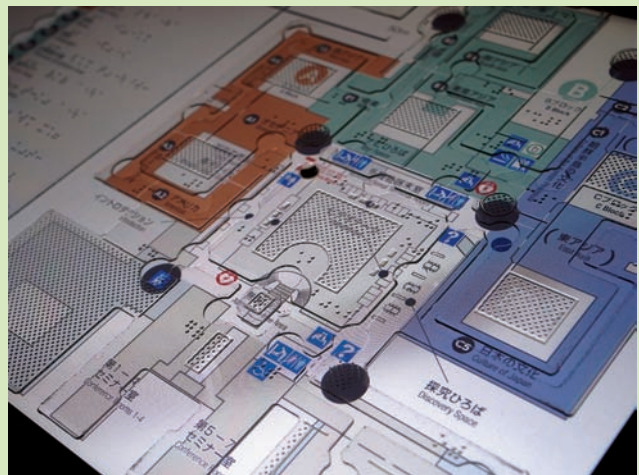
本館として初めて、展示の解説言語として日本手話を導入する試みを実現させた。全ての展示内容に日本手話による解説動画を流した。

デジタル触地図

タッチパネルディスプレイ上に設置したフィンガーガイドと音声案内との連動によって、館内の位置情報や展示案内を触覚と聴覚から得ることができる。

日本デザイン学会 2021年度 年間作品賞を受賞

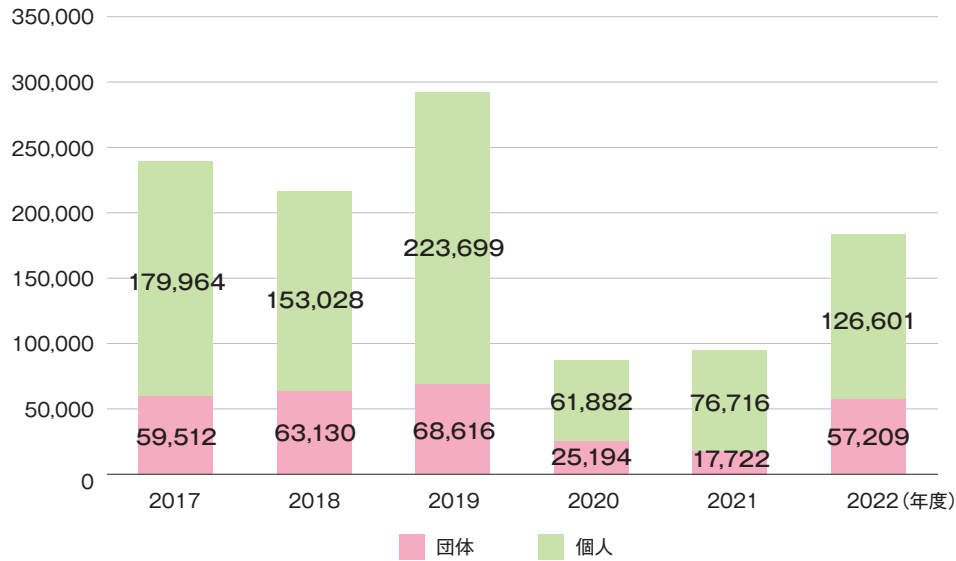
- IAUD 国際デザイン賞2020銀賞
(公共空間デザイン部門)
- 2020 年度グッドデザイン賞
- UNIVERSAL DESIGN competition 2021
(専門家賞及び消費者賞)



モビリティ（自動走行型電動車椅子） の自動走行実証実験

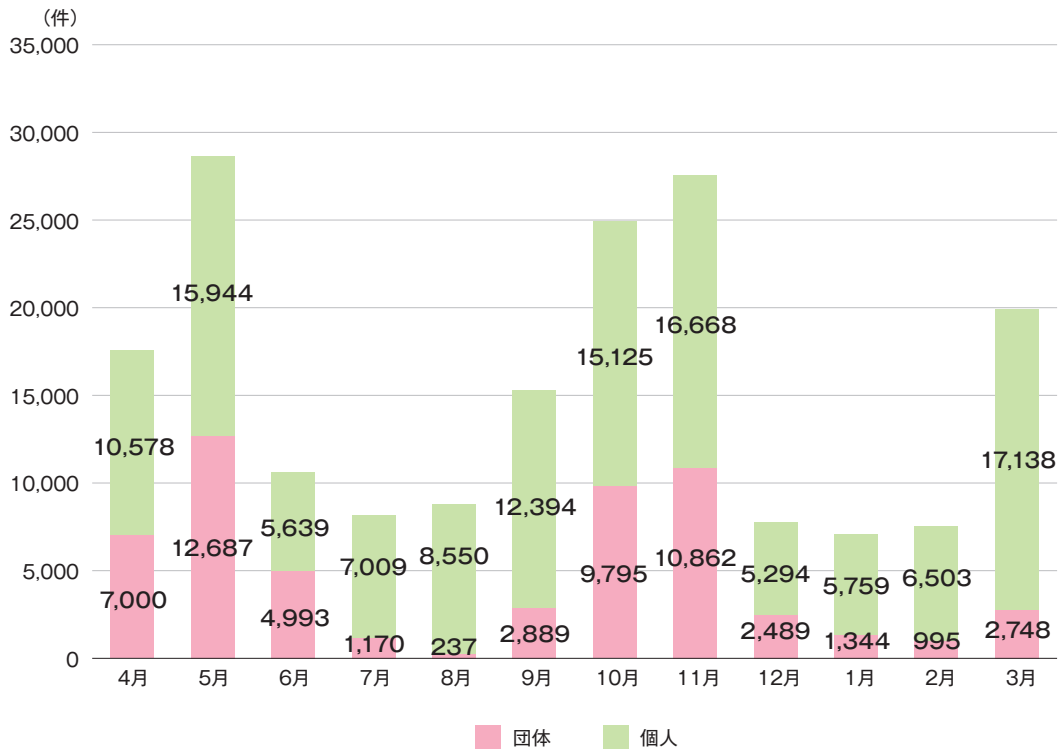
体験型観覧ガイドシステム開発のため、日本の文化展示場において、モビリティ（自動走行型電動車椅子）による自動走行実証実験を実施した。

● 入館者数の推移

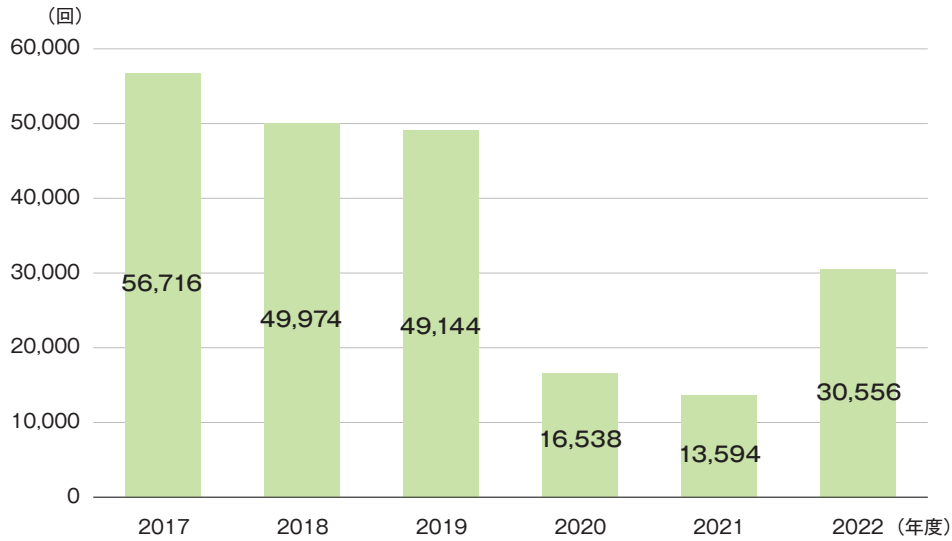


注：大阪府北部地震の影響による臨時休館
2018年6月18日～2018年8月22日
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時休館
2020年2月28日～2020年6月17日
2021年4月25日～2021年6月23日

● 令和4年度の月別入館者数



● ビデオテープの視聴回数



● 令和4年度 みんなくシアター上映番組一覧

- オアシス都市の暮らし：ウズベキスタン・サマルカンドの食文化
- 常ならざる音一耳を通して異界とつながるー
- アシェンダ！エチオピア北部地域社会の女性のお祭り
- ただいまオンエア：ソニンケ民族の文化運動と地域ラジオ
- カトマンドウのサーランギ奏者たち
- 武器をアートに：モザンビークにおける平和構築
- 大阪のエイサー：思（うむ）いの交わる場
- それでも獅子は旅を続ける～山本源太夫社中 伊勢大神楽日誌～
- バイラヴダンス
- みんなく村に神楽がやって来る！伊勢大神楽ワークショップの記録
- 三線をつくる：沖縄本島
- トゥバに魅せられた人々
- トゥバ人たちの住むところ
- ジャワ島チルボンの木偶人形芝居：ワヤン・ゴレック・チュバック
- 黒い聖女サラ信仰の巡礼：南仏サント・マリー・ド・ラ・メール
- ミャオ族の伝統文化：中国 貴州省 雷山県
- 壮族：中国最大の少数民族
- めばえる歌：民謡の伝承と創造

組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営

4-2 特別展示・企画展示等

特別展示：特定のテーマや内容で研究の成果を総合的および体系的に紹介するストーリー性をもった展示で、特別展示館で開催

企画展示：研究や収集活動の成果を特定のテーマで紹介し、本館企画展示場で開催する展示

コレクション展示：本館所蔵資料を中心に構成され、その学術的価値を高め、共同利用性を向上させる目的でおこなう展示

巡回展示：本館で開催した特別展示、企画展示等を国内外の博物館、美術館等に巡回して開催する展示

令和4年度 特別展・企画展等一覧

種別	タイトル	会期	入館者数(人)
特別展 ^{※1}	邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今	2022年3月17日～5月31日	22,064
特別展	Homō loquēns 「しゃべるヒト」～ことばの不思議を科学する～	2022年9月1日～11月23日	26,759
特別展	ラテンアメリカの民衆芸術	2023年3月9日～5月30日	44,971
企画展	焼畑——佐々木高明の見た五木村、そして世界へ	2022年3月10日～6月7日	34,939
企画展	海のくらしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニア	2022年9月8日～12月13日	39,361
コレクション展	現代中国を、カワウと生きる——鶺鴒い漁師たちの技	2022年6月30日～8月2日	7,984
巡回展	驚異と怪異 世界の幻獣と霊獣たち (高知県立歴史民俗資料館)	2022年4月29日～6月26日	12,665
巡回展	ピース——つなぐ・かざる・みせる (石川県七尾美術館)	2022年7月30日～9月11日	3,874
巡回展	ピース——つなぐ・かざる・みせる (渋谷区立松濤美術館)	2022年11月15日～2023年1月15日	9,455
巡回展	驚異と怪異——想像界の生きものたち (福岡市博物館)	2023年3月11日～5月14日	23,006

※1 日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展

4-3 公募型メディア展示

国内の大学等が主催する展示にみんなくが開発した情報メディアやシステムを提供する。

令和4年度公募型メディア展示

申請1件、採択1件

採択機関 大阪国際平和センター（ピースおおさか）

採択事業 昭和・戦時期における生活関連資料データベースの構築および
展示解説システムの発信強化

対象展示 特別展「むかしのくらし—昭和・戦時期の人々のせいかつ—」



5 国際連携

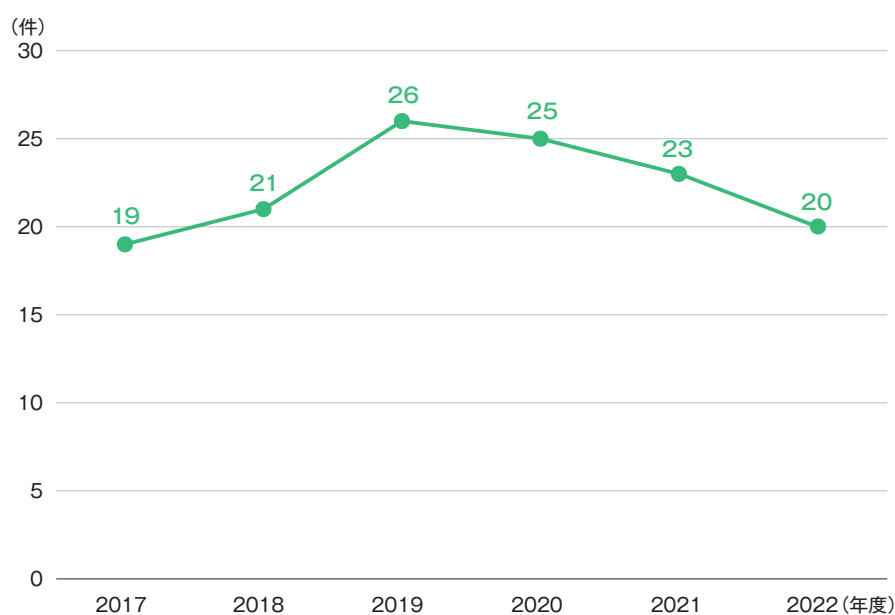
5-1 海外研究機関との学術交流協定

● 海外研究機関等との協定一覧（令和4年度）

No.	相手機関名	国（地域）名	概要
1	国立サン・マルコス大学	ペルー共和国	考古学分野における共同調査の遂行、ならびにそれに基づく学術交流の促進
2	順益台湾原住民博物館	台湾	台湾原住民族の現代的動態に関わる人類学的、言語学的、歴史学的調査 国立民族学博物館ならびに他の博物館に收藏されている台湾原住民族関連の資料に係る調査
3	韓国国立民俗博物館	大韓民国	学術、文化交流を通して友好関係を強化し、この関係を発展させる
4	内蒙古大学	中華人民共和国	相互に理解を深め、両機関の学術協力を通して友好関係を強化する
5	国立台北芸術大学	台湾	相互の学術交流と両者の発展を目的とした学術協力関係を築く
6	アシウィ・アワン博物館・遺産センター	アメリカ合衆国	相互に理解を深め、両機関の学術協力を通して友好関係を強化する
7	フィリピン国立博物館	フィリピン共和国	相互の理解、利益および協力の原則に基づいて学術協力および交流の強化および発展のために本契約を締結する
8	中国社会科学院民族学・人類学研究所	中華人民共和国	両機関の学術交流を通して国際的な連携を進めるため、平等互恵と相互尊重の理念のもとに、この協定を締結する
9	北アリゾナ博物館	アメリカ合衆国	学術交流・研究を強化・発展させる
10	国立台湾歴史博物館	台湾	学術研究交流の促進
11	ヴァンダービルト大学	アメリカ合衆国	国際共同研究、及びそれに関連する研究交流と人材交流
12	浙江大学人類学研究所・図書館	中華人民共和国	研究者などの人材交流、人類学及び人類学資料事業に関する研究
13	ブリティッシュコロンビア大学人類学博物館（UBC）	カナダ	協力関係の強化、及び相互利益に資する文化、社会、グローバル化などの分野における研究連携の推進
14	イラン国立博物館	イラン・イスラム共和国	両博物館の文化・研究分野の協力強化
15	国立博物館機構	ザンビア共和国	相互に理解を深め、両機関の学術協力を通して友好関係を強化する
16	国立研究革新庁・考古・言語・文学研究機構・環境考古・海事考古・持続的文化研究所	インドネシア共和国	インドネシア国内での国際共同調査の実施、および研究成果の共有
17	ウズベキスタン共和国科学アカデミー ヤフヨ・グロモフ考古学研究所	ウズベキスタン共和国	国際共同発掘調査・研究、研究者交流、考古学に関する資料や情報の交換等・研究者・学芸員などの人材交流
18	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ人民共和国	相互理解、相互利益及び協力関係の原則に基づいた学術研究及び学術交流の強化・促進

No.	相手機関名	国（地域）名	概要
19	ケニア国立博物館群	ケニア共和国	平等で互酬的な関係のもとに、文化と博物館に関する研究と教育の分野での協働にむけて合同して活動すること
20	カセサート大学林学部	タイ王国	相互理解、相互利益及び協力関係の原則に基づいた学術研究及び学術交流の強化・促進

● 海外学術交流協定締結数の推移



パコパンパ遺跡における墓(通称「プトゥート(巻き貝)神官の墓」)の発見



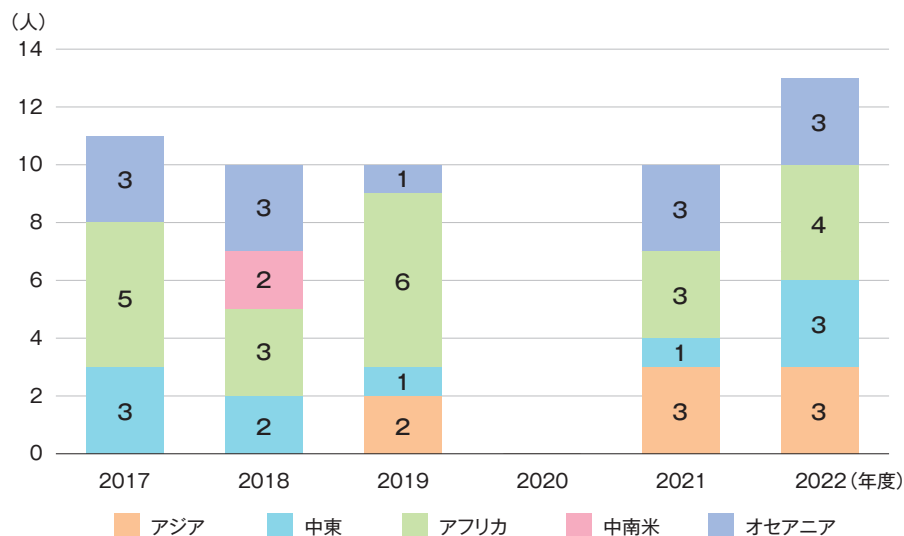
国立サン・マルコス大学（ペルー）との学术交流協定に基づき実施している発掘調査において、關雄二特定教授をリーダーとする国立民族学博物館・ペルー国立サン・マルコス大学合同調査団が、2022年8月25日、ペルー北高地パコパンパ考古遺跡複合内のカピーヤ遺跡にて最古級の儀礼的暴力の証拠となる地下式墓を発見した。

© パコパンパ考古学調査団

5-2 「博物館とコミュニティ開発」コース

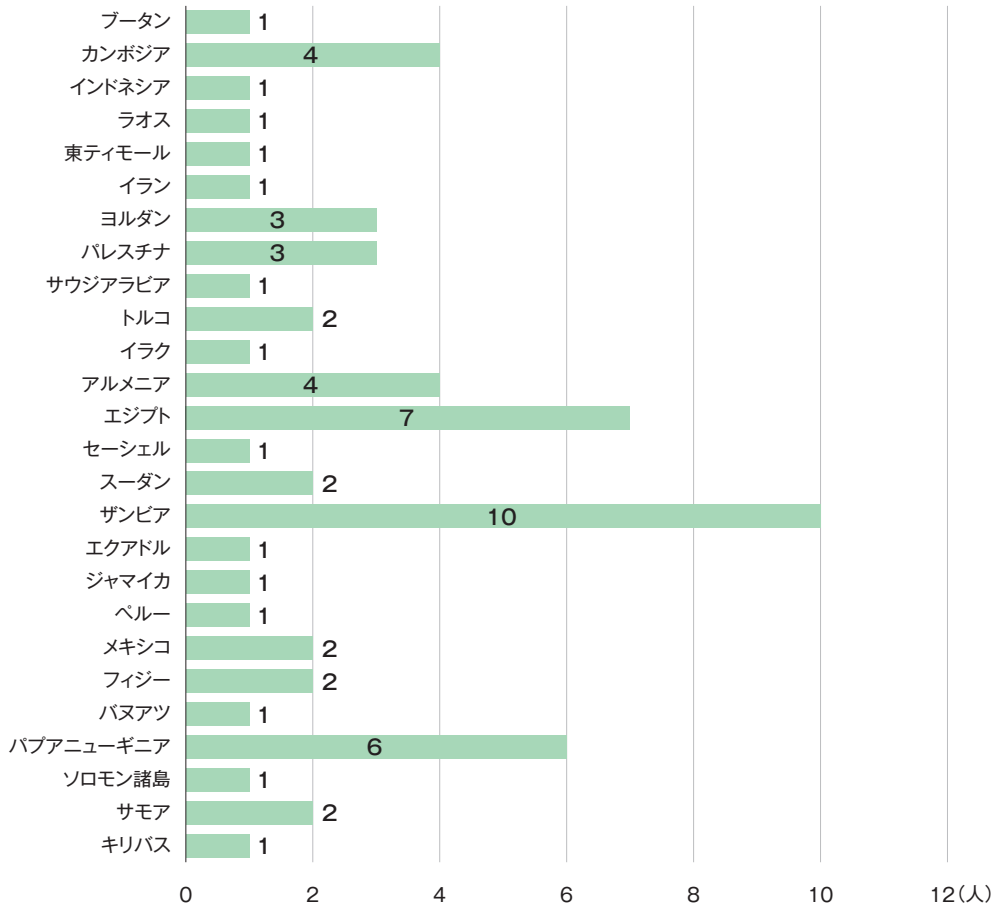
平成16年度から独立行政法人国際協力機構（JICA）からの委託を受け実施している研修で、毎年、開発途上の国や地域から約10名を受託研究員として受け入れてきた。「博物館学集中コース」として始まった本研修について、平成27年度からは「博物館とコミュニティ開発」とコースを改組・発展し、博物館が地域社会に果たす役割により重点を置いた研修を行っている。

● 「博物館とコミュニティ開発」コースの地域別参加者数の推移



注1：2020年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により実施していない。2021年度はオンラインで開催
注2：2017年度（サウジアラビアから）の1名と2021年度（カンボジアから）の1名のオブザーバー参加者を含む

● 「博物館とコミュニティ開発」コースに参加した国と参加者数（平成29年～令和4年）



注：2017年度（サウジアラビアから）の1名と2021年度（カンボジアから）の1名のオブザーバー参加者を含む

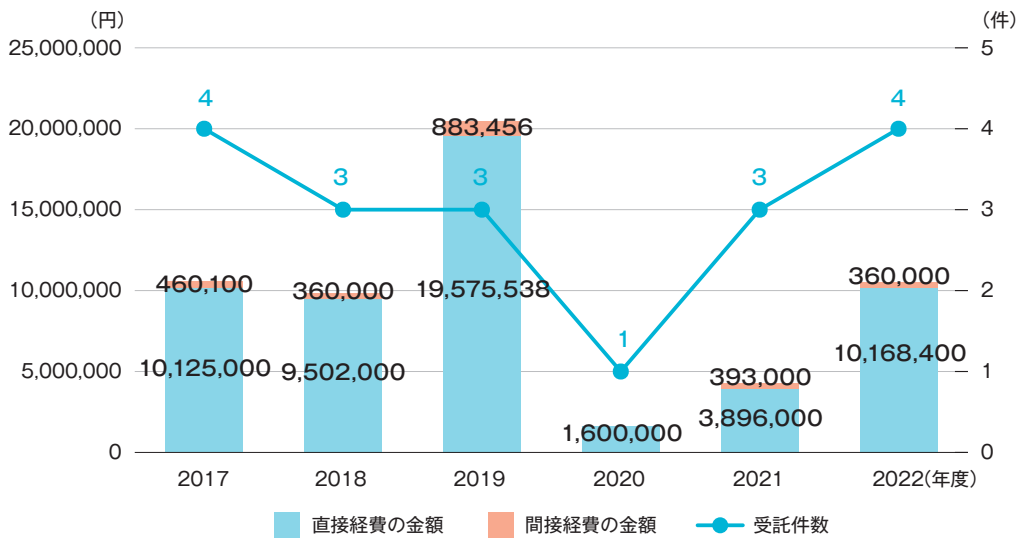
6 社会連携

6-1 受託事業

令和4年度 受託事業・受託研究一覧

課題名	委託期間	委託金額	相手方	担当教員・担当課	備考	受託事業／受託研究
文学一般関連、博物館学関連分野に関する学術研究動向—文理融合研究の新たな潮流と展望	R4.4.1～ R5.3.31	1,560,000 (うち360,000は間接経費)	独立行政法人 日本学術振興会 (学術研究動向等調査)	山中由里子		受託研究
博物館学とコミュニティ開発	R4.8.22～ R5.3.17	8,044,400	独立行政法人 国際協力機構	研究協力課		受託事業
国際共同研究プログラム (JRD-LEAD with UKRI)	R3.12.1～ R6.11.30	0	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構	相良啓子	363,000円 R3年度受入	受託研究
陸前高田市博物館所蔵横田膏関連資料保存処理	R4.11.1～ R5.2.28	924,000	独立行政法人 国立文化財機構	日高真吾		受託事業

みんぱくの受託事業・受託研究の受入金額と件数



注：2021年度には委託金のない事業（山口大学との共同研究）があったが、ここでの集計には含まなかった

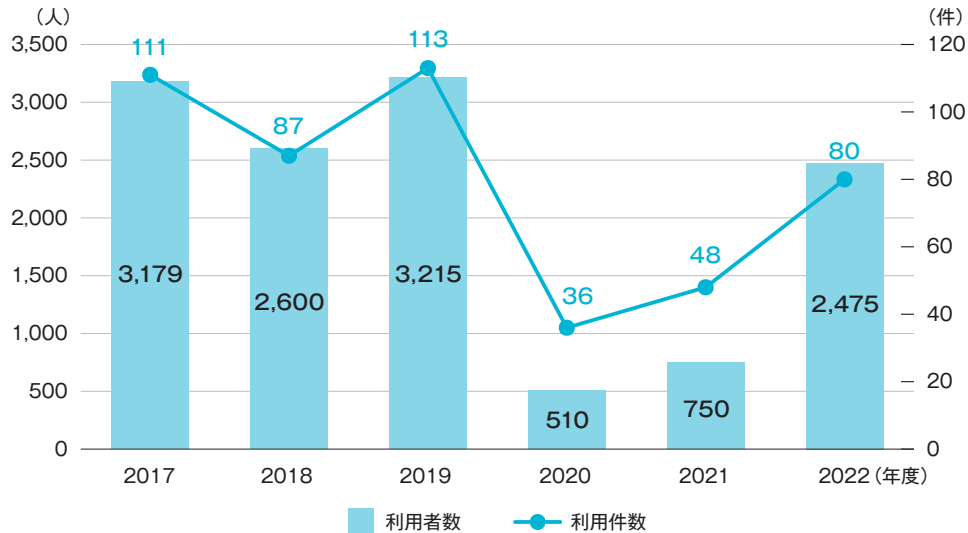
委託元機関の一覧（2017～2022年度）

- 文化庁
- 台湾文化部 (the Ministry of culture, ROC)
- 独立行政法人 国際協力機構
- 独立行政法人 日本学術振興会
- 公益社団法人 大阪聴力障害者協会
- 国立大学法人 山口大学
- 大阪府立福祉情報コミュニケーションセンター運営事業体
- 独立行政法人 国立文化財機構
- 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

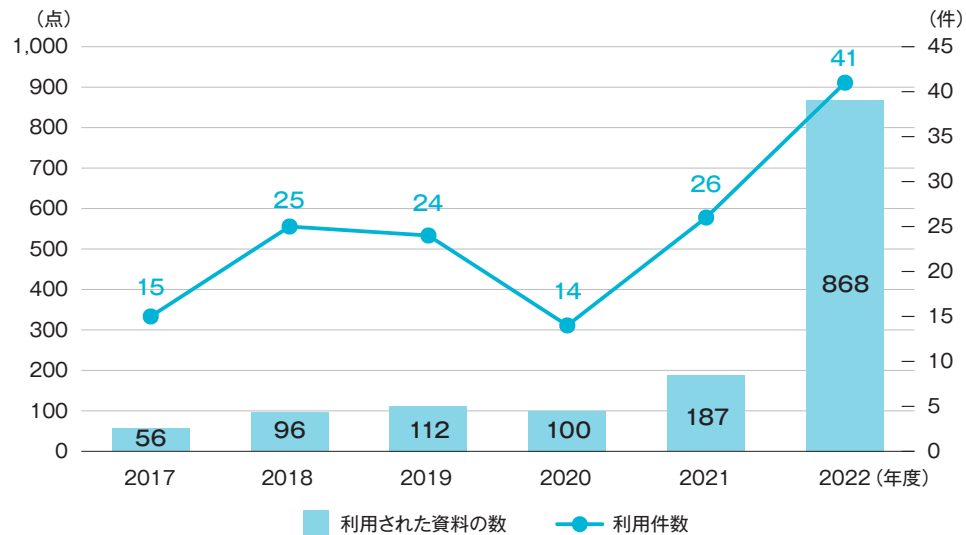
大学等授業利用

みんなの展示場を、大学（大学、大学院、短期大学）の講義やセミナー等に利用。

● 展示場の大学等授業利用申請による利用者数と利用件数の推移



● 大学等授業利用申請によって利用された映像・音響資料の数と利用件数の推移



注：2021年度からストリーミング配信による映像提供を開始した

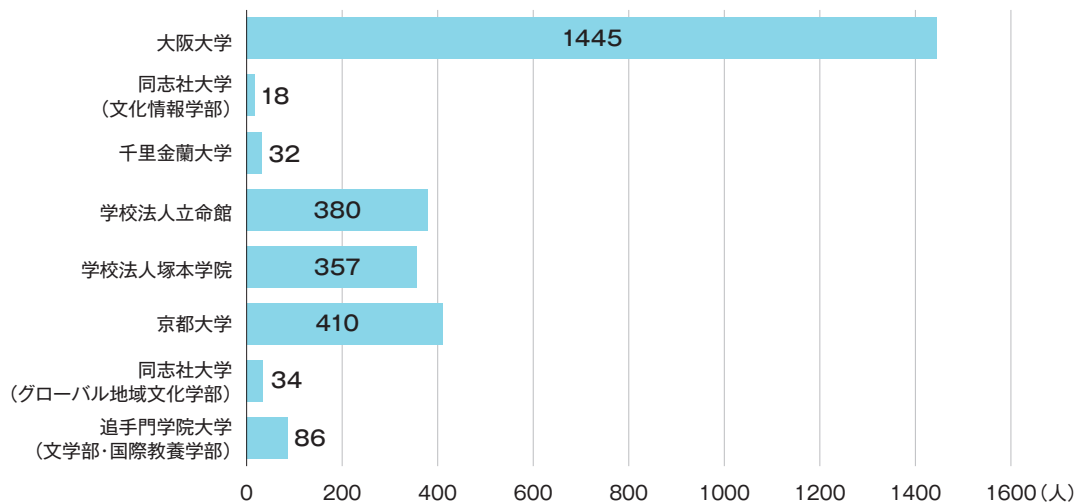
キャンパスメンバーズ

国立民族学博物館と大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度。

令和4年度 キャンパスメンバーズ会員大学一覧

No.	入会年月	大学名	利用対象者数(人)
1	H22.10	国立大学法人 大阪大学	24,164
2	H24.7	同志社大学 文化情報学部・文化情報学研究科	1,300
3	H25.1	千里金蘭大学	845
4	H26.4	学校法人立命館 (立命館大学、立命館高等学校、立命館宇治高等学校、立命館守山高等学校、立命館慶祥高等学校)	37,439
5	H28.4	学校法人塚本学院 (大阪芸術大学、大阪芸術大学短期大学部、大阪芸術大学附属大阪美術専門学校)	9,606
6	H29.4	京都大学	23,044
7	R1.10	同志社大学 グローバル地域文化学部	819
8	R4.5	追手門学院大学 (文学部・国際教養学部)	1,409
合計			98,626

令和4年度 キャンパスメンバーズ制度による来館者数



貸出用学習キット「みんなぱっく」

学校や社会教育施設等を対象に、学習キット「みんなぱっく」を貸出している。「みんなぱっく」は世界の国や地域の衣装や楽器、日常生活で使う道具や子どもたちの学用品などをスーツケースにパックしたものの。

令和4年度 みんなぱっくの運用バック一覧

No.	バック名	担当教員	個数(個)
1	極北を生きる	岸上伸啓	2
2	アンデスの玉手箱	松本雄一	2
3	ジャワ島の装い	福岡正太	1
4	イスラム教とアラブ世界のくらし	西尾哲夫	1
5	ソウルスタイル	太田心平	2
6	ソウルのこども時間	太田心平	2
7	インドのサリーとクルター	南アジア展示プロジェクトチーム	2
8	アラビアンナイトの世界	西尾哲夫	2
9	アイヌ文化にであう	齋藤玲子	2
10	モンゴル	島村一平	2
11	あるく、ウメサオタダオ展	小長谷有紀	1
12	世界のムスリムのくらし1	山中由里子他	2
13	世界のムスリムのくらし2	山中由里子他	2
14	エチオピアのコーヒーセレモニー	川瀬 慈	1
15	エチオピアをまとう	川瀬 慈	1
合計			25

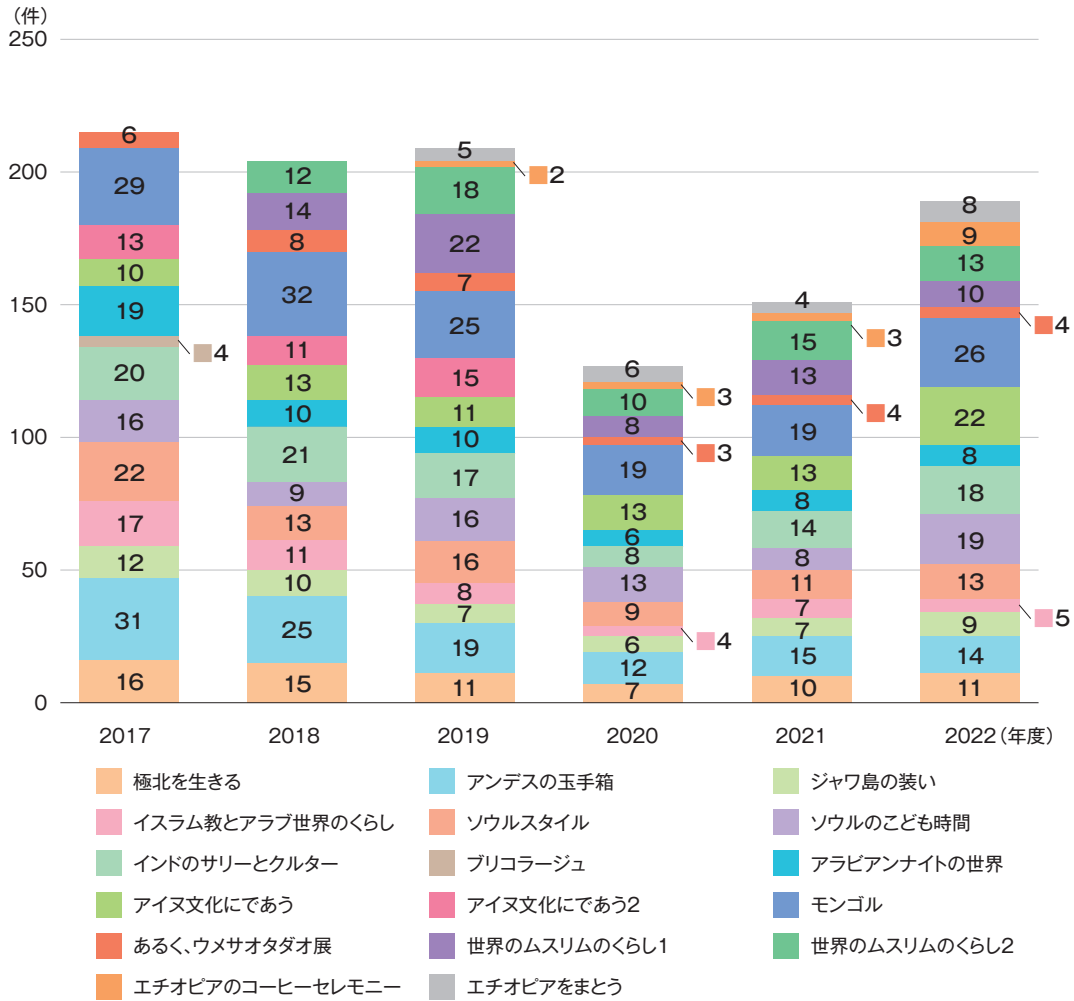


エチオピアをまとう—アムハラ装い



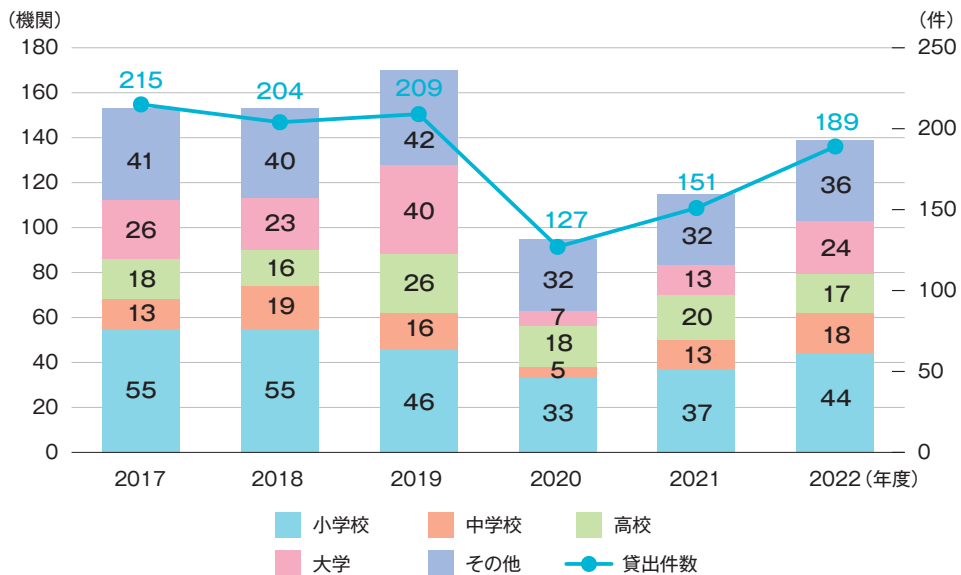
モンゴル—草原のかおりを楽しむ

● みんなぱっくの貸出しパック数の推移

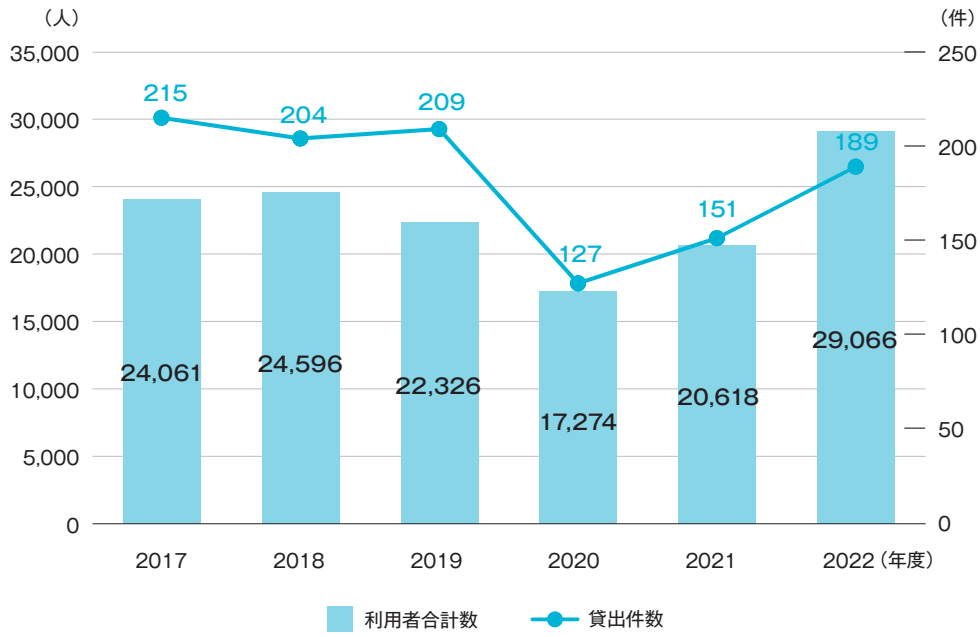


注：「プリコラージュ」「アイヌ文化にであう2」は現在、運用していない

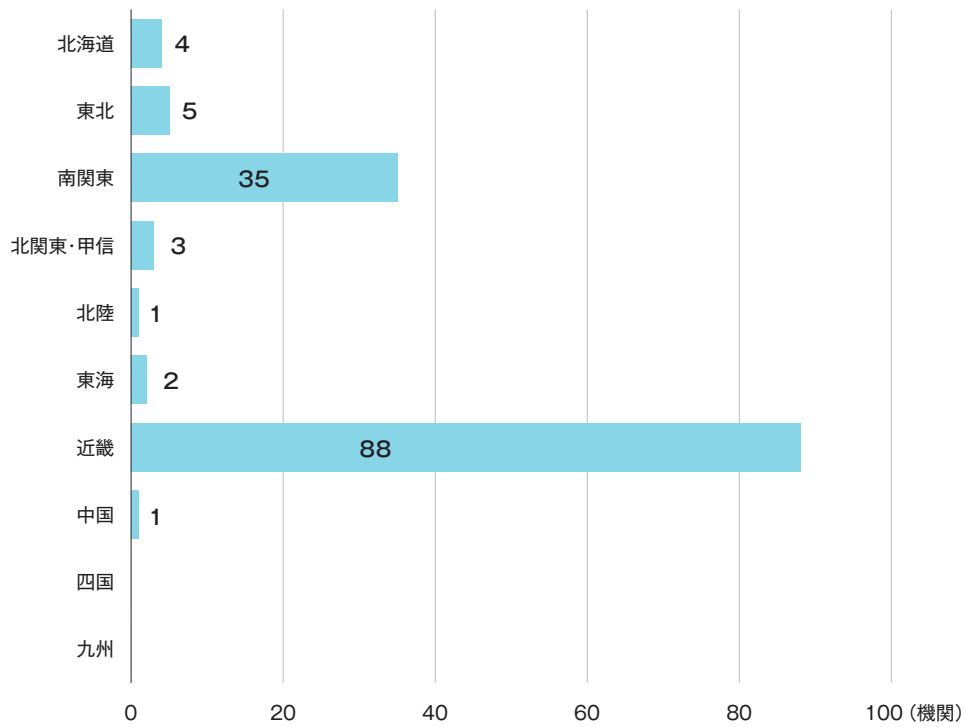
● 利用者区分別のみんなぱっく貸出機関数と貸出件数の推移



● **みんなっくの貸出件数と年間利用者数**



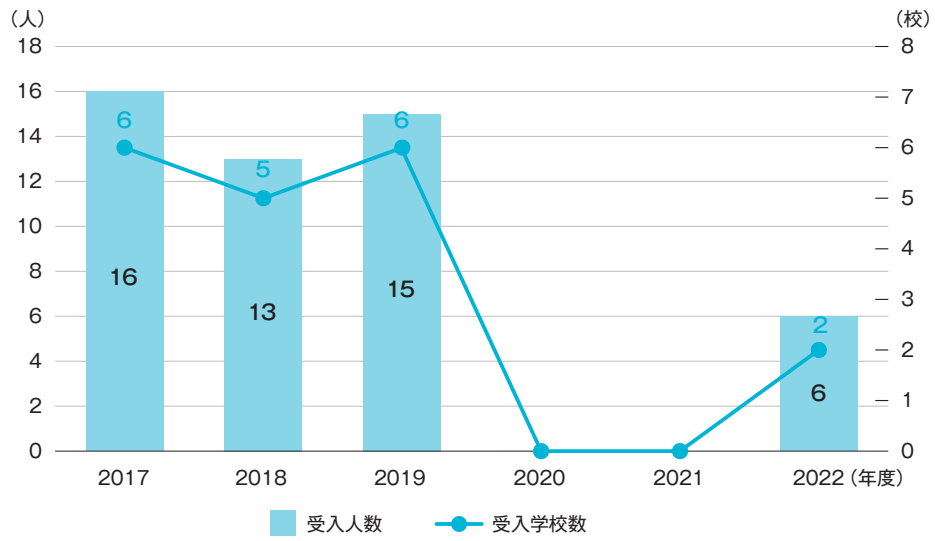
● **令和4年度 地域別のみんなっく利用機関数**



注：同一機関が1年間に複数回利用した場合、貸出期間が異なる場合は別に計上した

職場体験活動

● 職場体験活動で受け入れた生徒と学校の数



注：2020年度と2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響で受入を中止した



職場体験の様子



組織

研究

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

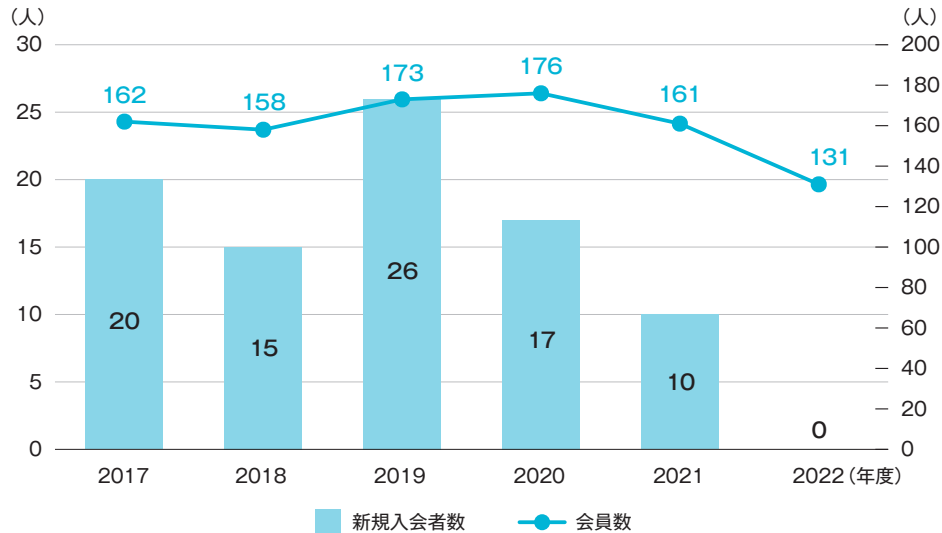
大学院教育

業務運営

ボランティア活動の受入

「みんなくミュージアムパートナーズ（MMP）」は、本館の博物館活動をサポートする自律的な組織として平成16年9月に発足した団体。「視覚障害者むけ本館展示場案内」や、「わくわく体験 in みんなく」、一般来館者向けのものづくりワークショップなど、多岐に広がる活動を本館との協働で進めている。

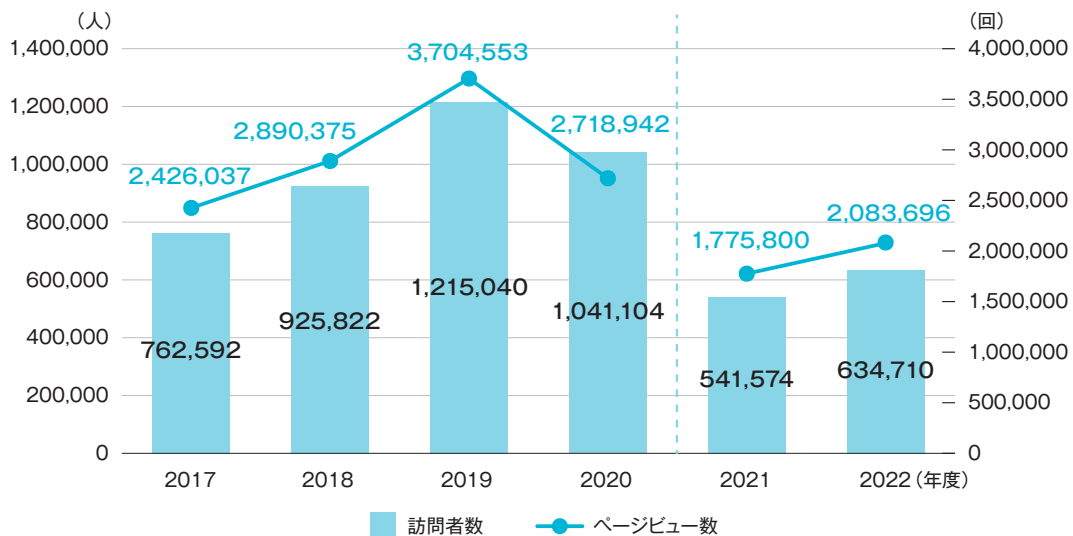
● みんなくミュージアムパートナーズ（MMP）の新規入会者数と会員数の推移



6-3 インターネットによる情報発信

ホームページ

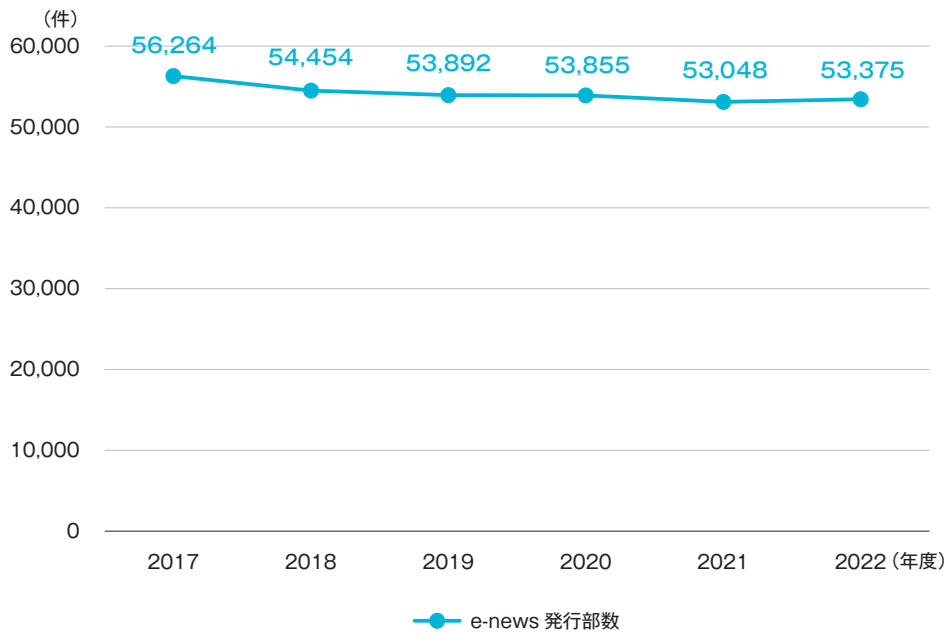
● みんなくホームページ利用者数の推移



注：令和3年度より、ホームページリニューアルに伴い、算出方法を変更した

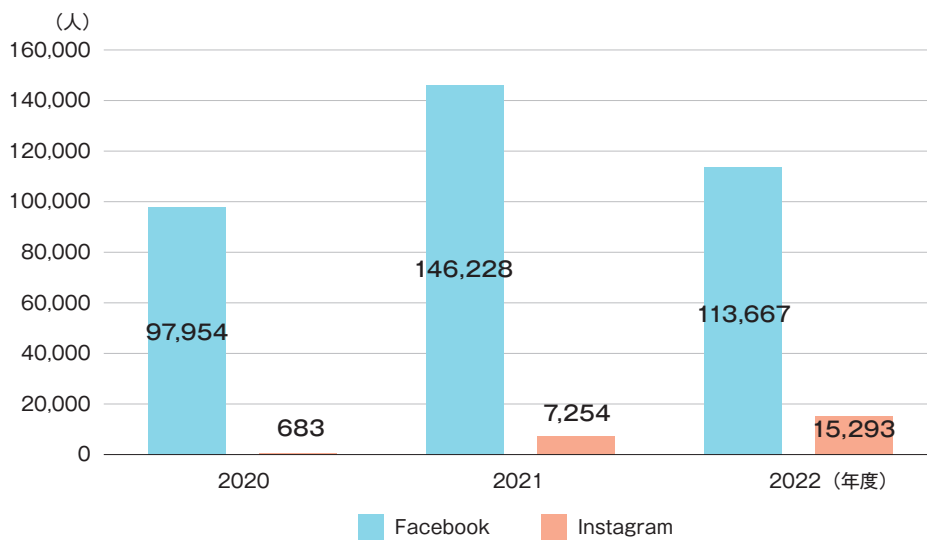
メールマガジン

● メールマガジン（みんなく e-news）配信数の推移

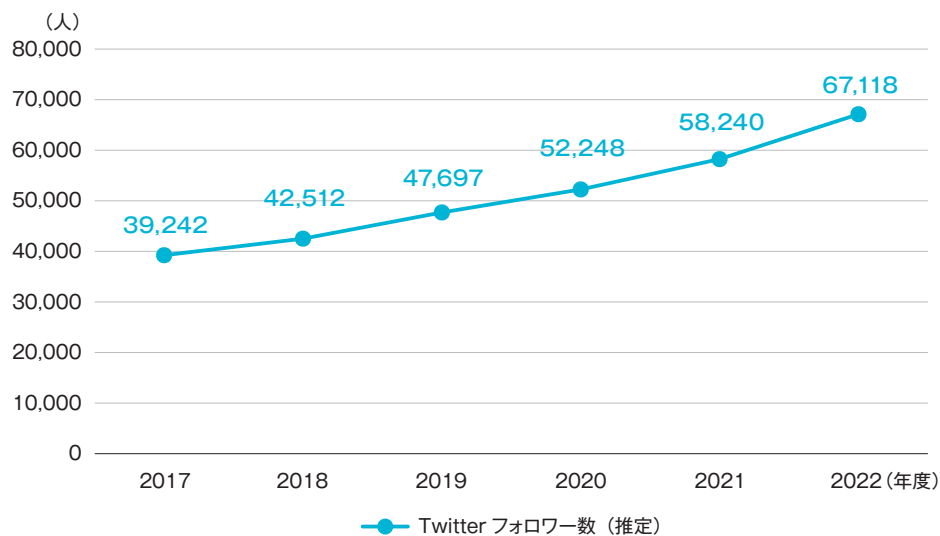


SNS

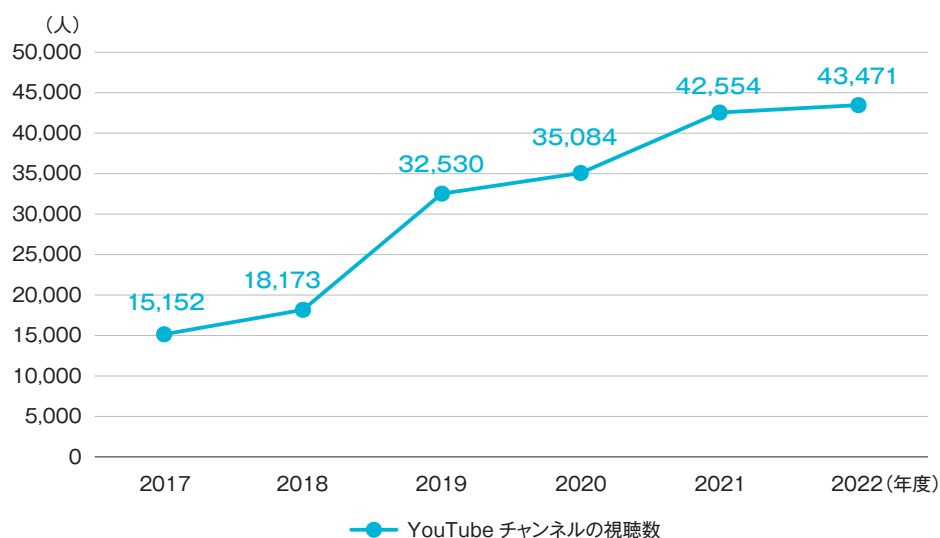
● SNS 利用者数（リーチ数）



● Twitter フォロワー数の推移



● YouTube チャンネルの視聴数の推移



6-4 開催イベント

公開講演会

令和4年度 公開講演会一覧

No.	実施日	タイトル	講演者	参加者数（人）	
				会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1	2022年11月11日	「民族」再考～日本と台湾から	小熊英二・齋藤玲子・ 野林厚志	274	305
2	2023年3月31日	「目に見えないもの」と生きる——食からみたヒトと微生物の多様な関わり	奈良雅史・梅崎昌裕・ 小倉ヒラク・宇田川妙子	274	162
合計				548	467

みんなくゼミナール

研究部の教員などが最新の研究成果をわかりやすく講演している。

令和4年度 みんなくゼミナール一覧

特展関連 企画展関連 コレクション展関連

No.	実施回	実施日	タイトル	担当講師	参加者数（人）	
					会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1	第520回	2022年 4月16日	古代オアシス都市における人々の暮らしと宗教 ——カフィル・カラ遺跡の発掘調査から	寺村裕史	93	75
2	<input type="checkbox"/> 第521回	2022年 5月21日	ドキュメンタリー写真家B. インジナーシが見た 現代モンゴル	B. インジナーシ(写真家) 港千尋(写真家、多摩 美術大学教授) 川瀬 慈 島村一平	148	113
3	第522回	2022年 6月18日	フランスのモン難民から考えるグローバル化	中川 理	81	—
4	<input type="checkbox"/> 第523回	2022年 7月16日	鶴と人間——ウミウ産卵の謎解きから	卯田宗平	84	—
5	第524回	2022年 8月20日	ソースコミュニティを敬う博物館活動	伊藤敦規	66	—
6	<input type="checkbox"/> 第525回	2022年 9月17日	モノからみる海のある暮らし——東南アジア・ オセアニアの漁具・舟具・装飾品	小野林太郎	92	—
7	第526回	2022年 10月15日	アートと学問のジャムセッション	菊澤律子 川瀬 慈 山城大督(Twelve Ink.、京都芸術大学専 任講師)	98	—
8	<input type="checkbox"/> 第527回	2022年 11月19日	身の回りをフィールド言語学する	吉岡 乾	135	—
9	第528回	2022年 12月17日	神殿をつくることから生まれた文明——古代ア ンデスの祭祀建造物	松本雄一	124	—

No.	実施回	実施日	タイトル	担当講師	参加者数（人）	
					会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
10	第529回	2023年 1月21日	アラビアンナイトとヨーロッパの音楽風景	西尾哲夫 岡本祥子（ピアニスト） 岡本尚子	185	—
11	第530回	2023年 2月18日	家族農業の軌跡をたどる——オーストリアの調査から	森 明子	77	—
12 ○	第531回	2023年 3月18日	民衆芸術——ラテンアメリカの人びとの想像力と判断力	鈴木 紀	158	—
合計					1,341	188

みんなくウィークエンドサロン

本館の研究者が展示場で「現在取り組んでいる研究」「調査している地域（国）の最新情報」「みんなくの展示資料」など、多彩な話題を提供している。

令和4年度 ウィークエンドサロン一覧

No.	実施回	実施日	タイトル	担当講師	参加者数(人)
1	第600回	2022年4月3日	台湾原住民族と焼畑農耕	野林厚志	39
2	第601回	2022年4月10日	モンゴルの“民族衣装”の100年前と今	島村一平	53
3	第602回	2022年4月17日	ネパールの焼畑	南真木人	33
4	第603回	2022年4月24日	難民の声を劇に——オーストリアの地方都市の演劇活動	森 明子	10
5	第604回	2022年5月8日	マヤの焼畑——儀礼と世界観	鈴木 紀	33
6	第605回	2022年5月29日	メディア化されたイスラームと知識人	相島葉月	43
7	第606回	2022年7月24日	北アメリカ北西海岸地域のトーテムポールについて	岸上伸啓	23
8	第607回	2022年7月31日	中国ムスリムの婚姻	奈良雅史	32
9	第608回	2022年8月28日	ソースコミュニティに優しい資料画像の公表プロセス	伊藤敦規	25
10	第609回	2022年9月11日	モノが語る海のくらしと人びとの精神世界	小野林太郎	42
11	第610回	2022年9月18日	殺魚棒とオタマトーン	土佐信道（明和電機 代表取締役社長） 菊澤律子	82
12	第611回	2022年10月2日	漁具にみるヒトと海の生き物	秋道智彌（国立民族 学博物館名誉教授） 小野林太郎	29
13	第612回	2022年10月23日	いざ、ウルドゥー語入門（せめて文字だけは編）	吉岡 乾	51
14	第613回	2022年10月30日	『世界を見せる』から『世界観に触れる』へ——誰のための点字考案200周年なのか	広瀬浩二郎	34
15	第614回	2022年11月13日	新古・エジプトの考古学博物館	未森 薫	18
16	第615回	2022年11月20日	脳波で言語理解の脳内処理を探る	井原 綾（国立研究 開発法人情報通信研 究機構主任研究員） 吉岡 乾	78

No.	実施回	実施日	タイトル	担当講師	参加者数(人)
17	第616回	2022年11月27日	オセアニア展示からみる人類の海洋世界の進出	丹羽典生	20
18	第617回	2022年12月11日	マダガスカルの霊長類と人	市野進一郎	17
19	第618回	2023年1月29日	世界初の多言語による毛沢東バッジデータベース	韓 敏	21
20	第619回	2023年2月12日	オーストラリア先住民の夢見の世界	平野智佳子	23
21	第620回	2023年2月26日	東南アジア展示資料収集裏話	樫永真佐夫	39
22	第621回	2023年3月12日	海を渡った一族——沖縄の座間味島をめぐる移動史	藤本透子	38
23	第622回	2023年3月26日	イタリアの食の博物館	宇田川妙子	28
合計					811

研究公演

文化人類学・民族学に関する理解を深めてもらうことを目的として、世界の諸民族の音楽や芸能などの公演を実施している。

● 令和4年度 研究公演一覧

No.	実施日	タイトル	司会	解説	出演	参加者数(人)	
						会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1	2022年 6月11日	伝承する人びと——北インド古典 音楽の世界	岡田恵美	岡田恵美	アミット・ロイ(撥弦楽 器シタール奏者) クル・プーシャン・バル ガヴァ(打楽器タブラー 奏者) ナカガワユウジ(撥弦楽 器サーランギー奏者 グレン・ニービス(打楽 器タブラー奏者)	130	315
2	2022年 11月26日	口承文芸から現代詩、そしてヒッ プホップへ——モンゴルの韻踏み 文化	島村一平	島村一平	D. ソソルバラム(歌手、 俳優、演出家) DESANT(ラッパー) Gennie(ラッパー)	171	122
合計						301	437

みんなく映画会

上映される機会の少ない文化人類学・民族学に関する貴重な映像資料などを、教員の解説を交えて上映している。

令和4年度 みんなく映画会一覧

みんなく映画会

No.	実施日	タイトル	担当講師	参加者数（人）	
				会場参加	
1	2022年4月30日	焼畑から見た日本の文化	池谷和信 野本寛一（近畿大学名誉教授） 川野和昭（元鹿児島県歴史・美術センター 黎明館学芸課長）	131	
2	2022年5月5日	大地の静脈	島村一平 小長谷有紀（国立民族学博物館客員教員）	169	
3	2022年10月8日	シニエー手話を話すー	吉岡 乾 相良啓子 Sara Lanesman（イスラエル手話講師） 森田明（明晴学園 教頭）	146	
4	2022年11月3日	たき火	菊澤律子 相良啓子 大館信広（映画監督） 尾中友哉（NPO 法人 Silent Voice 代表） 千々岩恵子（映像制作者） 佐々木亜希子（活動写真弁士）	164	
合計				610	

みんなく映像民族誌シアター

No.	実施日	タイトル	担当講師	参加者数（人）	
				会場参加	オンライン参加 （最大同時接続数）
1	2023年1月22日	それでも獅子は旅を続ける ——山本源太夫社中 伊勢 大神楽日誌	黒田賢治 神野知恵 山中由里子 杉浦康博（伊勢大神楽講社山本源太夫社中） 斎藤 晋（伊勢大神楽講社山本源太夫社中）	31	65
2	2023年1月28日	マレーシア クランタンの影絵 人形芝居	黒田賢治 福岡正太 戸加里康子（東京外国語大学非常勤講師）	29	67
3	2023年2月5日	漢族の祖先祭祀と祖廟	黒田賢治 韓 敏	35	62
4	2023年2月11日	オアシス都市のくらし	黒田賢治 寺村裕史	29	59
合計				124	253

● みんなくワールドシネマ

No.	実施回	実施日	タイトル	担当講師	参加者数(人)	
					会場参加	
1	第51回	2022年7月9日	はじまりへの旅	菅瀬晶子 深海菊絵 (日本学術振興会特別研究員)	151	
2	第52回	2022年9月24日	ムンナ兄貴とガンディー	松尾瑞穂 杉本良男 (国立民族学博物館名誉教授)	174	
3	第53回	2023年1月14日	ハニーランド 永遠の谷	菅瀬晶子 池谷和信	249	
合計					574	

ワークショップ

本館の研究者の研究成果を社会に還元することをめざし、ものづくりなどの体験型プログラムを通して、世界の文化を紹介している。

● 令和4年度 ワークショップ一覧

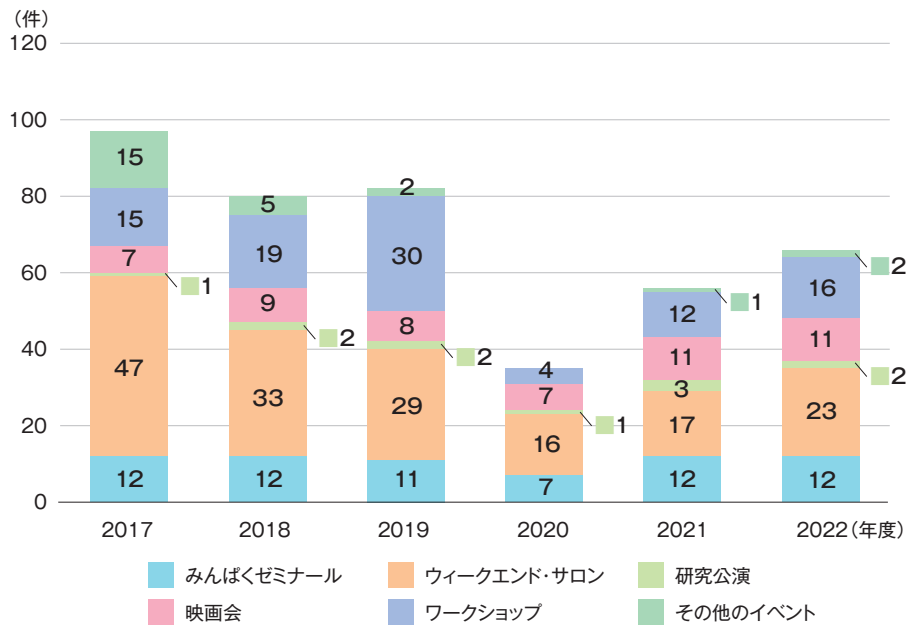
No.	実施日	タイトル	担当講師	内訳	参加者数(人)
1	4月23日	森のくらし—焼畑から見る SDGs	池谷和信 大林龍矢		8
2	5月3日	モンゴルのぼうしをつくってみよう	島村一平 諏訪正和		22
3	5月21日 6月18日 7月9日 10月15日 11月19日	みんなく sama-sama 塾	信田敏宏	5月21日 21人 6月18日 22人 7月9日 25人 10月15日 29人 11月19日 45人	142
4	7月30日	フィールドワークに挑戦！—資料をまもる、博物館のしごと	末森 薫		10
5	9月18日 11月27日	海のくらしの手工芸—パンダナスで編むものづくり	小野林太郎 ピーター J. マシウス	9月18日 24人 11月27日 23人	47
6	9月23日 10月29日 11月12日	複言語・複文化脱出ゲーム 中国語編 本の世界からの脱出	菊澤律子	9月23日 49人 10月29日 40人 11月12日 38人	127
7	12月25日 1月7日 1月8日	みんなく うさぎさがし	企画課	12月25日 92人 1月7日 104人 1月8日 153人	346
合計					702

● 令和4年度 その他のイベント

No.	実施日	タイトル	参加者数(人)	
			会場参加	オンライン参加 (最大同時接続数)
1	2022年6月26日	音楽の祭日2022 in みんなく	268	197
2	2022年11月16日	ミンパクオッタカムイノミ	90	—
合計			358	197

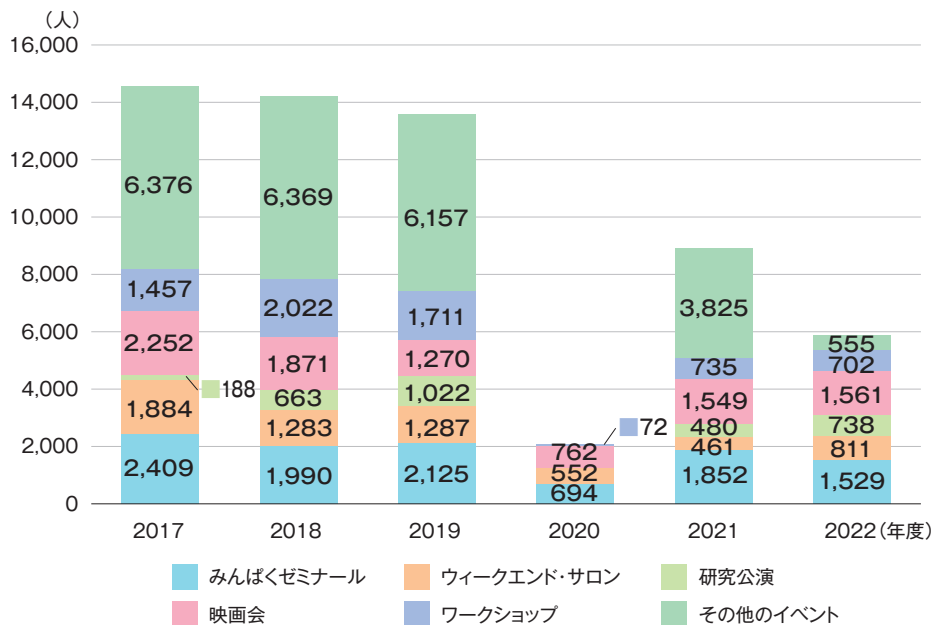
イベント開催件数と参加者数の推移

● イベントの開催件数の推移



注：公開講演会は含まれていない

● イベントの参加者数の推移



注1：公開講演会は含まれていない

注2：2020年度の研究公演はオンライン配信で参加者の数が不明なので集計に含まれていない

注3：2021年度以降はオンライン参加者の数（オンライン同時接続数）を含む

7 産学連携

産学連携活動の実施状況

民間企業との共同研究

令和4年度 産学連携に関する協定一覧

締結日	相手機関名	協定の概要
R5.1.6	WHILL 株式会社	産学連携の推進・学術研究の振興・研究成果による社会貢献・その他諸活動の発展に向けた連携協力

知的財産形成・特許出願

令和4年度 特許・商標取得一覧

発明・商標 の名称	発明者氏名（所属）	発明者 届出日	知的財産委員会 （旧発明委員会） 開催日	特許申請日及び 特許出願審査 請求日	出願番号	特許取得 の結果
該当なし						

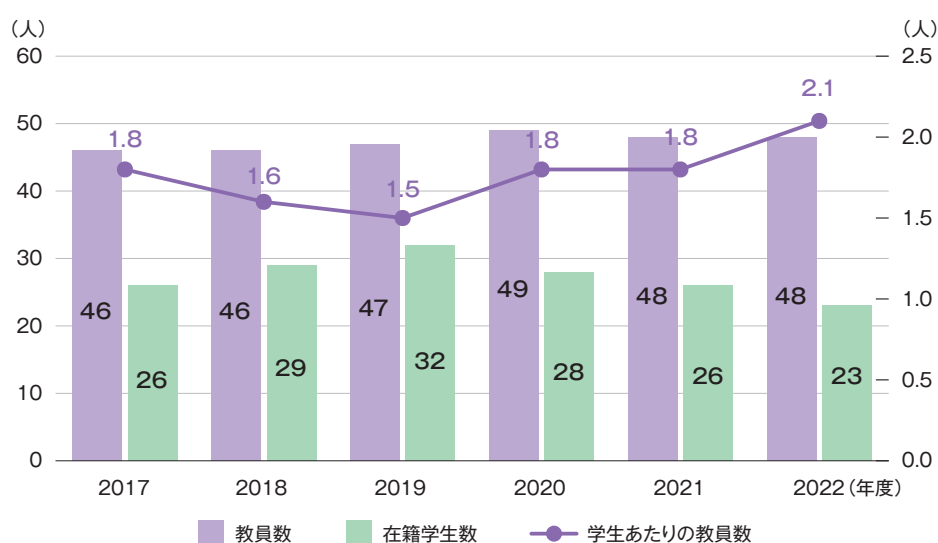
8 大学院教育

総合研究大学院大学

みんなくには、総合研究大学院大学（総研大）の文化科学研究科（地域文化学専攻・比較文化学専攻）が設置されている。総研大は、学部を持たない大学院博士課程だけの国立大学法人で、大学共同利用機関の人材と研究環境を基礎とし、各機関の行っている高度な研究活動に密着した教育・研究を行っている。

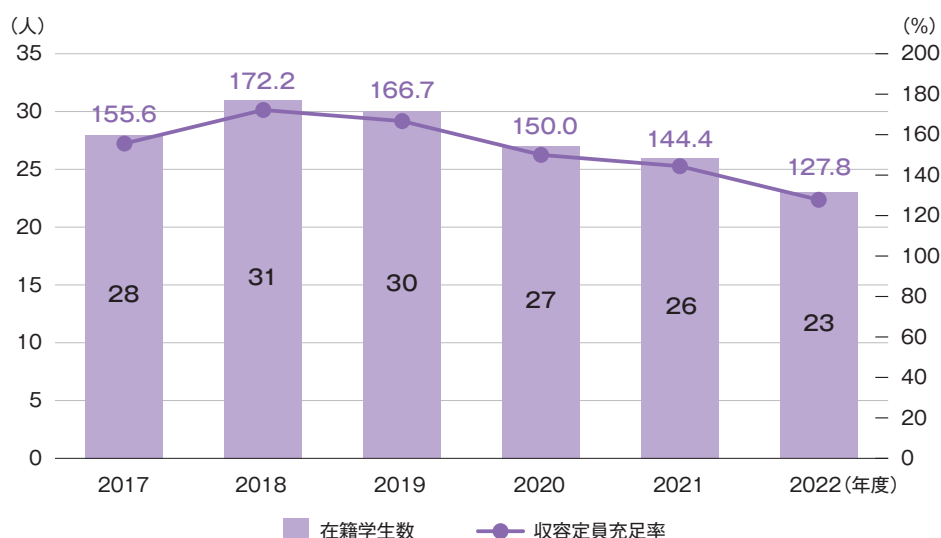
8-1 教員数・在籍学生数

● 教員数と在籍学生数の推移



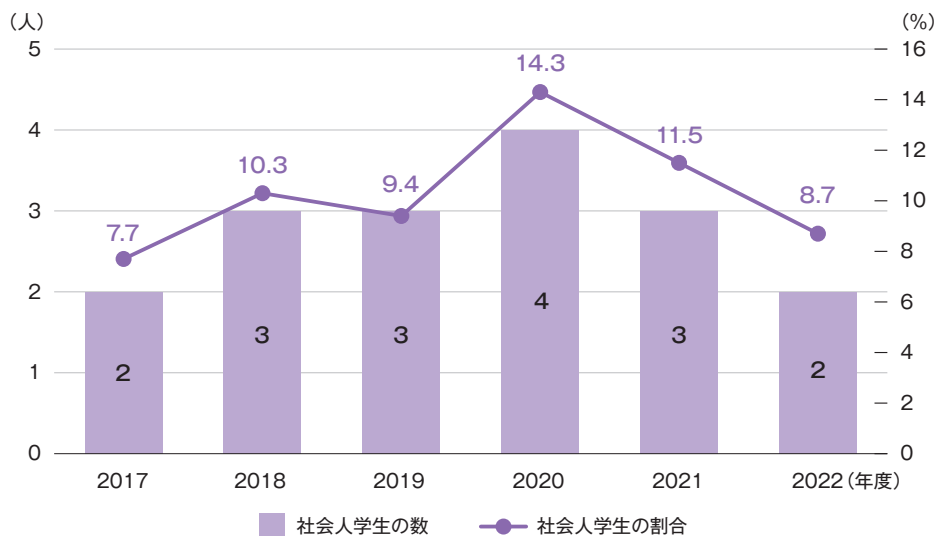
注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
注2：在籍基準日は3月31日

● 在籍学生数と収容定員充足率（在籍者数／収容定員）の推移



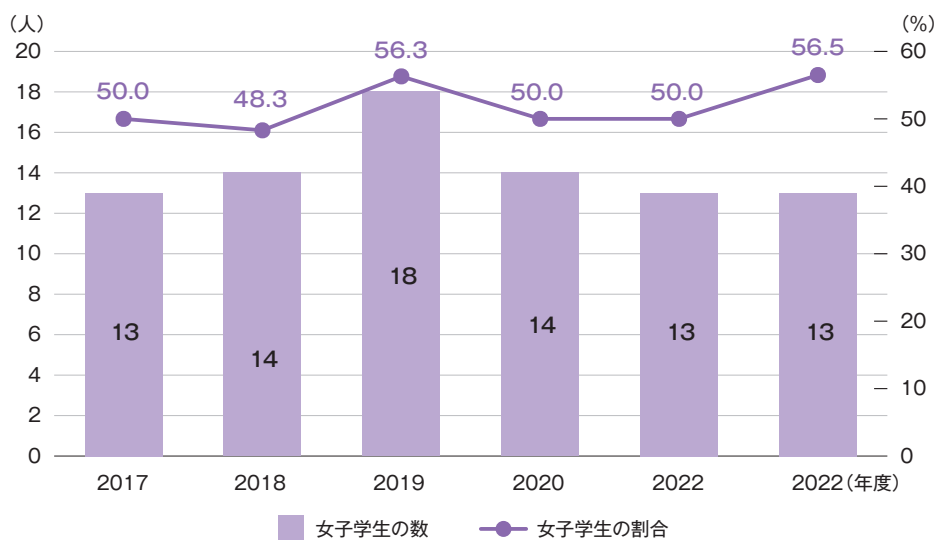
注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
注2：収容定員は各専攻9名の計18名
注3：在籍基準日は4月1日

● 社会人学生の数と割合



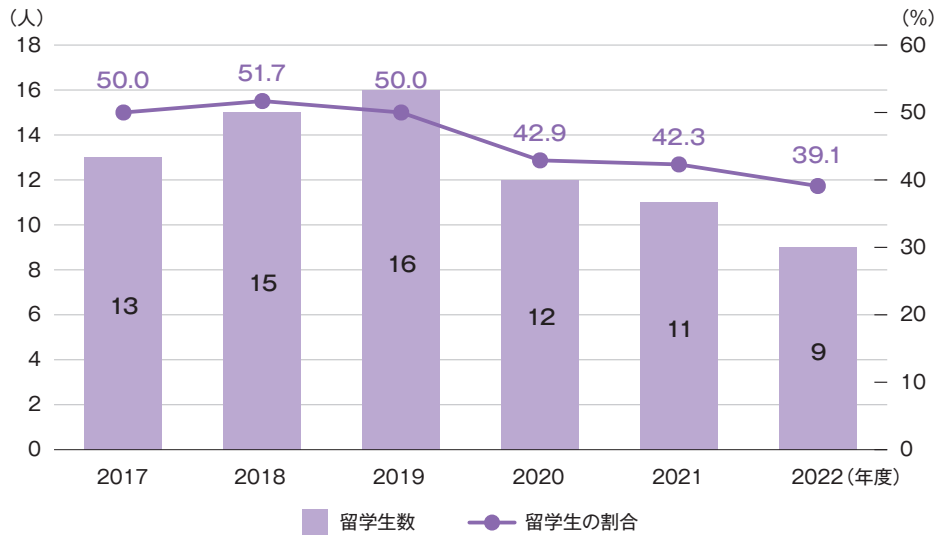
注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
注2：在籍基準日は3月31日

● 女子学生の数と割合



注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
注2：在籍基準日は3月31日

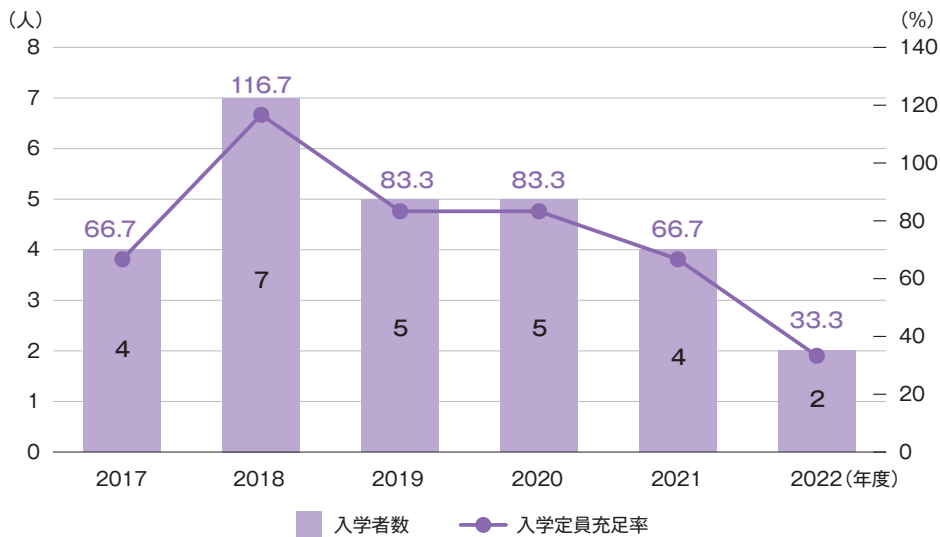
● 留学生の数と割合



注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
注2：在籍基準日は3月31日

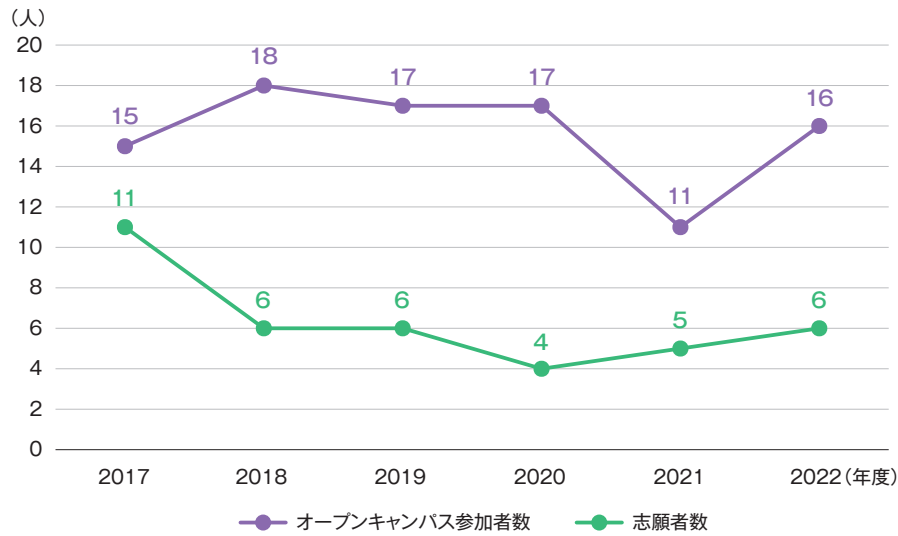
8-2 入学・志願状況

● 入学者数と定員充足率（入学者数／入学定員）の推移



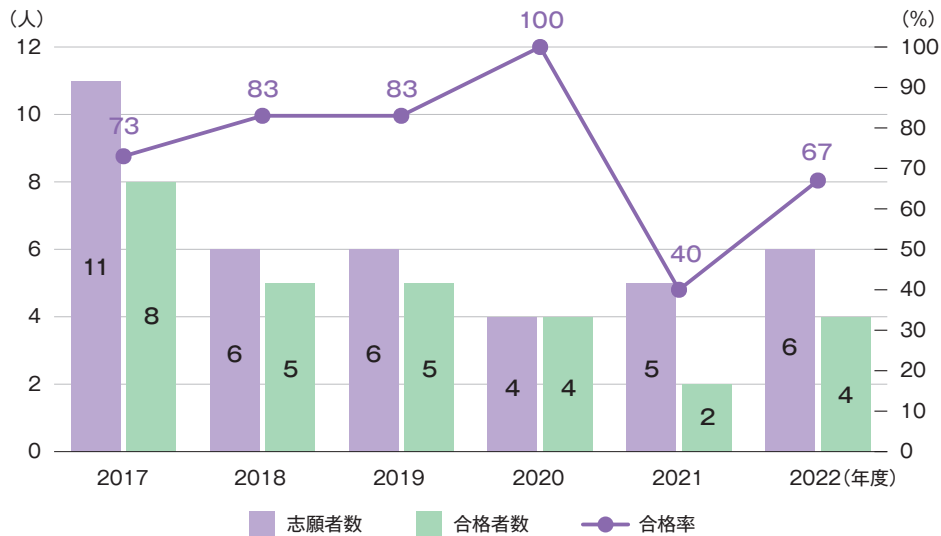
注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
注2：入学定員は各専攻3名の計6名
注3：入試実施年度ではなく、入学年度である

● オープンキャンパス参加者数と志願者数の推移



注1：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
 注2：入学年度ではなく、入試実施年度である

● 志願者数、合格者数、合格率の推移



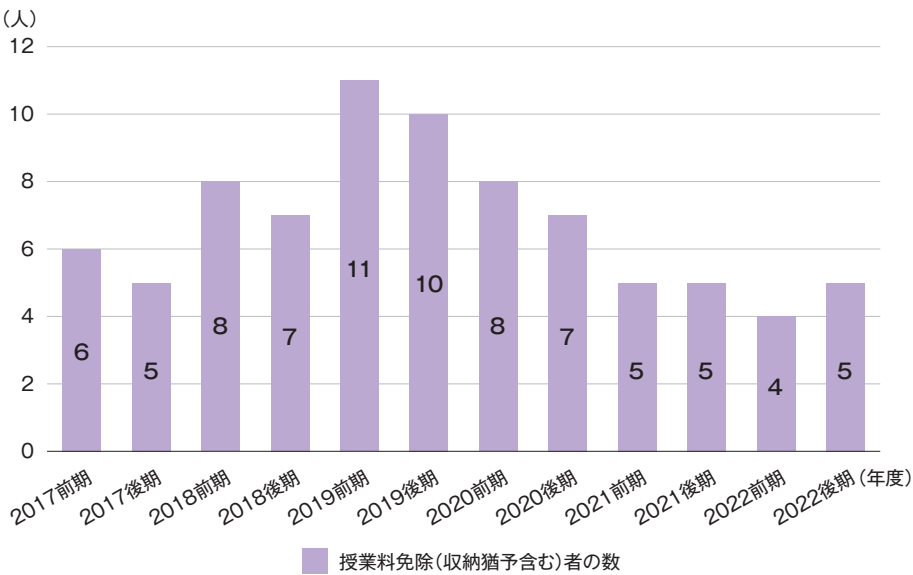
注1：2021年度以前：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの
 2022年度以降：人類文化研究コース
 注2：入学年度ではなく、入試実施年度である

8-3 学生支援状況

大学による授業料免除実施

経済的理由により入学金や授業料の納入が困難な学生に対する経済的支援としての、入学金・授業料免除（収納猶予）制度。

● 授業料免除者（徴収猶予者含む）数の推移

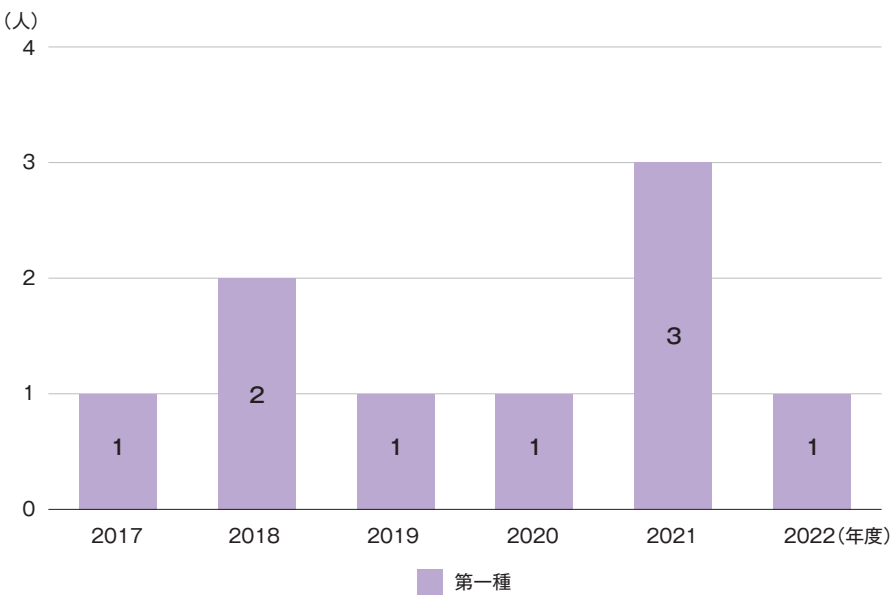


注1：全額免除者、半額免除者、徴収猶予者の合計
注2：地域文化化学専攻と比較文化化学専攻の数値を合わせたもの

日本学生支援機構（JASSO）奨学金

日本学生支援機構による奨学金制度。第一種（無利子で借りる）と第二種（有利子で借りる）がある。

● 日本学生支援機構（JASSO）奨学金の受給者数の推移



注1：地域文化化学専攻と比較文化化学専攻の数値を合わせたもの
注2：すべて第一種。第二種は該当者なし

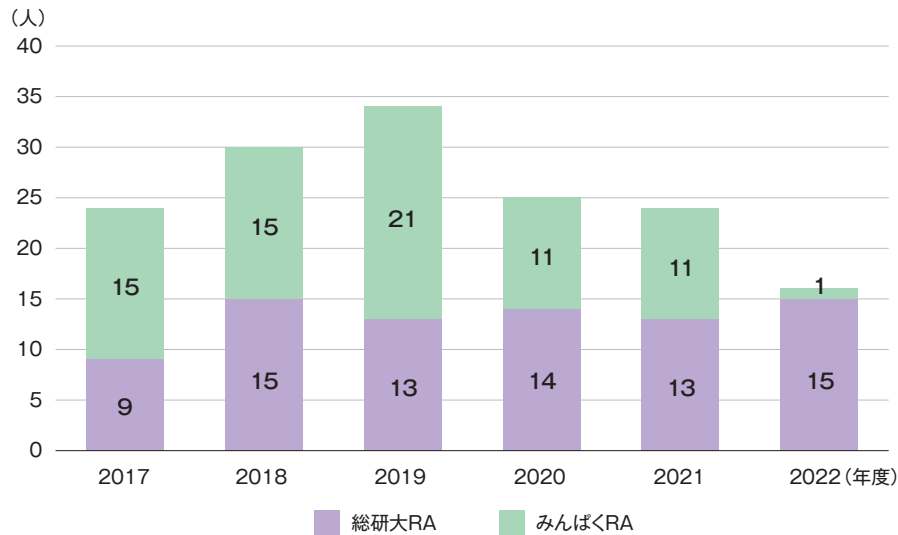
リサーチ・アシスタント (RA) 制度

本館教員の指示・監督の下、研究者の補助として研究活動に必要な様々な業務をおこないながら、給与を得る制度。

総研大 RA：地域文化学専攻・比較文化学専攻における教育研究プロジェクトにおける研究補助業務

みんなく RA：国立民族学博物館が主催するプロジェクトにおける研究補助業務

● リサーチ・アシスタント (RA) 従事者の推移



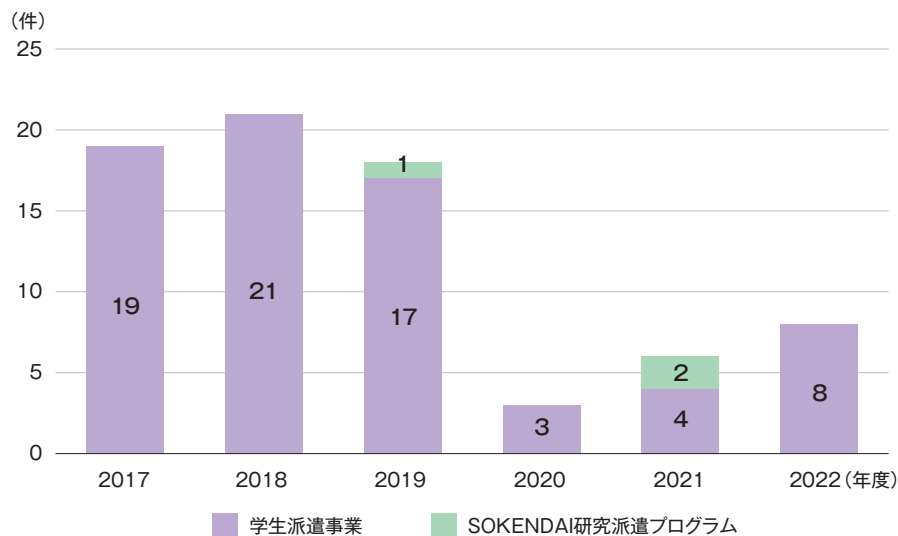
注：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

学生派遣プログラム

SOKENDAI 研究派遣プログラム (本部実施)：高い専門性と広い視野、国際通用性をそなえた研究者の育成を目的として、国内外の大学、研究機関、企業等における共同研究活動や調査活動等に必要な経費を支援する制度。

学生派遣事業 (専攻実施)：学位申請論文作成に不可欠な国内外の調査や学会での成果発表に要する旅費、宿泊費などの支援をおこなう。

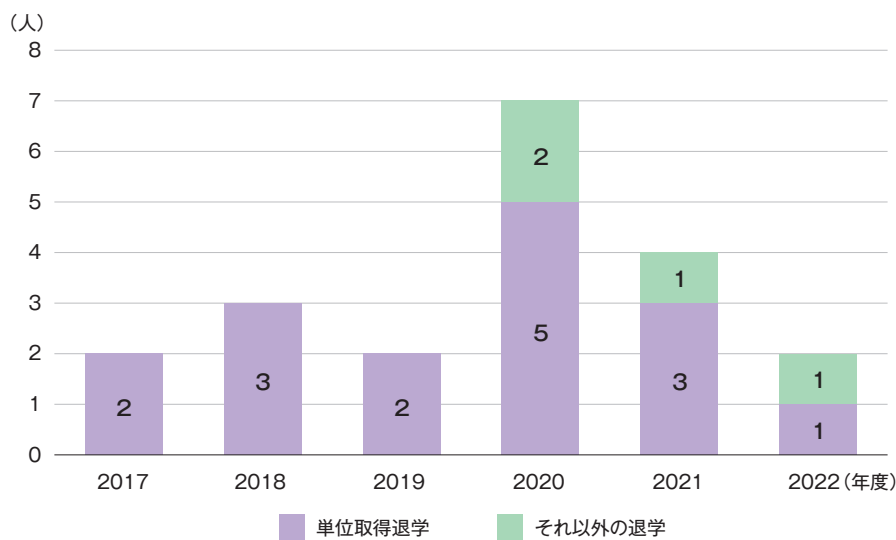
● 学生向け研究支援事業の実施件数の推移



注：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

8-4 退学者

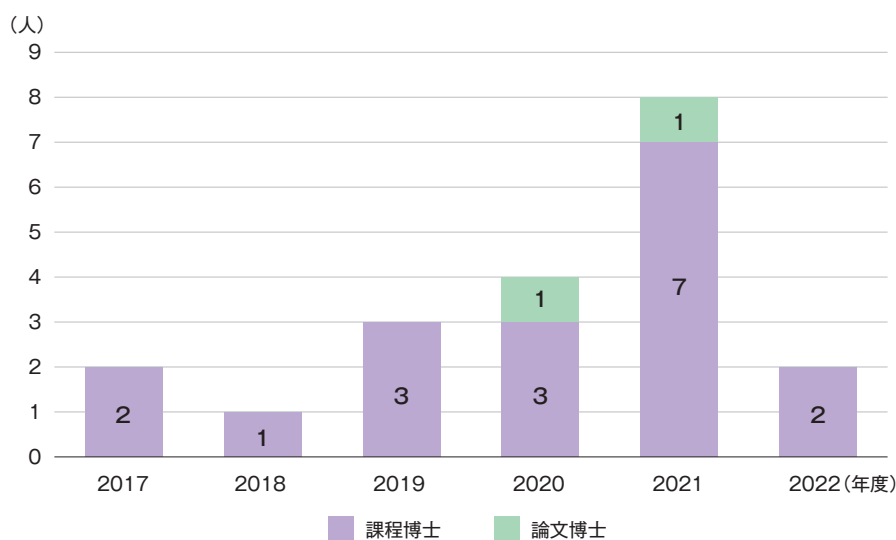
● 退学者数の推移



注：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

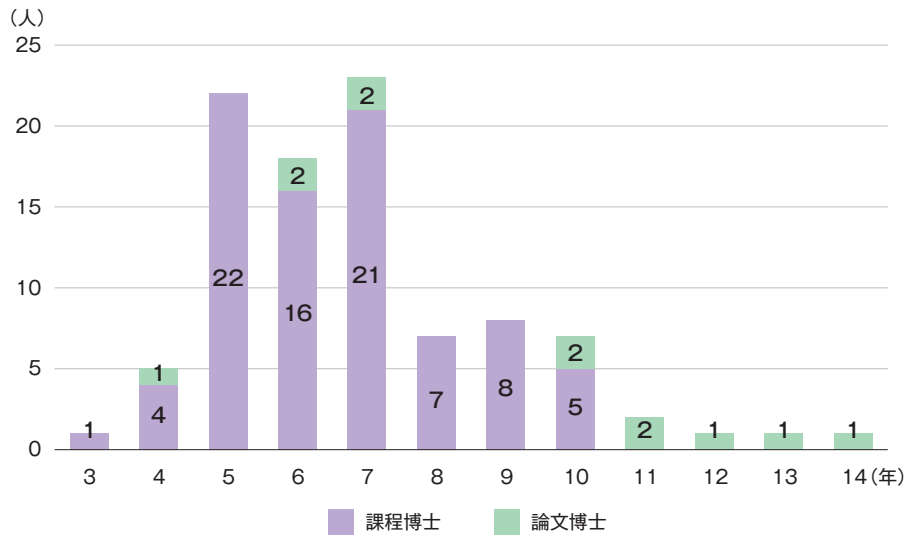
8-5 学位取得

● 学位取得者数の推移

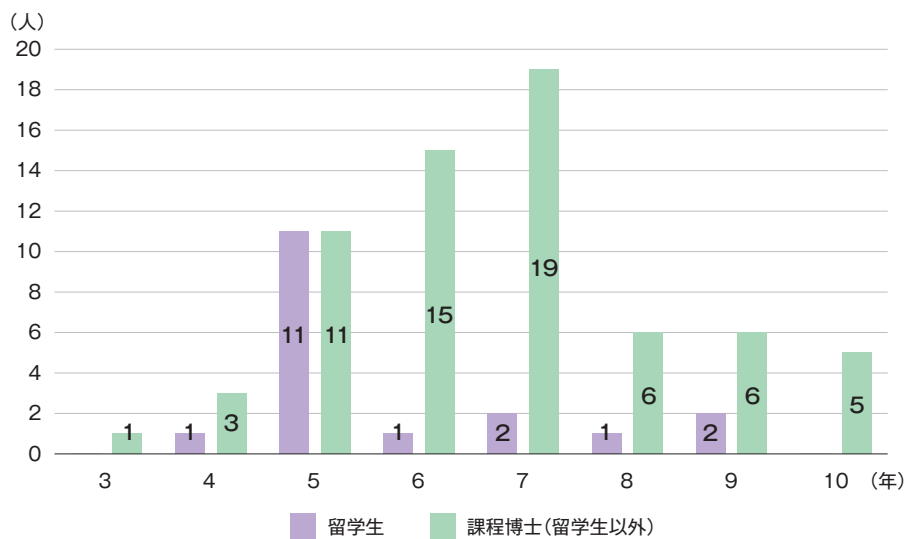


注：地域文化学専攻と比較文化学専攻の数値を合わせたもの

● 学位取得までの年数

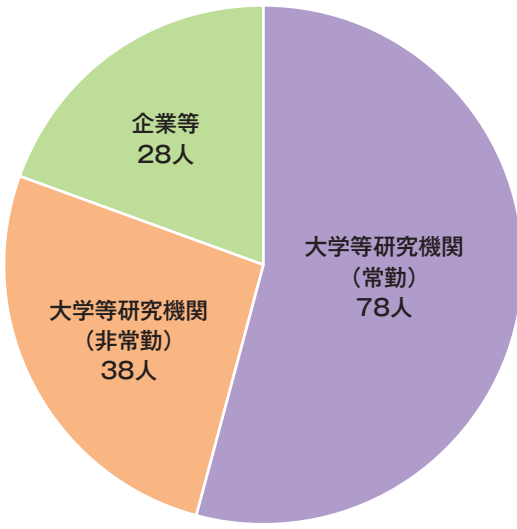


● 学位取得までの年数 (留学生とそれ以外の比較)



8-6 卒業後の進路・就職

● 修了生等の就職状況（令和4年10月1日現在）



注：地域文化化学専攻と比較文化化学専攻の数値を合わせたもの

9 業務運営

9-1 収入・支出

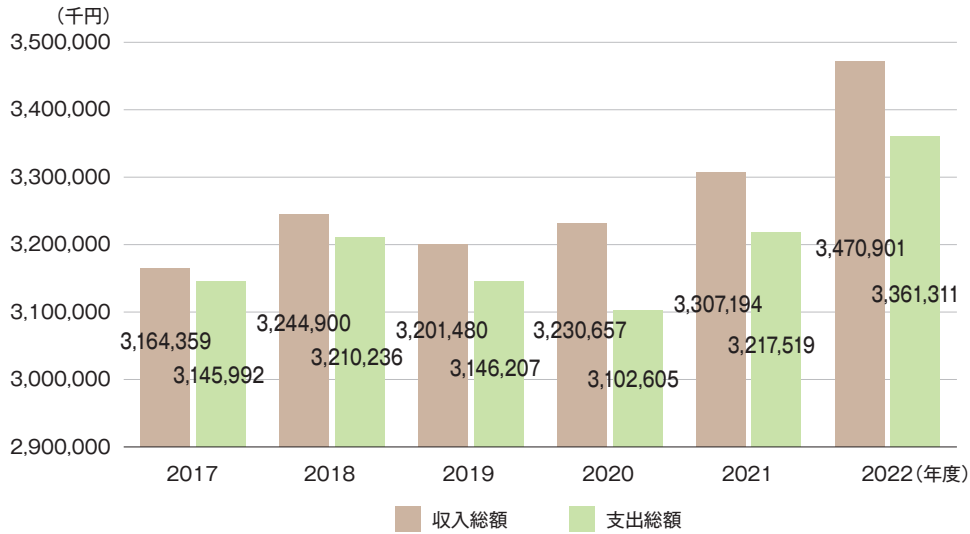
● 令和4年度 収支表

【収入】		(単位：千円)
項目	金額	
運営費交付金	2,705,925	
基幹運営費経費	2,502,492	
機構連携経費等	203,433	
自己収入（入場料等）	48,573	
総研大経費	46,247	
施設費	0	
補助金	200,652	
目的積立金	137,596	
科学研究費補助金（直接経費）	233,115	
科学研究費補助金（間接経費）	55,500	
寄付金	32,764	
共同研究・受託研究・受託事業	10,529	
合計	3,470,901	

【支出】		金額
項目	金額	
人件費	1,188,561	
物件費	1,802,508	
教育研究経費	325,461	
共同利用経費	998,278	
一般管理費	463,621	
大学院教育経費	15,148	
施設費（補助金含）	199,246	
共同研究・受託研究・受託事業	10,529	
科学研究費補助金（直接経費）	160,467	
合計	3,361,311	

※前年度繰越及び次年度繰越があるため、収入と支出の総額は一致しない

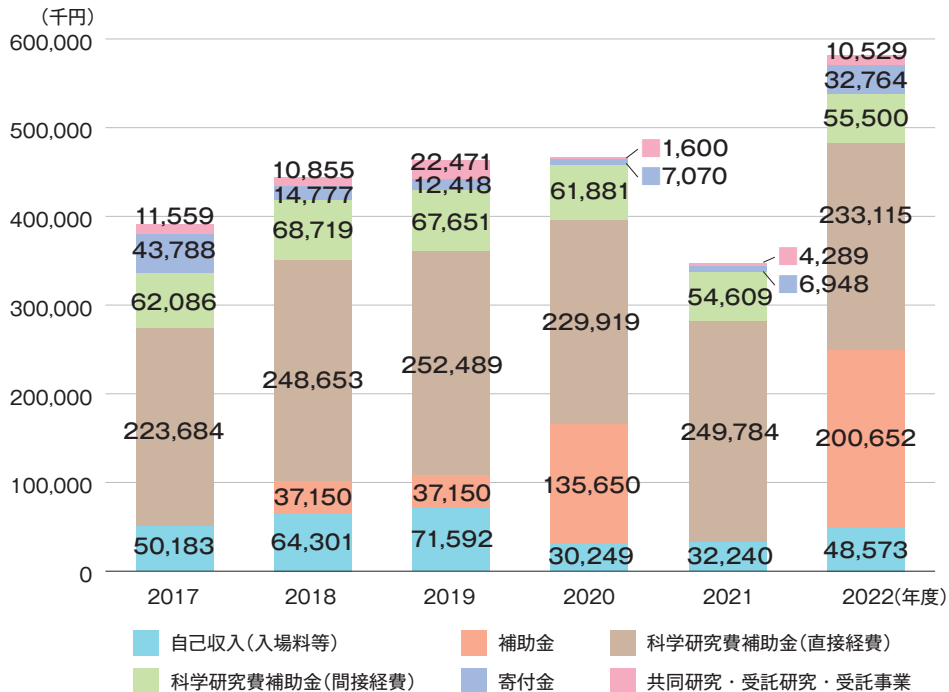
● 収入総額と支出総額の推移



注：前年度繰越および次年度繰越があるため、収入と支出の総額は一致しない

9-2 自己収入と外部資金受入額の推移

● 自己収入および外部資金受入額の推移



注：大阪府北部地震の影響による臨時休館
平成30年6月18日～8月22日
新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時休館
令和2年2月28日～令和2年6月17日
令和3年4月25日～令和3年6月23日

9-3 新型コロナウイルス感染症の影響について

組織

2019年に発生した新型コロナウイルス感染症は、2020年に入ってから世界中で感染が拡大し、世界的流行をもたらした。2020年4月7日には、大阪府が緊急事態措置を実施すべき区域に指定されるなど、みんぱくの活動にも大きな影響を与えた。

その影響は、教員、研究員、学生による現地調査の中止、学会参加や外国人研究員の招へい等の人的交流の停止、臨時閉館や団体の受入制限など博物館活動の停止や規模縮小、大学院における対面授業の中止など多岐にわたる。程度の違いこそあれ、このファクトブックで扱ったすべての項目が影響を受けたと考えられる。そのうち、特に影響を大きかった活動制限について下記にまとめる。

研究

新型コロナウイルス感染症による主な活動制限

- 臨時休館期間：
● 令和2年2月28日～令和2年6月17日
● 令和3年4月25日～令和3年6月23日
- 団体受入の停止期間：
● 令和2年2月28日～令和2年7月8日
● 令和3年4月25日～令和3年10月1日
- 図書室閉室期間：
● 令和2年2月28日～令和2年7月8日
● 令和3年1月15日～令和3年3月3日
● 令和3年4月25日～令和4年10月1日

共同利用

展示

国際連携

社会連携

産学連携

大学院教育

業務運営



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

